

飯田市議会要覧

令和5年6月

飯田市議会事務局

飯田市市民憲章

わたくしたちの飯田市は、美しい自然に恵まれ、長い歴史と尊い伝統文化に
つまれた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進してい
ます。

わたくしたちは、このまちの市民としての誇りをもち、明るく健康で豊かな
市民生活を築くために、全市民のねがいをこめてこの憲章をかかげ、たがい
はげましあい、手をとりあって進みます。

わたくしたちは

- 1 自然を大切にし、美しい環境の飯田市をつくります。
- 2 心身をきたえ、健康で明るい飯田市をつくります。
- 3 伝統を生かし、文化の香り高い飯田市をつくります。
- 4 善意を広め、思いやりの心で幸せな飯田市をつくります。
- 5 楽しく働き、豊かな産業の飯田市をつくります。

(昭和52年7月5日 施行)

市章 ～市章の象形～
平仮名「い」を組み合わせ
「田」を形どり「いいだ」
を象形する。



目次

I 沿革	
1 沿革	1
2 人口と世帯の推移	4
3 飯田市自治基本条例	5
II 市議会の構成	
1 構成	12
2 議員名簿	14
3 正副議長及び各委員会委員名簿	15
4 監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿	15
5 議会選出の各種委員等	16
6 各会派及び各会派の代表者氏名	18
III 市議会の活動	
1 市議会の活動状況	
(1) 市議会招集回数 10 か年比較表	19
(2) 議会開会状況	19
(3) 議会審議状況	20
2 報酬・その他	21
3 定期刊行物	22
4 市議会会議録	22
5 議会事務局の事務分掌	23
IV 飯田市の概要	
1 令和5年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要	24
2 飯田市行政組織機構図	32
3 職員の定数	34

【 資料編 】

V 市議会のあゆみ

1	市議会議員選挙執行状況	35
2	歴代市議会議員	
(1)	歴代議長	36
(2)	歴代副議長	37
(3)	歴代総務常任委員会正副委員長	38
(4)	歴代社会文教常任委員会正副委員長	39
(5)	歴代産業建設常任委員会正副委員長	40
(6)	歴代予算決算常任委員会正副委員長	41
(7)	歴代建設環境常任委員会正副委員長	41
(8)	歴代議会運営委員会正副委員長	42
(9)	歴代監査委員（議会選出）	43
(10)	歴代事務局長	44
(11)	歴代市議会議員	45
3	1年間の記録	
(1)	付議事件及び議決結果一覧表	52
(2)	議会において執行した選挙・選任等	59
(3)	委員会活動開催状況	59
(4)	請願陳情	60
(5)	定例会の質問事項	61
(6)	本会議等傍聴状況	91
4	市議会のあゆみ（昭和46年から）	92

VI 参考資料

1	都市宣言	111
2	市政提携に関する覚書	115
3	友好都市締結	115
4	飯田市の主要年表	116

I 沿革

1-1 飯田市の沿革

飯田市は、長野県の最南端に位置する伊那谷の中心都市である。諏訪湖に源を発し、伊那谷を南下して太平洋に注ぐ天竜川の全長のほぼ中央に位置し、東に南アルプス国立公園、西に中央アルプス県立公園をひかえ、豊かな自然、優れた景観及び四季に富んだ暮らしやすい温暖な気候に恵まれている。天竜川沿いに形成された日本有数の段丘に位置する市街地から南アルプスの山懐に抱かれる遠山郷までにわたる658.66平方キロメートルの市域に96,557人（令和5年4月1日現在）の人口を擁し、地域に根ざした特色ある住民活動や産業活動等が幅広く展開されている。

現在の飯田市街は飯田城の城下町であり、街並みの様相から「小京都」と呼ばれてきたが、昭和22年4月に市街地の3分の2を焼失する大火に見舞われた。以後面目を改め、防火モデル都市、さらに近年は環境モデル都市として注目されている。

近世の太宰春台、近代の菱田春草、田中芳男、河竹繁俊、日夏耿之介等学芸の士の生誕地であり、りんご並木のまち、人形劇のまちとして親しまれ、名勝天龍峡があり、豪快な天竜川下りが楽しめるほか、遠山郷の霜月まつり、各地に伝わる獅子舞など、伝統文化が豊富な地である。

昭和12年4月1日に飯田町と上飯田町が合併して市制を施行、以来、15町村と合併し、今日の飯田市の市域を成している。



「伊那谷の夜明け」とまで言われ、多くの市民が期待していた中央自動車道西宮線は、昭和50年8月23日に中津川一駒ヶ根間が開通し、昭和57年11月10日に全線開通となり、飯田地方と中京圏、首都圏との経済、文化の交流が飛躍的に拡大した。

また、東海地域と飯田を結ぶ三遠南信自動車道においては、平成6年3月29日に矢筈トンネルが、平成20年4月13日には飯田山本IC—天龍峡IC間が、平成30年3月11日には飯橋道路龍江—飯田上久堅・喬木富田IC間が、令和元年11月17日には天龍峡—龍江IC間が開通し、その後も全線開通を目指しての建設が進行している。

天龍峡—龍江IC間には、文化財保護法により国の重要文化財に指定される「名勝天龍峡」があり、この名勝の歴史ある良好な景観との調和を図るため、峡谷のV字地形に収まり、

背後のスカイラインを阻害しない「鋼上路式アーチ橋」の天龍峡大橋を整備した。名勝地を横断する自動車専用道の架橋事業は前代未聞のプロジェクトであった。

令和3年3月28日には、リニア中央新幹線開業時の広域観光支援を目的に、中央自動車道からのアクセスとして座光寺スマートインターチェンジが開通した。

2027年開業予定のリニア中央新幹線については、平成25年9月にルート及び長野県駅が飯田市上郷飯沼に設置される計画が公表され、令和4年8月には中央アルプストンネル松川工区本線トンネルの掘削工事が開始となった。長野県の南の玄関口、また、三遠南信地域の北の玄関口にふさわしいリニア駅とその周辺整備に向けた準備が進められている。

激的に近くなる首都圏と中京圏との連結地域として、ますます本市の果たす役割が期待される。

1-2 市議会の沿革

飯田市議会は、昭和31年に1市7か村を廃し、その区域をもって市制を施行したことに伴い、旧市村の議員が引き続き市議会議員（総員149人）として在任、同年10月8日に臨時会が開かれ、初代議長に代田源六郎氏、初代副議長に伊藤清氏が選出された。

市議会議員の定数は、昭和32年3月12日の定例会において「飯田市議会議員の選挙区及び各選挙区における議員の数に関する条例」（小選挙区制）を可決。以後、議員定数の見直しと合併による増員などの変遷を経てきた。

平成19年5月、新しい時代にふさわしい地方議会の在り方を模索する中で、市民にとってわかりやすく開かれた議会を目指し「議会改革検討委員会」を設置した。委員会では、「議員の在り方の変革を目指して」ほか5項目を議論する中、平成21年4月19日執行の議員選挙から定数を29人から23人に削減し、常任委員会の所属についても複数所属とし、一人の議員が二つの常任委員会に所属することとした。平成25年4月21日執行の議員選挙後は委員会活動をさらに充実させるため、議員は一つの常任委員会に所属することとした。

飯田市議会の取り組みとして最も注目されるのは、「飯田市自治基本条例」の制定である（平成19年4月施行）。その端緒は、平成15年5月の政策立案型議会への転換を目指した議会議案検討委員会の設置にある。翌16年5月には市民を委員として「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が発足。同会議は条例の制定に向けた研究を行い、その成果を最終答申書にまとめ、議長に提出した。これを受け市議会では翌17年5月に自治基本条例特別委員会を設置し、2度にわたる地区懇談会及び議会によるパブリックコメントの実施を経た後、平成18年9月に条例案を議会議案として提案し、全会一致で可決した。

この条例の制定を契機に、平成20年度から「議会による行政評価」がスタートするとともに、開かれた議会を実現するため「議会報告会」を毎年開催している。平成23年1月には、条例中の「議会の役割」について議会による検証が始まり、平成24年3月には、「議会改革・運営ビジョン」として取りまとめ、常設の機関として「議会改革推進会議」を設置するに至った。議会改革推進会議では、課題を整理し、平成25年3月に「議会改革・運営ビジョン実現に向けた取組み（まとめ）」として集約している。

その後、平成25年4月には議会報告会を含む広報広聴活動を充実させるため、「広報広聴委員会」を設置した。

平成30年12月、議会による予算決算審査のあり方についての研究を目的とした予算決算審査検討プロジェクトが発足した。以降、約半年間にわたるプロジェクト会議等を経て、令和元年5月の臨時会において、常任委員会として「予算決算委員会」を設置するとともに、「議会による行政評価」を予算決算委員会の所管とした。飯田市総合計画の「いいだ未来デザイン2028」に掲げられた前年度の戦略計画を中心に基本目標ごとの評価及び検証を行い、令和元年9月に市長へ提言書を提出した。

また、令和2年度においては、基本目標及び戦略計画を評価対象とした政策的評価と、決算審査を政策へつなげる事務事業評価の2層式による議会行政評価の取り組みを行い、「いいだ未来デザイン2028」の中期計画の策定に向けて提言書を市長に提出した。

令和3年2月の第1回定例会から「議会機能の強化」を目的に、議会ICT化を推進するため、タブレット端末を活用した議案審議を開始した。

令和4年2月の第1回定例会では、市議会委員会等の会議におけるオンライン会議の実施への対応として、災害や感染症まん延防止の点から、委員会などの会議においてオンライン会議を実施するため、飯田市議会委員会条例や会議規則などの改正を行った。

このことで、非常事態においても議会の機能が維持できる体制を整えることができた。

また、3月には、「地方議会成熟度評価モデル」の導入に向けて、大正大学の江藤俊昭教授を招き「キックオフ講演会」を開催。議会改革・運営ビジョンの策定から10年が経ち、社会環境が変化するなかで、これまでの制度・運用を再確認するとともに、議会の理想的な姿を明確にして議会改革を進める「地方議会成熟度評価モデル」に全議員で取り組み、令和5年3月までに飯田市議会に期待される役割（ミッション）や飯田市議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）などを明確にした「飯田市議会プロフィール」を作成した。

人形劇フェスタのイメージキャラクター「ぼお」です。太り気味の妖精でリンゴ並木に住んでいるそうです。



2 人口と世帯の推移

(単位：世帯・人・km²)

年 月	世帯数	人口	男	女	面積
昭和31. 9	14,627	69,235			199.78
昭和36. 3	16,018	69,538			206.07
昭和39. 3	19,179	79,541			293.03
昭和54. 4	20,870	77,860	36,794	41,066	〃
昭和59. 4	21,872	78,665	37,331	41,334	〃
昭和60. 4	26,458	92,132	43,776	48,356	299.23
昭和63. 4	26,709	92,050	43,810	48,240	〃
平成 1. 4	26,824	91,846	43,778	48,068	〃
平成 2. 4	27,033	91,806	43,721	48,085	298.90
平成 3. 4	27,277	91,723	43,739	47,984	〃
平成 4. 4	27,467	91,612	43,695	47,917	〃
平成 5. 4	27,732	91,684	43,819	47,865	〃
平成 6. 4	32,507	106,104	50,754	55,350	325.35
平成 7. 4	32,829	106,233	50,841	55,392	〃
平成 8. 4	33,183	106,472	50,991	55,481	〃
平成 9. 4	33,577	106,495	50,971	55,524	〃
平成10. 4	33,975	106,695	51,142	55,553	〃
平成11. 4	34,233	106,464	51,093	55,371	〃
平成12. 4	34,519	106,479	51,135	55,344	〃
平成13. 4	34,870	106,456	51,093	55,363	〃
平成14. 4	35,056	106,161	50,947	55,214	〃
平成15. 4	35,382	106,078	50,893	55,185	〃
平成16. 4	35,656	105,846	50,728	55,118	〃
平成17. 4	35,807	105,411	50,511	54,900	〃
平成18. 4	37,190	107,593	51,640	55,953	658.76
平成19. 4	37,395	106,993	51,253	55,740	〃
平成20. 4	37,787	106,770	51,138	55,632	〃
平成21. 4	37,682	105,867	50,693	55,174	〃
平成22. 4	37,801	105,372	50,407	54,965	658.73
平成23. 4	37,886	104,771	50,146	54,625	〃
平成24. 4	38,087	104,291	49,931	54,360	〃
平成25. 4	39,040	105,750	50,445	55,305	〃
平成26. 4	39,108	104,954	50,076	54,878	〃
平成27. 4	39,358	104,284	49,884	54,400	658.66
平成28. 4	39,656	103,712	49,623	54,089	〃
平成29. 4	39,711	103,023	49,343	53,680	〃
平成30. 4	39,735	102,012	48,859	53,153	〃
平成31. 4	39,896	101,111	48,630	52,481	〃
令和 2. 4	39,962	100,008	48,150	51,858	〃
令和 3. 4	40,064	98,921	47,709	51,212	〃
令和 4. 4	40,076	97,750	47,145	50,605	〃
令和 5. 4	40,151	96,557	46,679	49,878	〃

※平成25.4以後は住民基本台帳法の改正により外国人を含む数字

特記事項

- ・昭和31年 9月 : 飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村及び下久堅村の1市7か村を合併
- ・昭和36年 3月 : 川路村を編入合併
- ・昭和39年 3月 : 上久堅村、千代村及び龍江村を編入合併
- ・昭和59年12月 : 鼎町を編入合併
- ・平成 5年 7月 : 上郷町を編入合併
- ・平成17年10月 : 上村及び南信濃村を編入合併
- ・平成22年 2月 : 天龍村との境界を修正
- ・平成26年10月 : 国土地理院が、計測方法を変更したことによる面積の修正

飯田市自治基本条例

平成18年9月21日条例第40号

一部改正：平成23年11月30日条例第25号

一部改正：平成25年3月25日条例第2号

一部改正：令和2年12月25日条例第39号

目次

前文

- 第1章 総則（第1条—第3条）
- 第2章 自治の基本原則（第4条—第7条）
- 第3章 市民等の役割（第8条—第10条）
- 第4章 地域自治（第11条—第15条）
- 第5章 市政運営（第16条—第21条）
- 第6章 市議会の役割（第22条—第27条）
- 第7章 市の執行機関の役割（第28条—第34条）
- 第8章 住民投票（第35条）
- 第9章 条例の見直し（第36条）

附則

わたくしたちの住む飯田市は、美しい自然に恵まれ、地域の風土に根付いた伝統や文化に支えられた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、これまで互いに助け合い協力し、特色のある地域活動やまちづくりを実践してきました。

わたくしたちは、分権型社会や少子高齢社会の到来により、社会構造が大きく変化する中で、まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神を、次の時代へ確実に引き継がなくてはなりません。

わたくしたちは、飯田市市民憲章にうたわれた市民としての心構えと理念を尊重し、協働して、市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、ここに、新たな自治の仕組みを定める飯田市自治基本条例を制定します。

第1章 総則

（目的）

第1条 この条例は、本市の自治の基本的な原則及びまちづくりに関する市民、市議会及び市の執行機関の役割を明らかにするとともに、市政運営についての基本的な指針を定めることにより、市民が主体のまちづくりを協働して推進することを目的とします。

（条例の位置付け）

第2条 この条例は、自治及び市政に関する基本的な原則を定めた最高規範であり、市民及び市は、この条例を誠実に遵守するものとします。

2 市は、条例、規則等を解釈し、又は制定、改廃する場合には、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

3 市は、基本構想等の計画の策定、政策の立案及び実施に当たっては、この条例の趣旨を尊

重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

(用語の定義)

第3条 この条例において使用する用語の意義は、次のとおりとします。

- (1) 市民 市内に住所を有する人(以下「住民」といいます。)、市内で働き、若しくは学ぶ人又は市内において活動する人若しくは団体をいいます。
- (2) 市民組織 市民により自主的に形成され、まちづくりのために、互いに協力し多様な活動を行う組織をいいます。
- (3) 事業者 市内で、事業を営む個人及び法人その他の団体をいいます。
- (4) 市 市議会及び市の執行機関で構成する地方公共団体をいいます。
- (5) 市の執行機関 市長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会をいいます。
- (6) まちづくり 「ムトス」の言葉に象徴される、まちを活気のある明るく住みよくするための事業や活動を総称します。
- (7) 自治 市民が市政に参加し、その意思と責任に基づき市政が行われることのほか、地域の公共的活動を自ら担い、主体的にまちづくりを推進することをいいます。
- (8) 協働 まちづくりのために、市民と市とが情報を共有し、それぞれの役割を担いながら対等の立場で協力し、共に考え行動することをいいます。
- (9) 基本構想 本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本となる考え方をいいます。

第2章 自治の基本原則

(自治の基本原則)

第4条 市民と市とは、この章に掲げる自治の原則に基づき、協働して自治を推進するものとします。

(市民主体の原則)

第5条 まちづくりは、市民一人ひとりが主体となり、市民相互及び市と協調することにより推進します。

2 市民は、地域社会の一員として尊重され、その個性や能力を十分発揮することができます。

(情報共有の原則)

第6条 まちづくりは、市政についての情報が市民に公開され、市民が市政について意見を提出し、その情報や意見を市民と市とが共有することにより推進します。

(参加協働の原則)

第7条 まちづくりは、市民に市政への多様な参加の場と機会とが保障され、市民と市とが適切に役割分担し、協働することにより推進します。

第3章 市民等の役割

(市民の権利)

第8条 市民は、まちづくりの主体として、まちづくりに参加する権利を有します。

2 市民は、市政に関する計画や政策の立案段階から参加する権利を有し、意見を述べること

ができます。

- 3 市民は、市政についての情報を知る権利を有し、市に対し市が保有する情報の公開を求めることができます。

(市民の役割)

第9条 市民は、まちづくりの主体として、市と協働し、地域社会の発展に寄与するよう努めます。

- 2 市民は、互いの活動を尊重し、自らの発言と行動に責任を持つものとします。

(事業者の役割)

第10条 事業者は、地域社会の一員として、地域社会との調和を図るとともに、従業員の行う地域活動にも配慮し、まちづくりに寄与するものとします。

第4章 地域自治

(市民組織の尊重)

第11条 市は、市民組織の自主性及び自立性を尊重し、市民組織が活動するために必要な支援を行います。

- 2 市民は、市民組織がまちづくり推進の主要な担い手であることを認識し、市民組織を尊重し、守り育てるものとします。

(地域自治の推進)

第12条 市は、地域の特性と自主性が生かされた、個性豊かで魅力ある地域のまちづくりを推進するため、自治の基本原則に基づき、分権によるまちづくりの仕組みを目指します。

(地域自治区)

第13条 市は、市民に身近な事務事業を市民の意見を反映させて処理するとともに、地域の自治を促進するため、法律に基づく地域自治区を設けます。

- 2 地域自治区に置かれる地域協議会は、地域の住民により構成され、地域の意見を調整し、協働によるまちづくりを推進します。

(まちづくりのための委員会等)

第14条 市は、市民組織が地域のまちづくりに取り組むため組織する委員会等の自主的及び自立的な運営を尊重します。

(自治活動組織)

第15条 市民は、地域社会の一員として、自治活動組織（地域市民により形成され、まちづくりに取り組む市民組織をいいます。）の役割について理解を深め、協力するとともに、自治活動組織への加入に努めます。

- 2 市民は、可能な範囲内で、自治活動組織の活動に参加し、地域社会において個性や意欲を發揮することができるものとします。
- 3 自治活動組織は、地域市民の加入や参加が促進されるために必要な環境づくりに努めます。

第5章 市政運営

(協働して行う市政運営)

第16条 市は、市政に関する計画や政策の立案段階から市民の参加を促進し、市民と協働して市政運営を行います。

2 市は、市民の多様な参加の機会を整備し、協働のまちづくりを推進し、自治の拡充を図ります。

(市民意見の公募)

第17条 市は、別に定めるところにより、重要な計画及び政策の策定又は変更について事前に案を公表し、市民の意見を求めます。

2 市は、市民から提出された意見を尊重し、意見についての考え方を公表します。

(附属機関の委員の任命)

第18条 市の執行機関は、特定事項について審議又は調査等を行う附属機関に、市民の多様な意見が反映されるように委員を任命します。

(情報の公開)

第19条 市は、公正で開かれた市政の実現を図るため、市政についての情報の公開に関する総合的な施策に基づき、積極的に情報を公開します。

2 市は、市民の必要とする情報について、適切かつ速やかな提供に努めます。

(個人情報の保護)

第20条 市は、市民の個人情報に関する権利を保障するとともに、個人情報を適正に管理します。

(基本構想等)

第21条 市は、まちづくりの理念に基づき、市議会の議決を経て基本構想を定め、総合的かつ計画的な市政運営に努めます。

2 市は、基本構想、基本計画その他市の施策の基本となる計画を策定するに当たっては、市民参加の機会を保障します。

第6章 市議会の役割

(市議会の責務)

第22条 市議会は、市民の代表機関として、市という団体の意思決定機関であり、法律若しくはこれに基づく政令又は条例の定めるところにより議決の権限を行使し、市民の意思が的確に反映されるよう活動します。

2 市議会は、市の執行機関の活動を監視、評価することにより、適正な行政運営の確保に努めます。

3 市議会は、政策の立案、提言の内容の充実を図るための調査研究活動に努めます。

4 市議会は、合議体として論点、課題等について議論を深めるため、議員相互間の自由な討議を重んじて活動します。

(開かれた議会運営)

第 23 条 市議会は、市議会が保有する情報を公開するとともに、会議及び委員会等を公開し、並びに議会活動について市民に説明することにより、市民との情報の共有に努めます。

2 市議会は、市民の意見を聞くため議会活動への市民参加を推進し、市民に開かれた議会運営に努めます。

3 市議会は、市民への議会活動の報告、市民との意見交換の場の開催等を通じ、前 2 項に規定する事項の実現に努めます。

(市議会議長の責務)

第 24 条 市議会議長は、市議会を代表し、公正中立に職務を遂行するとともに、円滑かつ効率的な議会運営を図るよう努めます。

2 市議会議長は、市議会に関する事務を統一的に処理するため、議会事務局の職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(市議会議員の責務)

第 25 条 市議会議員は、市民の意向把握や情報収集に努め、市民全体の利益を優先して政策提言を行います。

2 市議会議員は、政治倫理の確立に努め、公正かつ誠実に責務を遂行し、市民の負託にこたえます。

3 市議会議員は、市議会の役割及び責務を自覚し、その誠実な遂行のため自己研鑽に努めます。

(政策の調査、審議のための機関)

第 26 条 市議会は、政策の調査、立案のために必要な専門的事項に係る調査、審議を、学識経験を有する者等に求めることができます。

2 市議会は、前項の学識経験を有する者等の指定に当たっては、市民の多様な意見が反映されるようにします。

(市議会事務局職員の責務)

第 27 条 市議会事務局職員は、市議会の持つ権能が十分発揮されるよう、全力をあげて市議会の活動を補佐します。

2 市議会事務局職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

第 7 章 市の執行機関の役割

(市長の責務)

第 28 条 市長は、市の代表者として公正かつ誠実に市政を運営します。

2 市長は、自治の基本原則に基づき、市の計画及び政策の策定、実施、評価等を行います。

(市の執行機関の責務)

第 29 条 市の執行機関は、条例、予算その他の議会の議決に基づく事務及び法令、規則その他の規程に基づく事務を適正に管理、執行します。

(市の執行機関の組織運営)

第 30 条 市の執行機関は、行政組織について効率的かつ機能的なものとするとともに、相互の連携を図り、最小の経費で最大の行政効果を上げるよう運営します。

2 市の執行機関は、職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(説明責任)

第 31 条 市の執行機関は、行政運営の透明性を高めるため、市政について、市民に分かりやすく説明する責任を果たします。

2 市長その他の執行機関は、市議会に対して、市政に関する意思決定の過程及び行政運営の状況を随時報告するものとします。

(行政評価)

第 32 条 市の執行機関は、市の施策や事務事業の執行状況を、基本構想等に基づき検証し、継続的な見直しを行い、効果的に執行します。

2 市の執行機関は、施策や事務事業の達成状況を公表し、市民から理解を得られる行政運営を進めます。

(財政状況の公表)

第 33 条 市長は、市の財源の確保とその効率的かつ効果的な運用により、財政の健全性に努めます。

2 市長は、財政状況を市民にわかりやすく公表するように努めます。

(市の執行機関の職員の責務)

第 34 条 市の執行機関の職員は、全体の奉仕者として、公平、公正かつ誠実に、全力をあげて職務を遂行します。

2 市の執行機関の職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

第 8 章 住民投票

(住民投票)

第 35 条 市は、市政の特に重要な事項について、直接住民の意思を確認する必要があるときは、市議会の議決を経て住民投票を実施することができます。

2 市は、住民投票の結果を尊重します。

3 住民投票の実施に関し必要な事項は、その都度条例で定めます。

第 9 章 条例の見直し

(条例の見直し)

第 36 条 市は、社会の変化に対応して、本条例が第 1 条の目的を達成するために必要があるときは、条例の見直しを行います。

附 則

この条例は、平成 19 年 4 月 1 日から施行します。

附 則 (平成 23 年 11 月 30 日条例第 25 号)

この条例は、公布の日から施行する。

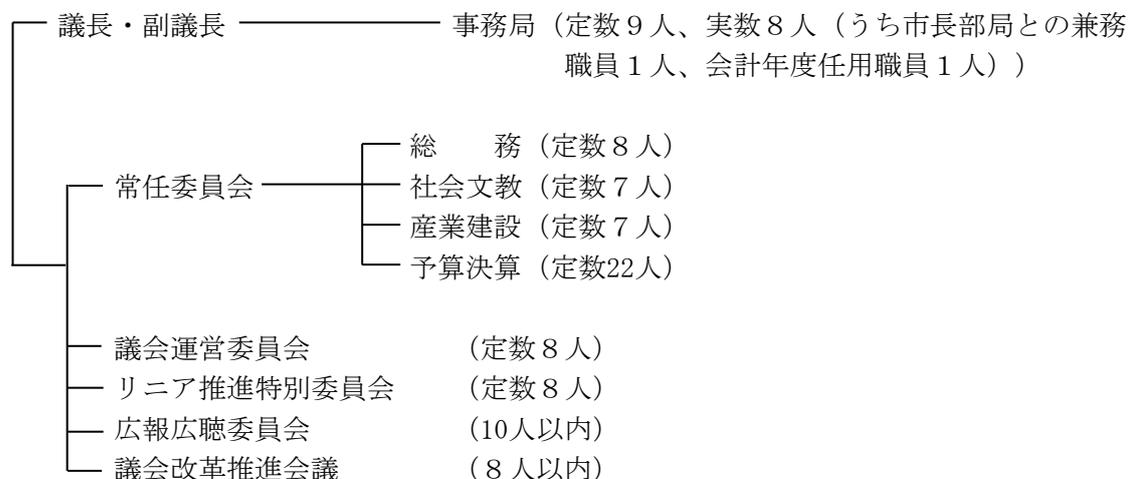
附 則 (平成 25 年 3 月 25 日条例第 2 号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（令和 2 年 12 月 25 日条例第 39 号）
この条例は、公布の日から施行する。

II 市議会の構成（令和5年5月31日現在）

1 構成



(1) 常任委員会

ア 所管事項

- (ア) 総務委員会：総務部、企画部、市民協働環境部、危機管理部、会計管理者、選挙管理委員会、公平委員会、監査委員及び固定資産評価審査委員会の所管に属する事項並びに他の委員会の所管に属さない事項
- (イ) 社会文教委員会：健康福祉部及び教育委員会の所管に属する事項並びに病院事業に関する事項
- (ウ) 産業建設委員会：リニア推進部、産業経済部、建設部、上下水道局、水道局及び農業委員会の所管に属する事項
- (エ) 予算決算委員会：予算、決算及び行政評価に関する事項

イ 任期 2年

(2) 議会運営委員会

ア 所管事項

- (ア) 議会の運営に関する事項
- (イ) 議会の会議規則、委員会条例等に関する事項
- (ウ) 議長の諮問に関する事項

イ 任期 2年

(3) リニア推進特別委員会

ア 所管事項

リニア中央新幹線の推進に関する諸課題の研究調査に関する事項

イ 任期 2年

(4) 広報広聴委員会（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

- (ア) 議会広報紙の編集及び発行に関する事項
- (イ) 議会ホームページの管理運営に関する事項
- (ウ) インターネットを利用した会議公開に関する事項

- (エ) 会議傍聴の推進に関する事項
 - (オ) 市民への講座等の開催に関する事項
 - (カ) 議会報告会の企画運営及び市民意見の取扱いに関する事項
 - (キ) その他議会の広報に関する事項
- イ 任期 2年

(5) 議会改革推進会議（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

- (ア) 飯田市議会の改革に関する調査研究
- (イ) 議会改革・運営ビジョン（平成22年3月22日決定）の実践状況の検証
- (ウ) 議長又は議会運営委員会から諮問された事項に関する調査審議
- (エ) その他推進会議の設置の目的のために必要な事項

イ 任期 2年

(6) 議員

ア 任期 令和3年4月28日から令和7年(2025年)4月27日まで

イ 条例定数 23人

ウ 現員数 22人

(ア) 党派別

公明党 3人 日本共産党 2人 無所属 17人

(イ) 会派別

新政いいだ 8人 会派きぼう 5人 会派みらい 4人 公明党 3人
日本共産党 2人

2 議員名簿

番号	氏名	会派	期数	郵便番号	住所	自宅電話等
1	小平 彰	新政いいだ	1	395-0803	鼎下山1063番地 5	0265-22-1256
2	下平 恒男	新政いいだ	1	399-2561	駄科1300番地 3	0265-26-8045
3	橋爪 重人	新政いいだ	1	399-2607	下久堅南原84番地	0265-29-7173
4	西森 六三	会派きぼう	1	399-1311	南信濃和田1349番地	0260-34-2043
5	宮脇 邦彦	公明党	1	395-0152	育良町3丁目11番地2	0265-53-4465
6	関島 百合	会派みらい	1	395-0813	毛賀578番地	0265-23-7479
7	市瀬 芳明	日本共産党	1	399-2565	桐林2075番地 3	0265-26-6324
8	筒井 誠逸	新政いいだ	1	395-0001	座光寺3507番地	0265-22-1430
9	清水 優一郎	新政いいだ	2	399-2223	千栄531番地	0265-27-4858
10	岡田 倫英	会派きぼう	2	395-0023	江戸浜町3661番地12	0265-48-6074
11	福澤 克憲	会派きぼう	2	395-0025	東中央通5丁目20番地4	0265-53-1285
12	竹村 圭史	会派きぼう	3	395-0244	山本1407番地	0265-25-2247
13	小林 真一	公明党	2	399-2601	虎岩2207番地1	0265-29-8167
14	佐々木 博子	会派みらい	1	395-0806	鼎上山3705番地 2	0265-52-2260
15	古川 仁	日本共産党	3	395-0803	鼎下山677番地5	0265-53-3792
16	木下 徳康	新政いいだ	3	395-0813	毛賀366番地	0265-24-4932
17	山崎 昌伸	新政いいだ	3	395-0817	鼎東鼎292番地7	0265-23-0204
18	熊谷 泰人	新政いいだ	3	395-0075	白山通り3丁目391番地1	0265-53-4150
20	清水 勇	会派きぼう	5	399-2221	龍江2453番地1	0265-27-2569
21	永井 一英	公明党	5	395-0077	丸山町2丁目6725番地14	0265-23-4021
22	井坪 隆	会派みらい	7	395-0004	上郷黒田1826番地	0265-23-6421
23	原 和世	会派みらい	7	395-0244	山本4703番地1	0265-25-1216

年齢別議員数

(令和5年5月31日現在)

年齢	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
人員	0	0	4	6	10	2	22

当選回数別議員数

(令和5年5月31日現在)

当選回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	計
人員	9	4	5	0	2	0	2	22

3 正副議長及び各委員会委員名簿

(1) 議長及び副議長

(令和5年5月9日改選)

議 長	熊谷 泰人	副 議 長	竹村 圭史
-----	-------	-------	-------

(2) 委員会

(令和5年5月10日改選)

◎印……委員長 ○印……副委員長

委 員 会 名	委 員			
総務委員会 (7人)	◎清水優一郎 竹村 圭史	○小林 真一 木下 徳康	橋爪 重人 原 和世	岡田 倫英
社会文教委員会 (7人)	◎永井 一英 市瀬 芳明	○清水 勇 佐々木博子	小平 彰 井坪 隆	下平 恒男
産業建設委員会 (7人)	◎福澤 克憲 関島 百合	○古川 仁 筒井 誠逸	西森 六三 山崎 昌伸	宮脇 邦彦
予算決算委員会 (21人)	◎竹村 圭史	○永井 一英	ほか議長を除く全議員	
議会運営委員会 (8人)	◎井坪 隆 小林 真一	○山崎 昌伸 木下 徳康	関島 百合 清水 勇	福澤 克憲 永井 一英
リニア推進特別委員会 (8人)	◎清水 勇 筒井 誠逸	○木下 徳康 岡田 倫英	橋爪 重人 福澤 克憲	宮脇 邦彦 井坪 隆
広報広聴委員会 (8人)	◎岡田 倫英 西森 六三	○山崎 昌伸 宮脇 邦彦	小平 彰 関島 百合	橋爪 重人 市瀬 芳明
議会改革推進会議 (8人)	◎古川 仁 清水優一郎	○井坪 隆 福澤 克憲	下平 恒男 小林 真一	筒井 誠逸 佐々木博子

4 監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿

(1) 監査委員 (選任に同意)

(令和3年5月19日選任)

推 薦 基 準	氏 名
議員から1人を推薦 市長が議会の同意を得る。	原 和世

(2) 南信州広域連合議会議員

(令和5年5月10日選任)

推薦基準	任期	氏名
議員から12人 正副議長(2) 3 常任委員長(3) 会派按分(7)	4年(議員の任期) (2年で改選)	熊谷 泰人 竹村 圭史 清水 優一郎 永井 一英 福澤 克憲 岡田 倫英 小林 真一 古川 仁 木下 徳康 山崎 昌伸 清水 勇 井坪 隆

3 常任・・・総務、社会文教、産業建設

5 議会選出の各種委員等

(1) 附属機関等の委員名簿

(令和5年5月10日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
民生委員推薦会 (2人)	社文正副委員長	在職期間	永井 一英 清水 勇
都市計画審議会 (5人)	総務1・社文1 産建2・ リニア1	在職期間	清水 優一郎 永井 一英 福澤 克憲 古川 仁 清水 勇
国民保護協議会 (3人)	3 常任委員長	在職期間	清水 優一郎 永井 一英 福澤 克憲

3 常任・・・総務、社会文教、産業建設

(2) その他の団体の役員

(令和5年5月10日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
天竜川上流治水促進 期成同盟会	議 長	在職期間	【理 事】熊谷 泰人
一般国道151号(飯田～豊 橋)改良促進期成同盟会	議 長	在職期間	【理 事】熊谷 泰人
一般国道153号改良期成 同盟会	議 長	在職期間	【理 事】熊谷 泰人
国道153号飯田南バイパス 整備促進期成同盟会	議 長	在職期間	【理 事】熊谷 泰人
長野県南部国道連絡会	議 長	在職期間	【会 員】熊谷 泰人
J R 飯田線活性化期成同 盟会	議 長 (南信州広域連合議長)	在職期間	【副会長】熊谷 泰人
リニア中央新幹線建設 促進飯伊地区期成同盟会 (7人)	正副議長 監査委員 3 常任・リニア 推進特別委員長	在職期間	【副会長】熊谷 泰人 【監 事】原 和世 【理 事】竹村 圭史 清水 優一郎 永井 一英 福澤 克憲 清水 勇
国道152号整備促進 期成同盟会(2人)	議 長 産建委員長	在職期間	【理 事】熊谷 泰人 福澤 克憲

国道256号改良促進 期成同盟会（3人）	正副議長 産建委員長	在職期間	【理事】熊谷 泰人 福澤 克憲 竹村 圭史
国道418号整備促進 期成同盟会（4人）	正副議長 産建正副委員長	在職期間	【監事】熊谷 泰人 【理事】山崎 昌伸 福澤 克憲 古川 仁
三遠南信自動車道飯喬道 路3工区建設促進期成同 盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	在職期間 在任期間	【顧問】熊谷 泰人 【地区】福澤 克憲 橋爪 重人 小林 真一 竹村 圭史 古川 仁 清水 優一郎 清水 勇
三遠南信道路建設促進 南信地域期成同盟会 （3人）	正副議長 監査委員	在職期間	【副会長】熊谷 泰人 【理事】竹村 圭史 【監事】原 和世
主要地方道飯田富山佐久 間線改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	在職期間 在任期間	【監事】熊谷 泰人 【理事】竹村 圭史 福澤 克憲 橋爪 重人 小林 真一 古川 仁 清水 優一郎 清水 勇
主要地方道飯島飯田線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 座光寺・上郷・橋北 ・橋南・羽場・丸山・ 東野・鼎・伊賀良	在職期間 在任期間	【監事】熊谷 泰人 【理事】竹村 圭史 福澤 克憲 小平 彰 筒井 誠逸 佐々木 博子 永井 一英 古川 仁 宮脇 邦彦 岡田 倫英 山崎 昌伸 井坪 隆
主要地方道飯田南木曾線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・ 丸山・東野	在職期間 在任期間	【理事】熊谷 泰人 【監事】竹村 圭史 福澤 克憲 岡田 倫英 古川 仁 永井 一英
県道上飯田線改良促進期 成同盟会	議長	在職期間 在任期間	【理事】熊谷 泰人
飯田市遠山郷国道整備促 進期成同盟会	地区出身議員 上村・南信濃	在任期間	【顧問】西森 六三
県道田中乱橋線改良促進 期成同盟会	地区出身議員 川路・山本・三穂	在任期間	【顧問】竹村 圭史 原 和世
県道親田中村線改良促進 期成同盟会	地区出身議員 山本・三穂・伊賀 良	在任期間	【顧問】竹村 圭史 宮脇 邦彦 原 和世
広域幹線林道千遠線 開設期成同盟会（2人）	議長 産建委員長	在職期間	【委員】熊谷 泰人 福澤 克憲
南信州東部軸道路整備 促進期成同盟会	議長	在職期間	【理事】熊谷 泰人
松尾浄化管理センター 連絡協議会	正副議長 産建委員長 地区出身議員 松尾	在職期間	【委員】熊谷 泰人 福澤 克憲 【地区】関島 百合 竹村 圭史 木下 徳康

3 常任・・・総務、社会文教、産業建設

(3) 議員による任意の団体

名 称	基準	任期	氏 名
森林・林業・林産業活性化 促進議員連盟 (林業活性化推進飯田市 議員連盟)	各会派1 ※5名以上の会 派は2	2年	【会 長】木下 徳康 【副会長】西森 六三 【幹 事】下平 恒男 宮脇 邦彦 関島 百合 古川 仁 原 和世 【会 員】全市議会議員
飯伊地区森林・林業・林 産業活性化促進議員連盟	※R3年から上 記会長が監事 となる 全市議会議員	2年	【監 事】木下 徳康 【会 員】全市議会議員
スポーツ振興議員連盟	各会派1 ※5名以上の会 派は2	2年	【会 長】岡田 倫英 【副会長】小平 彰 【幹 事長】橋爪 重人 【事務局長】市瀬 芳明 【幹 事】宮脇 邦彦 佐々木博子 【会計監査】原 和世 【会 員】全市議会議員
三遠南信、浜松三ヶ日・豊 橋道路建設促進議員協議会	賛同議員	在任期間	【会 員】全市議会議員

6 各会派及び各会派の代表者氏名

会 派 名	代表者名	議員数	会 派 名	代表者名	議員数
新 政 い い だ	山崎 昌伸	8	会 派 き ぼ う	清水 勇	5
会 派 み ら い	井坪 隆	4	公 明 党	永井 一英	3
日 本 共 産 党	古川 仁	2			

Ⅲ 市議会の活動

1 市議会の活動状況

(1) 市議会招集回数10か年比較表

区 分		年 次									
		平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	平成 元	令和 2	令和 3	令和 4
招集回数	定例会	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	臨時会	1	1	1	0	1	0	1	2	4	2
会期日数		101	93	102	98	100	99	97	108	106	102
本会議日数		19	18	18	17	19	17	19	18	23	19
議案件数		228	226	208	172	173	194	198	176	173	153

(2) 議会開会状況（令和4年1月から令和4年12月まで）

	会 議	会 期	会期日数	本会議日数
1	第1回臨時会	令和4年 2月 1日 ~ 2月 1日	1	1
2	第1回定例会	令和4年 2月24日 ~ 3月22日	27	4
4	第2回定例会	令和4年 5月24日 ~ 6月17日	25	4
6	第3回定例会	令和4年 8月30日 ~ 9月21日	23	4
7	第2回臨時会	令和4年11月 7日 ~ 11月 7日	1	1
8	第4回定例会	令和4年11月22日 ~ 12月16日	25	5
計			102	19

(3) 議会審議状況（令和4年1月から令和4年12月まで）

区分		会別	第1回 臨時会	第1回 定例会	第2回 定例会	第3回 定例会	第2回 臨時会	第4回 定例会	計
市長 提出議案	予算・決算		2	18	2	16	1	6	45
	条例		0	10	7	4	0	12	33
	その他		0	9	6	6	0	10	31
	計(A)		2	37	15	26	1	28	109
議員又は 委員会 提出議案	条例		0	1	0	0	0	0	1
	その他		0	3	0	3	0	0	6
	計(B)		0	4	0	3	0	0	7
報告	専決処分		2	1	11	7	3	0	24
	その他		0	0	11	2	0	0	13
	計(C)		2	1	22	9	3	0	37
審議件数(A+B+C)			4	42	37	38	4	28	153
議決状況	原案可決（同意・ 認定・承認を含む）		2	41	25	31	1	28	128
	報告（議決を要し ないもの）		2	1	12	7	3	0	25
	修正可決								0
	否決								0
	継続審査								0
	審議未了								0

2 報酬その他

(1) 報酬

(令和5年4月1日時点)

役職	報酬月額	役職	給料月額
議長	499,000円	市長	925,000円
副議長	436,000円	副市長	760,000円
議員	407,000円	教育長	669,000円
改定日	平成11年4月1日	改定日	平成27年12月24日

報酬額の改定推移

(単位：千円)

種別	改定年月日									
	S61 4.1	S62 4.1	S63 4.1	H 1 4.1	H 3 4.1	H 4 4.1	H 5 4.1	H 7 10.1	H 9 7.1	H11 4.1
議長	331	339	352	369	413	437	469	485	494	499
副議長	278	285	296	310	352	372	410	424	432	436
議員	259	266	277	290	325	343	383	396	403	407

(2) 期末手当

6月期支給額 報酬×1.45×165.0/100

12月期支給額 報酬×1.45×165.0/100

(3) 費用弁償

(6)の表の規定に基づき往復の交通費のみ支給する。

(4) 研修旅費

議員1人当り年額	
常任委員会	実費
議会運営委員会	実費

(5) 政務活動費

議員1人当り年額140,000円

(6) 飯田市議員等の旅費額

(平成4年4月1日改正)

旅費の区分 職務の区分	車 賃		日 当	宿 泊 料		食卓料 (1夜につき)
	交通機関 のある場 合	交通機関 のない場 合(1キロメ ートルにつき)		県内	県外	
議員、教育委員、選挙管理委員、 公平委員、監査委員、農業委員、 選挙長、固定資産評価審査委員及 び固定資産評価員	実費	円 37	円 2,600	円 11,800	円 13,100	円 2,600

3 定期刊行物

(1) 飯田市議会だより

ア 創刊 昭和46年4月1日

イ 発行回数 年4回(4月、7月、10月及び1月(定例会終了の翌月))。

ウ 発行部数 各31,000部

エ 印刷 オフセット印刷(A4版 1回平均12ページ)160号から表紙、裏表紙のみ
カラー刷り

(2) 飯田市議会要覧

ア 発行回数 年1回(例年6月発行)

イ 発行部数 50部

4 市議会会議録

(1) 各定例会及び臨時会の会議録

ア 発行回数 年4回(次回定例会の招集日までに発行)

イ 発行部数 38部

ウ 印刷 オフセット印刷(A4版)

(2) 全員協議会、常任委員会及び特別委員会の会議録

発行部数 1部

(3) 会議録検索システム

ア 平成4年第2回定例会以降の本会議、全員協議会、各委員会のデータが検索可能

イ 平成15年11月から、インターネットによる会議録検索に対応

5 議会事務局の事務分掌

(1) 庶務係

- ア 公印の管理に関する事。
- イ 文書の收受、発送及び保存に関する事。
- ウ 予算及びその経理に関する事。
- エ 議員の身分、人事、福利厚生、共済等に関する事。
- オ 議員の報酬、費用弁償等に関する事。
- カ 議長会等に関する事。
- キ 儀式及び交際に関する事。
- ク 議会関係各室の管理に関する事。
- ケ 職員の人事、服務、給与等に関する事。
- コ 議決証明等に関する事。
- サ 物品の出納保管に関する事。
- シ 議会乗用車の管理に関する事。
- ス 他の係の所管に属さない事項に関する事。

(2) 議事係

- ア 本会議に関する事。
- イ 常任委員会、特別委員会、協議会等に関する事。
- ウ 議会において行う選挙等に関する事。
- エ 公聴会、参考人等に関する事。
- オ 議案その他付議事件に関する事。
- カ 議員の出欠席に関する事。
- キ 議事日程及び諸報告に関する事。
- ク 請願及び陳情に関する事。
- ケ 会議録その他の会議記録の調製及び保管に関する事。
- コ 議会の傍聴に関する事。
- サ その他議事に関する事。

(3) 調査係

- ア 議会、委員会等から命じられた事項の調査に関する事。
- イ 市政の調査及び研究に関する事。
- ウ 各種資料の収集、整理及び発行に関する事。
- エ 議員の研修に関する事。
- オ 条例、規則等の制定及び改廃に関する事。
- カ 法令等の調査研究に関する事。
- キ 議会広報に関する事。
- ク 照会事項の回答に関する事。
- ケ 議会図書室に関する事。
- コ 視察に関する事。

IV 飯田市の概要

1 令和5年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要

令和5(2023)年度 飯田市各会計予算の総額

会 計 名		予 算 額		比 較	
		5年度(A)	4年度(B)	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
一 般 会 計		49,060,000	47,750,000	1,310,000	2.7
国民健康保険特別会計	事業勘定	8,697,200	9,025,900	△ 328,700	△ 3.6
	直診勘定	4,700	4,700	0	0.0
後期高齢者医療特別会計		1,548,000	1,468,700	79,300	5.4
介護保険特別会計		12,416,900	11,986,000	430,900	3.6
地方卸売市場事業特別会計		18,800	17,500	1,300	7.4
駐車場事業特別会計		48,000	56,300	△ 8,300	△ 14.7
墓地事業特別会計		13,800	13,900	△ 100	△ 0.7
介護老人保健施設事業特別会計		760,300	721,700	38,600	5.3
ケーブルテレビ放送事業特別会計		142,000	77,000	65,000	84.4
病院事業会計		16,663,000	16,917,800	△ 254,800	△ 1.5
水道事業会計		4,167,200	3,732,600	434,600	11.6
下水道事業会計		6,363,700	6,353,000	10,700	0.2
特別会計の計		50,843,600	50,375,100	468,500	0.9
計		99,903,600	98,125,100	1,778,500	1.8

(単位：千円、%)

主 　　な 　　内 　　容	
	一般
保険給付費 6,211,577 事業費納付金 2,239,244 総務費 123,756 保健事業費 78,044	国保
三穂診療所、上村歯科診療所	
後期高齢者医療広域連合納付金 1,518,129	後高
保険給付費 11,769,799 地域支援事業費 360,463	介護
卸売市場費 17,682	市場
市営駐車場運営管理 47,437	駐車
霊園運営管理 11,978	墓地
施設管理費 679,642 施設事業費 80,468	老施
竜東維持管理費 63,503 遠山郷維持管理費 75,909	ケテ
収益の収入 13,757,800 収益の支出 14,571,000 資本の収入 1,524,000 資本の支出 2,092,000	病院
収益の収入 2,111,900 収益の支出 1,978,200 資本の収入 1,121,600 資本の支出 2,189,000	水道
収益の収入 3,660,500 収益の支出 3,376,200 資本の収入 1,547,300 資本の支出 2,987,500	下水
	特会
	計

令和5(2023)年度 一般会計 歳入 (主要内容と増減内訳)

区 分	予 算 額		(A)の 構成比	増 減	
	5年度(A)	4年度(B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 市 税	13,315,000	13,104,000	27.1	211,000	1.6
2 地 方 譲 与 税	497,000	512,000	1.0	△ 15,000	△ 2.9
3 利 子 割 交 付 金	3,000	7,000	0.0	△ 4,000	△ 57.1
4 配 当 割 交 付 金	71,000	52,000	0.1	19,000	36.5
5 株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	37,000	61,000	0.1	△ 24,000	△ 39.3
6 法 人 事 業 税 交 付 金	276,000	230,000	0.6	46,000	20.0
7 地 方 消 費 税 交 付 金	2,903,000	2,590,000	6.0	313,000	12.1
8 自 動 車 税 環 境 性 能 割 交 付 金	42,000	43,000	0.1	△ 1,000	△ 2.3
9 地 方 特 例 交 付 金	122,000	73,000	0.2	49,000	67.1
10 地 方 交 付 税	11,860,000	11,710,000	24.2	150,000	1.3
11 交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	11,000	14,000	0.0	△ 3,000	△ 21.4
12 分 担 金 及 び 負 担 金	262,038	314,434	0.5	△ 52,396	△ 16.7
13 使 用 料 及 び 手 数 料	559,111	589,278	1.2	△ 30,167	△ 5.1
14 国 庫 支 出 金	7,024,399	6,612,095	14.3	412,304	6.2
15 県 支 出 金	3,175,628	3,099,496	6.5	76,132	2.5
16 財 産 収 入	273,593	313,875	0.6	△ 40,282	△ 12.8
17 寄 附 金	460,200	373,700	0.9	86,500	23.1
18 繰 入 金	1,353,831	1,390,476	2.8	△ 36,645	△ 2.6
19 繰 越 金	500,000	600,000	1.0	△ 100,000	△ 16.7
20 諸 収 入	2,374,500	2,387,046	4.8	△ 12,546	△ 0.5
21 市 債	3,939,700	3,673,600	8.0	266,100	7.2
合 計	49,060,000	47,750,000	100.0	1,310,000	2.7

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合があります。

主 内 容	増減(A)-(B)の主な内容	
市民税 5,869,000 (個人 5,046,000 法人 823,000) 固定資産税 5,662,000 都市計画税 680,000 軽自動車税 424,000 市たばこ税 677,000 入湯税 3,000	市税は現年課税分で比較 個人 73,000 法人 57,000 固定資産税 32,000 都市計画税 9,000 軽自動車税 △9,000 市たばこ税 47,000	市税
地方揮発油 109,000 自動車重量 327,000 森林環境 61,000	地方揮発油 △7,000 自動車重量譲与税 △8,000	地譲
	利子割交付金 △4,000	利子
	配当割交付金 19,000	配当
	株式等譲渡所得割交付金 △24,000	株式
	法人事業税交付金 46,000	法事
消費税率10%に引上げによる増収分1,583,455千円は全額を社会保障施策に充当 (充当内訳: 社会福祉 1,036,941 社会保険 427,436 保健衛生 119,078)	地方消費税交付金 313,000	消費
	環境性能割交付金 △1,000	環性
地方特例交付金 86,000 新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金 36,000	感染症対策地方税減収補填特別交付金 36,000	地特
普通交付税 10,860,000 特別交付税 1,000,000	普通交付税 150,000	地交
	交通安全対策特別交付金 △3,000	交通
民生費負担金 195,966 (老人福祉 92,533 保育料等 90,035) 土木費負担金 39,825 (道路改良事業負担金) 総務費負担金 22,547 (戸籍システム共同利用 17,511)	道路改良事業負担金(他市町村分) 25,000 データ放送システム共同利用負担金 △4,840 民間保育所保護者負担金(現年度分) △84,207	分負
ごみ処理手数料 157,811 住宅使用料 141,902 休日夜間急患診療所使用料 46,079 道路河川占用料 37,500 斎苑使用料 19,753 地域振興住宅使用料 17,828 戸籍手数料 17,369 文化会館使用料 17,200 住民票手数料 13,173 公園使用料 9,500 建築確認手数料 9,235 地区公民館使用料 9,042	文化会館使用料 2,200 勤労者福祉センター使用料 △2,400 美術博物館観覧料 △2,660 ごみ処理手数料 △5,501 休日夜間急患診療所使用料 △21,768	使手
【負担金】 民生費 4,378,750 (民間保育所 1,268,781 障がい児・者 1,269,201 児童手当 1,037,586 生活保護 576,566) 衛生費 75,907 (保険基盤安定) 災害復旧費 253,418 (公共土木施設災害) 【補助金】 総務費 710,307 (リニア 658,550 コロナ地方創生臨時交付金 26,844 社会保険・税番号制度 19,154) 民生費 393,559 (重層的支援 157,005 民間保育所 101,836) 衛生費 474,313 (地域脱炭素化 323,678 出産・子育て応援 118,516 成人保健 5,261 母子保健 5,636) 商工費 2,070 (観光) 土木費 673,860 (道路 438,650 橋りょう 138,765) 消防費 11,075 (災害対策) 教育費 33,238 (小・中学校 24,533 文化財保護 8,705)	社会資本整備総合交付金(都市構造再編集中支援事業) 435,600 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金 323,678 公共土木施設災害復旧事業負担金 203,393 道整備交付金 150,000 出産・子育て応援交付金 118,516 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 △65,742 感染症ワクチン接種負担金 △107,312 社会資本整備総合交付金(道路事業) △123,100 社会資本整備総合交付金(道路整備) △182,658 社会資本整備総合交付金(街路事業) △325,160	国費
【負担金】 民生費 1,781,348 (民間保育所 699,762 障がい児・者 618,100 児童手当 226,671 後期高齢者医療 208,246) 衛生費 233,328 (保険基盤安定) 【補助金】 総務費 9,482 (就業移住支援金 5,000 消費者行政活性化事業 4,482) 民生費 531,767 (医療費給付 207,791 民間保育所 104,596 重層的支援 76,391 地域子育て支援 69,481 老人福祉 30,966) 農林費 287,085 (林業振興 93,585 農政対策 92,303 農業振興 63,782 農地 20,000 国土調査 9,000 農業委員会 8,415) 【委託費】 総務費 199,785 (県民税 165,450 県議会選挙 24,429)	民間保育所負担金 72,382 出産・子育て応援交付金 29,489 新規就農者経営発展支援事業補助金 27,000 民有林林道改良事業補助金 22,609 保険基盤安定負担金 20,477 認定こども園施設整備事業補助金 20,439 林道開設事業補助金 18,976 保育士加配支援事業補助金(県単) 18,432 農地利用効率化等支援交付金 △26,534 知事選挙委託金 △31,327 参議院議員選挙委託金 △33,261 保育所等処遇改善臨時特例交付金 △52,607	県費
不動産売払収入 235,278 基金運用収入 24,786 財産貸付収入 12,882	建物売払収入 △7,474 土地売払収入 △28,837	財産
ふるさと寄附金 441,500 工業振興寄附金 13,700 奨学資金 3,000	ふるさと寄附金 79,500 工業振興寄附金 7,000	寄附
財調 300,000 減債 550,000 ふるさと 55,991 リニア 165,504 地域振興 123,285 森林経営管理 69,356 介護保険特別会計 44,731 教育支援 15,200 過疎 14,677	財調 △40,000 リニア 36,363 森林経営管理 18,529 ふるさと △10,104 教育支援 △18,950 過疎 △26,957	繰入
		繰越
貸付金元利収入 1,541,523 (商工制度資金 1,400,000 生活資金 120,000) 受託事業収入 281,868 (中央新幹線用地取得事務 114,949 分収造林 76,706) 雑入 548,059	埋蔵文化財調査受託事業収入 34,870 スポーツ振興くじ助成金 20,000 JR東海負担金 △70,412	諸収
過疎対策事業債 203,700 観光 71,800 公共交通体系 47,900 林道 32,700 道路 11,700 その他 3,736,000 土木 1,250,400 教育 719,900 総務 559,200 民生 268,900 農林 245,500 衛生 167,500 災害復旧 161,100 消防 122,800 商工 30,700 臨時財政対策債 210,000	脱炭素化推進 167,100 緊急防災・減災 123,900 過年発生補助災害 132,400 公共施設等適正管理 108,900 上水道事業債(一般会計出資債) 76,100 公共事業等 △112,000 臨時財政対策 △190,000	市債

令和5(2023)年度 一般会計 目的別歳出 (主な内容と増減内訳)

区 分	予 算 額		(A)の構成比	増 減	
	5年度 (A)	4年度 (B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 議 会 費	273,327	269,610	0.6	3,717	1.4
2 総 務 費	5,914,749	6,406,921	12.1	△ 492,172	△ 7.7
3 民 生 費	16,292,374	15,766,522	33.2	525,852	3.3
4 衛 生 費	5,464,975	5,155,863	11.1	309,112	6.0
5 労 働 費	197,120	205,059	0.4	△ 7,939	△ 3.9
6 農 林 水 産 業 費	1,426,424	1,235,050	2.9	191,374	15.5
7 商 工 費	2,616,268	2,537,281	5.3	78,987	3.1
8 土 木 費	5,176,048	5,158,810	10.6	17,238	0.3
9 消 防 費	1,385,144	1,512,090	2.8	△ 126,946	△ 8.4
10 教 育 費	4,785,543	4,276,301	9.7	509,242	11.9
11 災 害 復 旧 費	434,932	79,300	0.9	355,632	448.5
12 公 債 費	5,017,492	5,001,286	10.2	16,206	0.3
13 諸 支 出 金	35,604	105,907	0.1	△ 70,303	△ 66.4
14 予 備 費	40,000	40,000	0.1	0	0.0
合 計	49,060,000	47,750,000	100.0	1,310,000	2.7

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合があります。

主 内 容	増 減 の 主 な 内 容	
議会費 273,327	議会一般経費 1,707 事務局職員人件費 1,075	議会
リニア駅周辺整備事業 1,372,973 ふるさと飯田応援隊募集事業 250,699 リニア代替地整備事業 216,193 総務一般管理費 195,144 住民情報システム管理費 181,031 市民バス等運行業務 176,537 自治振興センター管理費 124,130 地域自治支援事業 110,136 情報管理費 102,816 南信州広域連合負担金(一般会計) 99,551 課税事務委託費 66,782 ケーブルテレビ放送事業特別会計繰出金 65,643 リニア推進事業 39,990 人事一般管理費 38,286 中山間地域振興事業 37,106 車両管理費 36,404 賦課費 34,876 広報番組制作放送委託費 33,385 防犯灯維持管理費 33,098	リニア駅周辺整備事業 195,427 ケーブルテレビ放送事業特別会計繰出金 46,260 ふるさと飯田応援隊募集事業 44,642 自治振興センター管理費 40,786 総務一般管理費 30,684 リニア二次交通整備事業 22,626 参議院議員選挙費 △29,236 課税事務委託費 △38,527 リニア推進事業 △61,226 情報セキュリティ対策事業 △72,851 リニア代替地整備事業 △200,457 人件費 △453,622	総務
民間保育所等運営費 2,678,764 介護保険特別会計繰出金 1,775,859 児童手当費 1,492,611 後期高齢者医療関係一般経費 1,241,000 総合支援介護給付事業 1,147,810 総合支援訓練等給付事業 836,243 生活保護措置費 768,755 障害児通所支援費 420,058 児童扶養手当費 383,435 養護老人ホーム措置事業 320,154 後期高齢者医療特別会計繰出金 304,532 障害者医療費給付事業 261,951	公立認定こども園施設整備事業 96,538 会計年度任用職員人件費 89,016 社会福祉施設等感染予防対策支援事業 72,100 介護保険特別会計繰出金 62,232 生活保護措置費 44,852 総合支援訓練等給付事業 43,652 後期高齢者医療関係一般経費 41,000 老人福祉一般経費 39,806 総合支援介護給付事業 23,382	民生
病院事業会計負担金 1,137,724 国民健康保険特別会計繰出金 590,147 南信州広域連合負担金(焼却場) 492,530 水道費 426,396 ごみ収集処理費 308,830 脱炭素先行地域づくり事業 275,332 予防接種事業 267,601 出産子育て応援事業 169,870 ごみ減量対策費 159,031 容器包装等リサイクル事業 109,224	脱炭素先行地域づくり事業 275,332 出産子育て応援事業 169,870 水道費 76,291 容器包装等リサイクル事業 51,671 ごみ減量対策費 51,603 国民健康保険特別会計繰出金 43,705 感染症予防接種事業 △109,936 病院事業会計負担金 △234,818	衛生
勤労者協調融資事業 120,000 勤労者福祉センター管理費 25,706 飯田勤労者共済会補助事業 12,677 労働諸費 7,308	勤労者協調融資事業 △10,000	労働
林道改良事業(補助) 94,709 排水路防災対策整備事業 90,000 農業施設維持補修事業 85,481 農業施設長寿命化事業 79,200 分収造林事業 76,706 新規就農者支援事業 60,130 国土保全特別対策事業 51,392 農業基盤整備資金償還補助事業 44,026 果樹・野菜等振興事業 42,671 森林経営管理事業 38,308 農作物鳥獣被害対策事業 35,126 中山間地域等直接支払事業 34,275	農業施設長寿命化事業 79,200 林道改良事業(補助) 48,009 新規就農者支援事業 35,882 林道開設事業 31,236 排水路防災対策整備事業 25,000 林道舗装事業 16,709 分収造林事業 12,359 意欲ある農業者支援事業 △26,585	農林
中小企業金融対策事業 1,502,000 工業振興一般経費 97,523 道の駅遠山郷施設管理費 85,773 産業用地整備事業 81,730 地域産業等振興事業 61,530 上村観光施設管理費 54,657 企業立地促進事業補助金 52,600 南信濃観光施設管理費 49,619	道の駅遠山郷施設管理費 74,447 南信濃観光施設管理費 27,554 駐車場事業特別会計繰出金 17,938 企業立地促進事業補助金 15,100 上村観光施設管理費 14,385 観光施設整備事業 8,834 りんご並木活性化事業 8,578 産業用地整備事業 △93,533	商工
下水道費 1,534,800 道整備交付金事業 325,000 交通安全対策補助事業(通学路緊急対策) 280,000 道路メンテナンス事業 256,496 橋りょう耐震整備事業 250,000 道路補修事業 242,066 道路舗装補修事業 210,284 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) 202,000 公営住宅整備事業(補助) 188,893 市道改良事業 135,580	道整備交付金事業 325,000 橋りょう耐震整備事業 190,000 河川台帳整備委託費 35,200 市道改良事業 31,109 道路補修事業 22,425 県道路事業等負担金 △42,000 交通安全対策補助事業(通学路緊急対策) △60,000 県街路事業地元負担金 △119,555 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) △352,816	土木
南信州広域連合負担金(消防) 945,553 消防団運営事業 174,277 消防体制強化整備事業(単独) 68,216 消防団詰所整備事業 47,410 水道事業会計負担金 40,000	消防体制強化整備事業(単独) 36,610 南信州広域連合負担金(消防) 30,438 水道事業会計負担金 21,400 防災対策推進事業 △210,927	消防
体育施設改修費 291,982 学校管理一般経費(小・中) 235,678 情報通信技術活用教育推進事業(小・中) 213,537 調理業務委託費 193,030 公民館管理・運営費 181,157 学校教育振興事業(小・中) 176,099 学校施設大規模改修事業(小・中) 159,597 美術博物館管理費 155,812 体育施設管理費 136,556 学校給食事業 126,189 社会体育学校開放施設整備費(単独) 121,100	体育施設改修費 145,460 美術博物館管理費 97,351 学校管理一般経費(小・中) 63,591 学校施設省エネルギー化改修事業(小・中) 80,470 会計年度任用職員人件費 62,632 社会体育学校開放施設整備費(単独) 40,240 学校給食一般経費 20,772	教育
土木施設補助災害復旧事業 425,432 土木施設単独災害復旧事業 5,000	土木施設補助災害復旧事業 350,432 土木施設単独災害復旧事業 3,000	災害
元金 4,887,084 利子 130,408	元金 23,957 利子 △7,751	公債
中山間地域振興基金積立金 20,633 公共施設等整備基金積立金 7,329	新規積立金 △68,480 基金利子積立金 △1,823	諸支
		予備

令和5(2023)年度 一般会計 性質別歳出 (主な増減内訳)

	5年度予算額		4年度予算額		増 減	
	(A)	構成比	(B)	構成比	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 人 件 費	7,532,453	15.4	7,815,554	16.4	△ 283,101	△ 3.6
2 扶 助 費	9,006,455	18.3	8,945,341	18.6	61,114	0.7
3 公 債 費	5,017,492	10.2	5,001,286	10.5	16,206	0.3
小 計	21,556,400	43.9	21,762,181	45.5	△ 205,781	△ 0.9
4 物 件 費	5,803,925	11.8	5,516,250	11.6	287,675	5.2
5 維 持 補 修 費	728,972	1.5	763,923	1.6	△ 34,951	△ 4.6
6 補 助 費 等	7,380,781	15.0	7,076,621	14.8	304,160	4.3
7 積 立 金	39,258	0.1	110,310	0.2	△ 71,052	△ 64.4
8 投 資・出 資 金	623,452	1.3	477,009	1.0	146,443	30.7
9 貸 付 金	1,545,373	3.1	1,555,214	3.3	△ 9,841	△ 0.6
10 繰 出 金	4,151,407	8.5	3,952,659	8.3	198,748	5.0
11 投 資 的 経 費	7,190,432	14.7	6,495,833	13.6	694,599	10.7
補 助	3,573,960	7.3	3,136,749	6.6	437,211	13.9
単 独	3,616,472	7.4	3,359,084	7.0	257,388	7.7
普 通 建 設 費	6,745,738	13.8	6,416,533	13.4	329,205	5.1
補 助	3,138,766	6.4	3,061,749	6.4	77,017	2.5
単 独	3,606,972	7.4	3,354,784	7.0	252,188	7.5
災 害 復 旧 費	444,694	0.9	79,300	0.2	365,394	460.8
補 助	435,194	0.9	75,000	0.2	360,194	0.0
単 独	9,500	0.0	4,300	0.0	5,200	120.9
12 予 備 費	40,000	0.1	40,000	0.1	0	0.0
合 計	49,060,000	100.0	47,750,000	100.0	1,310,000	2.7

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合がある。

増減の主な内容		
会計年度任用職員人件費 132,063 職員給 84,881 退職手当 △487,117		人件
生活保護措置費 47,252 総合支援訓練等給付事業 43,652 総合支援介護給付事業 23,382 民間保育所等運営費 20,178 総合支援医療給付事業 6,805 障害児通所支援費 6,129 障害者医療費給付事業 △9,528 養護老人ホーム措置事業 △16,000 児童手当 △62,125		扶助
元金 23,957 利子 △7,751		公債
容器包装等リサイクル事業 51,671 老人福祉一般経費 42,378 小学校管理一般経費 39,051 ごみ減量対策事業 38,757 河川台帳整備 35,200 道路補修事業 24,000 総務一般管理費 23,241 中学校管理一般経費 22,486 リニア二次交通整備事業 22,358		物件
農業施設維持補修事業 4,680 道路維持管理事業 3,933 除雪費 2,145 飯田子どもの森公園維持管理費 △3,653 市単土地改良事業 △4,906 橋りょう補修事業 △5,895 道路メンテナンス事業 △8,000 道路舗装補修事業 △18,840		維持
脱炭素先行地域づくり事業 260,015 出産子育て応援事業 165,000 社会福祉施設等感染予防対策支援事業 72,000 新規就農者支援事業 35,932 ふるさと飯田応援隊募集事業 30,973 南信州広域連合負担金(消防) 30,438 病院事業会計負担金 △302,818		補助
教育支援基金積立金 47 中山間地域振興基金積立金△7,448 森林経営管理基金積立金 △60,982		積立
水道事業出資金 71,443 病院事業出資金 68,000 観光振興事業出資金 7,000		投資
奨学金貸与事業 120 福祉医療費貸付金事業 39 勤労者協調融資事業 △10,000		貸付
介護保険特別会計繰出金 62,252 ケーブルテレビ放送事業特別会計繰出金 46,260 国民健康保険特別会計繰出金 43,705 後期高齢者医療関係一般経費 41,000 後期高齢者医療特別会計繰出金 △17,634		繰出
		投資
		補助
		単独
		普建
道整備交付金事業 303,000 リニア駅周辺整備事業 200,189 小学校施設省エネルギー化改修事業 50,470 林道改良事業(補助) 48,009 林道開設事業 30,096 中学校施設省エネルギー化改修事業 30,000 農業水利施設保全管理整備事業 △15,000 防災・安全交付金事業(通学路安全対策) △20,600 公営住宅整備事業(補助) △38,917 交通安全対策補助事業(通学路緊急対策) △60,000 リニア推進事業 △61,146 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) △352,816		補助
橋りょう耐震整備事業 190,000 体育施設改修費 145,130 美術博物館管理費 83,712 農業施設長寿命化事業 79,200 公立認定こども園施設整備事業 78,256 農業施設維持補修事業 75,645 道の駅遠山郷施設管理費 74,040 社会体育学校開放施設整備費(単独) 40,240 消防体制強化整備事業(単独) 36,610 中学校施設大規模改修事業 △79,595 産業用地整備事業 △93,533 防災対策推進事業 △198,656 リニア代替地整備事業 △200,457		単独
		災害
土木施設補助災害復旧事業 350,432 排水路防災対策整備事業 5,000		補助
土木施設単独災害復旧事業 3,000 林道単独災害復旧事業 1,200		単独
		予備

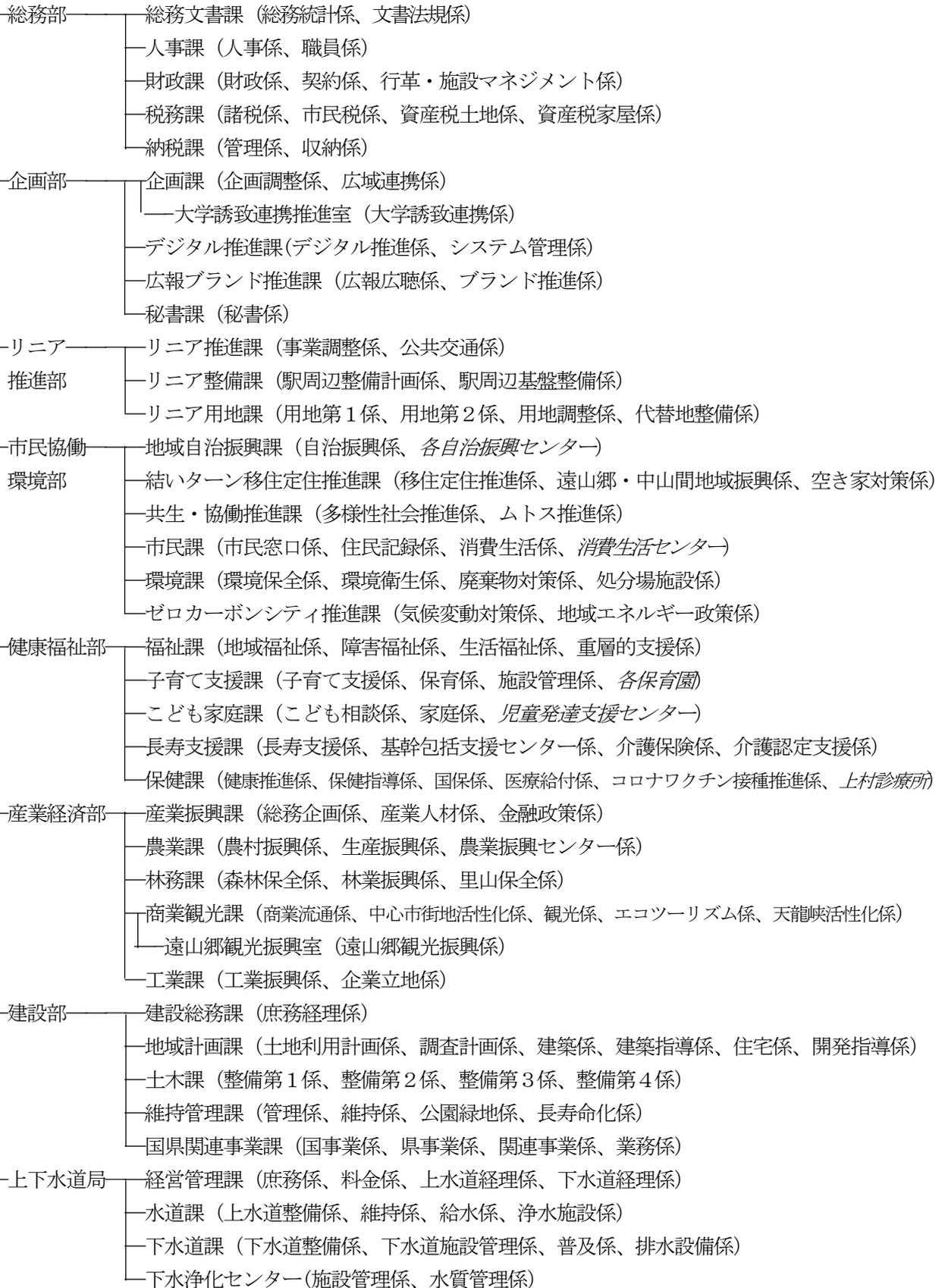
2 飯田市行政組織機構図 (R5. 4. 1)

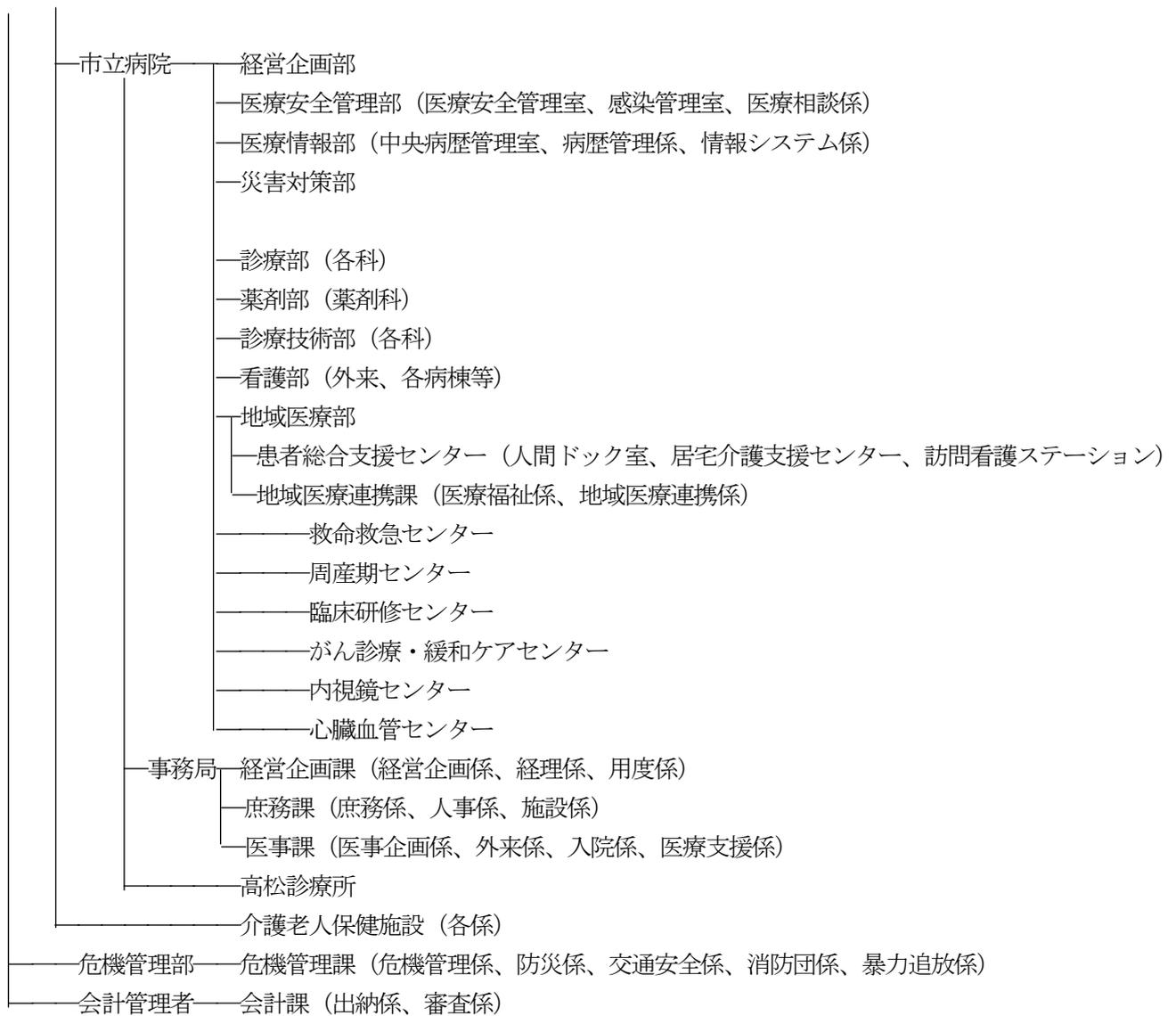
部等 課等 (係・出先機関:正規職員の配置のあるもの)

○市長事務部局

市長

副市長



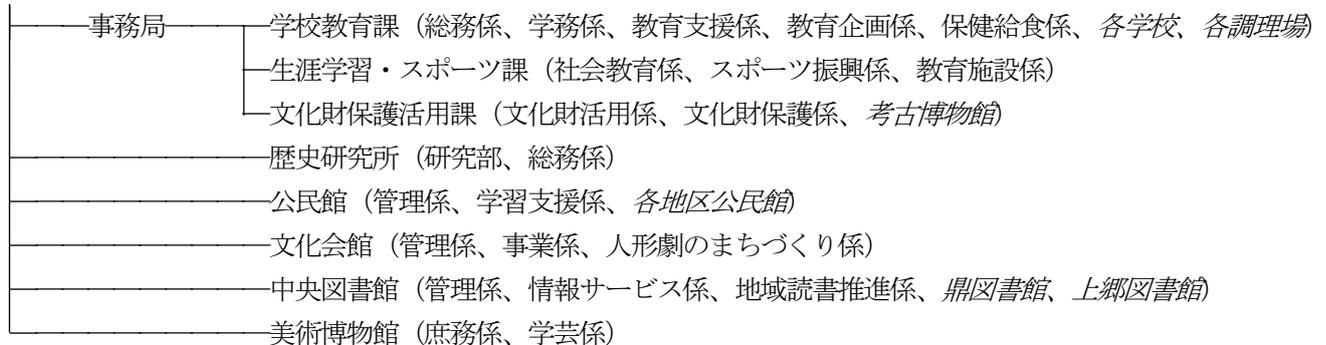


○市議会、行政委員会

市議会事務局 (庶務係、議事係、調査係)

教育委員会

教育委員会



選挙管理委員会 事務局 (選挙係、啓発係)

公平委員会 (事務職員)

監査委員 事務局 (監査係)

農業委員会 事務局 (農地係、振興係) 固定資産評価審査委員会 (書記)

3 職員の定数

(令和5年4月1日現在)

	区 分	定 数 (人)	実 数 (人)
1	市長の事務部局の職員	755	701
2	議会の事務部局の職員	9	6
3	教育委員会の事務部局及び教育機関の職員	150	119
4	選挙管理委員会の事務部局の職員	5	3
5	公平委員会の事務部局の職員	2 (市長部局職員兼務2)	0
7	監査委員の事務部局の職員	4	3
8	農業委員会の事務部局の職員	16 (市長部局職員兼務8)	7
9	固定資産評価審査委員会の事務部局の職員	2 (市長部局職員兼務2)	0
10	病院事業の職員	750	736
11	水道事業の職員	32	20
	小 計	1,725	1,595
市長部局付派遣職員			
12	(財)南信州・飯田産業センター		3
13	(社福)飯田市社会福祉協議会		1
14	飯田市土地開発公社		-
15	長野県後期高齢者医療広域連合		1
16	長野県市町村自治振興組合		1
17	飯田市職員労働組合専従		2
	小 計		8
派遣職員(自治法派遣)			
18	南信州広域連合 事務局		6
19	〃 飯田広域消防		-
20	〃 飯田環境センター		1
	小 計		7
	合 計		1,610

【資料編】

V 市議会のあゆみ

1 市議会議員選挙執行状況

昭和32年4月28日	合併による設置選挙
昭和35年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和36年4月23日	任期満了一般選挙
昭和39年5月15日	龍江・千代・上久堅3か村合併による増員選挙
昭和39年8月28日	伊賀良地区補欠選挙
昭和39年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和40年4月25日	任期満了一般選挙
昭和43年10月20日	補欠選挙
昭和44年4月20日	任期満了一般選挙
昭和47年10月22日	補欠選挙
昭和48年4月22日	任期満了一般選挙
昭和51年10月17日	補欠選挙
昭和52年4月17日	任期満了一般選挙
昭和55年10月19日	補欠選挙
昭和56年4月19日	任期満了一般選挙
昭和60年4月21日	任期満了一般選挙
昭和63年10月16日	補欠選挙
平成元年4月23日	任期満了一般選挙
平成4年10月18日	補欠選挙
平成5年4月25日	任期満了一般選挙
平成5年8月1日	上郷町合併による増員選挙
平成8年10月20日	補欠選挙
平成9年4月20日	任期満了一般選挙
平成12年10月15日	補欠選挙
平成13年4月22日	任期満了一般選挙
平成16年10月24日	補欠選挙
平成17年4月24日	任期満了一般選挙
平成17年10月30日	補欠選挙
平成21年4月19日	任期満了一般選挙
平成25年4月21日	任期満了一般選挙
平成29年4月16日	任期満了一般選挙
令和3年4月25日	任期満了一般選挙

2 歴代市議会議員

(1) 歴代議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	代田源六郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
		昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
		昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
2代	辻 虎松	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
3代	近松 宗一	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
4代	伊原 悦雄	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
		昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
5代	林 昌平	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
		昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
		昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
6代	松嶋 健次	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
7代	平澤 與一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
8代	塩澤 昭	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
9代	竹村 仁實	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
10代	實原 裕	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
11代	今村 八束	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
		平成7. 5. 12	平成9. 4. 27
12代	小林 利一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
		平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
13代	西尾 喜好	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
14代	岩崎 和男	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
15代	熊谷 富夫	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
16代	上澤 義一	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
17代	中島武津雄	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
18代	上澤 義一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
19代	林 幸次	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
20代	木下 克志	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
21代	清水 勇	平成29. 5. 9	令和元. 5. 14
22代	湯澤 啓次	令和元. 5. 14	令和3. 4. 27
23代	井坪 隆	令和3. 5. 18	令和5. 5. 9
24代	熊谷 泰人	令和5. 5. 9	

(2) 歴代副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	伊藤 清	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	片山 均	昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和39. 8. 1
3代	熊谷 一郎	昭和39. 9. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
4代	小林 新吾	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
5代	市村 保人	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
6代	今村 輝男	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
7代	新井 安男	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
8代	林 昌平	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
9代	松江 良夫	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
10代	片桐 勲	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
11代	松江 良夫	昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
12代	平澤 與一	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
13代	細田 直彦	昭和62. 5. 12	昭和63. 11. 10
14代	関島 一郎	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
15代	竹村 仁實	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
16代	松江 良夫	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
17代	内山 照美	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
18代	澤柳辨治郎	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	松島 年一	平成7. 5. 12	平成8. 10. 31
20代	片桐 司郎	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
		平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
21代	中田 佳甫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	牧内 信臣	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
23代	渡 淳	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	林 幸次	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
25代	矢澤 芳文	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	清水 可晴	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
27代	村松まり子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	木下 克志	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
29代	木下 容子	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
30代	永井 一英	平成29. 5. 9	令和元. 5. 14
31代	原 和世	令和元. 5. 14	令和3. 4. 27
32代	山崎 昌伸	令和3. 5. 18	令和5. 5. 9
33代	竹村 圭史	令和5. 5. 9	

(3) 歴代総務常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	総務部委員会	木下 章雄	近松 宗一 前島 秀夫	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	大平 節蔵	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	関島彦四郎	北原 正司	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	近松 宗一	前島 秀夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	辻 虎松	松島 健次	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	鳴海 衛	宮嶋 繁	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	総務文教委員会	市村 保人	橋部 肇	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	茂木立好則	前島 成光	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	斉藤 為良	細田 直彦	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	内田 篤	川手 守	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	〃	原 廣男	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐七右衛門	前島 成光	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	細田 直彦	塩澤 文朗	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	竹村 仁實	熊谷 康登	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	今村 八束	今村 淳	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	久保田 元	吉川 昌子	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	松島 年一	今村 淳	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	小林 利一	牧内 信臣	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	吉村徳一郎	渡 淳	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	岩崎 和男	〃	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	熊谷 富夫	小池 清	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	下平 政幸	中島武津雄	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	上澤 義一	村松まり子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	原 勉	森本美保子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	林 幸次	原 和世	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 容子	森本美保子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	総務委員会	清水 勇	原 和世	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	吉川 秋利	古川 仁	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
33代	〃	湊 猛	木下 容子	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
34代	〃	山崎 昌伸	吉川 秋利	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
35代	〃	熊谷 泰人	原 和世	令和3. 5. 19	令和5. 5. 10
36代	〃	清水優一郎	小林 真一	令和5. 5. 10	

※1 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

(4) 歴代社会文教常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	社会部委員会	児島 栄次	久保田安美 宮内 昇	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	実原 徳重	知久陽之祐	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	田口 秀男	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	辻 虎松	漆原 恒実	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	〃	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	漆原 恒実	榊田 太一	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	佐々木清信	松江 良夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	斉藤 宗義	熊谷政一郎	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	林 昌平	伊東 秀彦	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	社会民生委員会	西尾 仁一	松下 茂	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松江 良夫	片桐七右衛門	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	社会委員会	片桐 勲	佐々木文雄	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	松江 良夫	中島 勝美	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	尾沢 貞夫	片桐 芳朗	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	松下 茂	平田 友畝	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	森本 藤登	今村 八束	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	西尾 保雄	吉川 義治	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	〃	小林 利一	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	片桐 司郎	関島 秀夫	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	櫻井 俊夫	西尾 喜好	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	下平 一郎	中田 佳甫	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	中田 佳甫	熊谷 富夫	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	牛山 重一	井坪 隆	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	菅沼 立男	中島武津雄	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	柄澤 紀春	荒木 興利	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	原 勉	森本美保子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	中島武津雄	木下 容子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	森本美保子	村松まり子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 克志	後藤 荘一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	社会文教委員会	井坪 隆	湯澤 啓次	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	新井信一郎	清水 可晴	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
33代	〃	福沢 清	山崎 昌伸	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
34代	〃	村松まり子	湊 猛	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
35代	〃	木下 徳康	岡田 倫英	令和3. 5. 19	令和5. 5. 10
36代	〃	永井 一英	清水 勇	令和5. 5. 10	

※1 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

(5) 歴代産業建設常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	産業部委員会	田中 伝	宮下 綱六 宮川藤次郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	小林 新吾	堀 保麿	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	丸山 治郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	葛岡 利治	〃	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	丸山 治郎	松重 新一	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	宮脇 省	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	産業経済部委員会	新井 安男	原 茂	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	今村 輝男	新井 安男	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	林 昌平	原田 正志	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	北原 正司	小松 芳男	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	産業経済委員会	原 茂	佐々木 勝	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	北原 正司	橋部 肇	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	平沢 與一	原 廣男	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	原 康次	林 利実	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	平澤 與一	竹村 仁實	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐 勲	〃	昭和58. 5. 8	昭和59. 10. 14
17代	〃	竹村 仁實	中田 修	昭和59. 10. 26	昭和60. 4. 27
18代	〃	〃	塩澤 昭	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
19代	〃	酒井 米	小林 三郎	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	内山 照美	下平 一郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	下平 一郎	小林 利一	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	〃	伊原 与一	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	佐藤 好英	吉川 義治	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	西尾 喜好	岩崎 和男	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	下平 政幸	熊谷 富夫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
26代	〃	渡 淳	上澤 義一	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
27代	〃	矢澤 芳文	佐々木重光	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
28代	〃	清水 可晴	原 和世	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
29代	〃	原 和世	山崎 紀男	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
30代	〃	木下 克志	木下 容子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
32代	産業建設委員会	吉川 秋利	後藤 莊一	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
33代	〃	永井 一英	湊 猛	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
34代	〃	湯澤 啓次	熊谷 泰人	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
35代	〃	熊谷 泰人	後藤 莊一	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
36代	〃	竹村 圭史	清水優一郎	令和3. 5. 19	令和5. 5. 10
37代	〃	福澤 克憲	古川 仁	令和5. 5. 10	

※1 議会改革によりH25. 4. 28から4 常任委員会複数所属から3 常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

(6) 歴代予算決算常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	予算決算委員会	原 和世	村松まり子	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
2代	〃	山崎 昌伸	竹村 圭史	令和3. 5. 19	令和5. 5. 10
3代	〃	竹村 圭史	永井 一英	令和5. 5. 10	

※R1. 5. 14から予算決算委員会を常任委員会として設置。従前の総務・社会文教・産業建設各常任委員会での予算・決算、行政評価に関する専門的審査については、それぞれの常任委員会協議会の中で予算決算委員会分科会と位置づけ実施

(7) 歴代建設環境常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	建設部委員会	辻 虎松	竹内 兵治 伊原 悦雄	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	近松 宗一	林 省三	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	山田 亮一	伊原 悦雄	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	佐々木清信	木下 章雄	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	木下 章雄	新井 安男	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	佐々木清信	林 昌平	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	今牧 照男	〃	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	伊原 悦雄	代田 保雄	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	今牧 照男	茂木立好則	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	新井 安男	大蔵 浜雄	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	建設委員会	茂木立好則	〃	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	斉藤 宗義	今牧 泰三	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	橋部 肇	今村 馨	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	森本 藤登	木下 登	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	今村 馨	熊谷 康登	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	細田 直彦	木下 登	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	関島 一郎	酒井 米	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	〃	實原 裕	昭和62. 5. 12	昭和63. 12. 1
19代	〃	實原 裕	塩澤 昭	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
20代	〃	平田 友畝	澤柳辨治郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	松島 年一	〃	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	吉川 義治	佐藤 好英	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	塩澤 俊彦	伊藤 芳之	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	牧内 信臣	木下 昭一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	實原 公男	久保田平八郎	平成11. 5. 13	平成12. 10. 21
26代	〃	菅沼 立男	〃	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
27代	建設環境委員会	井坪 隆	原 勉	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
28代	〃	木下 昭一	原 和世	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
29代	〃	佐々木重光	湯澤 宗保	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
30代	〃	柄澤 紀春	後藤 修三	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
32代	〃	原 和世	永井 一英	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27

※議会改革による常任委員会の再編により、H25. 4. 27をもって建設環境委員会は所管に応じ他の3常任委員会へ移管

(8) 歴代議会運営委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	議会運営委員会	木下 章雄	近松 宗一	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 18
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 23
5代	〃	佐々木清信	熊谷 一郎	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	鳴海 衛	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	斉藤 宗義	代田 保雄	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
8代	〃	丸山 治郎	原田 正志	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	新井 安男	原 茂	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
10代	〃	松江 良夫	西尾 仁一	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	〃	伊東 秀彦	太田 猶市	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松嶋 健次	尾沢 貞夫	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
13代	〃	尾沢 貞夫	竹村 仁實	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
14代	〃	片桐七右衛門	塩沢 文朗	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
15代	〃	木下 登	内山 照美	昭和56. 5. 8	昭和57. 3. 1
16代	〃	片桐七右衛門	〃	昭和57. 3. 1	昭和58. 4. 22
17代	〃	中島 勝美	酒井 米	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
18代	〃	内山 照美	平田 友畝	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
19代	〃	平田 友畝	松島 年一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	松島 年一	久保田 元	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	吉川 義治	今村 淳	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
22代	〃	中田 佳甫	牧内 信臣	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	伊原 与一	片桐 司郎	平成7. 5. 13	平成8. 4. 22
24代	〃	澤柳辨治郎	〃	平成8. 6. 4	平成8. 10. 31
25代	〃	〃	桜井 俊夫	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
26代	〃	久保田平八郎	牛山 重一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
27代	〃	木下 昭一	菅沼 立男	平成11. 5. 13	平成12. 10. 30
28代	〃	〃	柄澤 紀春	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
29代	〃	矢澤 芳文	清水 可晴	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
30代	〃	上澤 義一	林 幸次	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
31代	〃	原 和世	下平 勝熙	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
32代	〃	下平 勝熙	木下 克志	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
33代	〃	井坪 隆	清水 勇	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
33代	〃	林 幸次	新井信一郎	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
34代	〃	清水 可晴	村松まり子	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
35代	〃	清水 勇	後藤 莊一	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
36代	〃	村松まり子	吉川 秋利	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
37代	〃	福沢 清	永井 一英	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
38代	〃	永井 一英	清水 勇	令和3. 5. 19	令和5. 5. 10
39代	〃	井坪 隆	山崎 昌伸	令和5. 5. 10	

(9) 歴代監査委員（議会選出）

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	田中 悟	昭和31. 10. 1	昭和32. 4. 27
2代	佐々木清信	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	熊谷 一郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	関島彦四郎	昭和36. 5. 15	昭和41. 6. 15
5代	市村 保人	昭和41. 6. 17	昭和42. 6. 5
6代	宮内 昇	昭和42. 6. 6	昭和44. 4. 27
7代	市村 保人	昭和44. 5. 7	昭和46. 6. 3
8代	宮内 昇	昭和46. 6. 4	昭和50. 6. 6
9代	近松 宗一	昭和50. 6. 10	昭和52. 4. 27
10代	伊原 悦雄	昭和52. 6. 6	昭和54. 4. 13
11代	松下 茂	昭和54. 4. 16	昭和56. 5. 7
12代	西尾 保雄	昭和56. 5. 8	昭和60. 4. 27
13代	實原 裕	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
14代	松嶋 健次	昭和62. 5. 13	平成元. 4. 27
15代	小林 三郎	平成元. 5. 10	平成2. 6. 30
16代	實原 裕	平成2. 7. 16	平成3. 5. 9
17代	竹村 仁實	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
18代	〃	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	實原 裕	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
20代	竹村 仁實	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
21代	片桐 司郎	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	小林 利一	平成13. 5. 15	平成15. 3. 3
23代	西尾 喜好	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	岩崎 和男	平成17. 5. 13	平成19. 5. 10
25代	熊谷 富夫	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	上澤 義一	平成21. 5. 13	平成23. 5. 12
27代	中島武津雄	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	〃	平成25. 5. 14	平成29. 4. 27
29代	木下 克志	平成29. 5. 10	令和元. 5. 13
30代	清水 勇	令和元. 5. 15	令和3. 4. 27
31代	原 和世	令和3. 5. 19	

(10) 歴代事務局長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	林 政人	昭和31. 9. 30	昭和39. 3. 31
2代	久保 武敏	昭和39. 4. 1	昭和44. 3. 31
3代	福井 実	昭和44. 4. 1	昭和44. 10. 19
4代	村沢 光男	昭和44. 10. 20	昭和48. 6. 30
5代	酒井 篤	昭和48. 7. 1	昭和50. 3. 31
6代	宮沢 邦男	昭和50. 4. 1	昭和54. 3. 31
7代	木下 良美	昭和54. 4. 1	昭和56. 3. 31
8代	松澤 平吉	昭和56. 4. 1	昭和59. 3. 31
9代	坂下 幸彦	昭和59. 4. 1	平成元. 3. 31
10代	小木曾義信	平成元. 4. 1	平成3. 3. 31
11代	浦野 勉	平成3. 4. 1	平成6. 3. 31
12代	横田 常	平成6. 4. 1	平成9. 3. 31
13代	山岸一二三	平成9. 4. 1	平成11. 3. 31
14代	吉川 元勝	平成11. 4. 1	平成13. 3. 31
15代	中本 卓良	平成13. 4. 1	平成15. 3. 31
16代	福田 富廣	平成15. 4. 1	平成16. 3. 31
17代	大沢 英二	平成16. 4. 1	平成17. 3. 31
18代	尾澤 敏秀	平成17. 4. 1	平成19. 3. 31
19代	中井 洋一	平成19. 4. 1	平成20. 3. 31
20代	平澤 和人	平成20. 4. 1	平成20. 12. 31
21代	篠田 雅弘	平成21. 1. 1	平成25. 3. 31
22代	福澤 栄二	平成25. 4. 1	平成27. 3. 31
23代	土屋 寿憲	平成27. 4. 1	平成29. 3. 31
24代	吉川 昌彦	平成29. 4. 1	令和3. 3. 31
25代	和泉 忠志	令和3. 4. 1	

(11) 歴代市議会議員

ア 昭和31年9月30日執行（1市7か村合併）

(7) 三穂地区 12人

林 武男	林 武司	坂巻 政美	林 保	古川 舎人	佐藤 芳房
宮沢 敬信	前沢 蔵六	川井 邦	西村 文雄	川上 竹市	久保田安美

(イ) 飯田地区 29人

代田源六郎	斉藤 隆久	今村 正美	田口 秀夫	牧島 保一	大竹 四郎
井村豊太郎	井原 淳治	辻 虎松	山田 亮一	深津 一郎	酒井 府
古瀬 仁	菊池 恭平	児島 栄次	宮下 綱六	吉川 一	中田 栄
木下 一人	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	木下 勝義	加藤 英男
田中 悟	早川 清雄	荒井重右衛門	長坂 晃	漆原 恒実	

(ウ) 座光地地区 16人

知久陽之祐	北原 弘	片桐 卓治	上沼 善夫	黒川 利一	今村 良美
湯沢 博司	篠田力三郎	棚田 正雄	佐々木貞雄	竹内 武男	原田 栄治
佐々木信雄	原田 幸雄	三村 利	竹内 兵治		

(エ) 竜丘地区 16人

伊原 悦雄	下平 広志	原 登	吉川 正己	中平恒三郎	今村 恵
長沼 保治	林 正司	松村 新八	前島 秀夫	北沢小太郎	沖田 武一
下田 巖	原 光人	下平 勲資	塚平 睦雄		

(オ) 松尾地区 22人

林 宗三郎	江塚 角三	斉藤 忠治	木下 徳雄	塩沢 秋生	平栗 英祐
山中 竜策	今村 輝男	小木曾嘉一	青山 孝一	常盤 喜八	福島 淡
牛草 利春	藤田 勇夫	塩沢伝之助	中山 政雄	奥田 利吉	松村 信一
熊谷 好次	金井 啓	伊与部金一	木下 章雄		

(カ) 下久堅地区 16人

平沢 清人	池田 嘉篤	吉沢 昇	羽生 一善	宮川藤次郎	森岡 清志
宮内 昇	三石 義臣	宮脇 利雄	桐生 忠治	橋爪徳次郎	三石誠一郎
羽場 義雄	木下 平治	坂井 伸一	平沢 亮治		

(キ) 伊賀良地区 22人

坂下 美富	矢沢 秀一	相原 貢	橋部 文男	今牧 泰三	伊藤 仁
佐々木省吾	元島 均治	今牧 照男	平田 武司	水野 恒夫	神部 稲男
矢沢 清志	松沢 武雄	伊藤 清	肥後 明一	平田 薫	田部 勇
鈴木 太郎	新井 一正	宮下 喜一	原 稲太郎		

(ク) 山本地区 16人

尾沢 元一	熊谷 英雄	竹村 汎愛	平岩四郎吉	竹村 央	遠山 皓
熊谷 広男	山内 精一	田中 伝	金田 伝	唐沢 茂一	玉置 敏夫
久保田久吉	金沢 重雄	熊崎 六蔵	小池 政之		

合計 149人

イ 昭和32年4月28日執行（合併による設置選挙 任期は昭和32年4月28日から昭和36年4月27日まで 8選挙区 定数36）

片山 均	伊藤 誠一	久保田一男	松沢 広	田中 伝	島岡 利雄
林 保	林 省三	北沢小太郎	伊原 悦雄	木下 章雄	伊与部金一
葛岡 利治	丸山 治郎	小林 新吾	宮脇 省	佐々木利夫	知久陽之祐
代田源六郎	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	今村 正美	児島 栄次
井原 淳治	堀 保麿	福島 勝男	古瀬 仁	漆原 恒美	串原 義直
山田 亮一	深津 一郎	辻 虎松	熊谷 一郎	田口 秀男	岡島 新治

ウ 昭和35年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和35年10月26日から昭和36年4月27日まで 定数3）

新井 安男 鳴海 衛 前島 成光

エ 昭和36年4月23日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和36年4月28日から昭和40年4月27日まで 9選挙区 定数28）

片山 均	浜島 惣一	伊原 春男	鳴海 衛	宮内 昇	葛岡 利治
岡村 賢作	知久陽之祐	丸山 治郎	関島彦四郎	佐々木清信	代田源六郎
代田 哲	今牧 照男	新井 安男	近松 宗一	木下 章雄	串原 義直
福島 勝男	前島 成光	小林 新吾	沢柳 敏夫	漆原 恒美	辻 虎松
竹村 央	伊藤 誠一	松重 新一	熊谷 一郎		

オ 昭和39年5月15日執行（龍江村、千代村及び上久堅村の3か村合併による増員選挙 任期は昭和39年5月15日から昭和40年4月27日まで 定数は龍江2、千代2、上久堅1の合計5）

林 昌平 松尾 純二 大平 節蔵 林 武男 斉藤 宗義

カ 昭和39年8月28日執行（伊賀良地区補欠選挙 任期は昭和39年8月29日から昭和40年4月27日まで 定数1）

代田 保雄

キ 昭和39年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和39年10月26日から昭和40年4月27日まで 定数1）

宮嶋 繁

ク 昭和40年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和40年4月28日から昭和44年4月27日まで 全市1選挙区 定数36）

林 昌平	前島 秀夫	北原 正司	鳴海 衛	辻 虎松	市村 保人
小林 新吾	代田 保雄	近松 宗一	代田源六郎	矢崎 三郎	沢柳 俊夫
榊田 太一	今村 治郎	丸山 治郎	松江 良夫	伊原 悦雄	原 茂
大蔵 浜雄	宮嶋 茂	漆原 恒美	富田 政雄	葛岡 利治	大平 節蔵
今村 輝男	新井 安男	佐々木清信	宮内 昇	熊谷 一郎	宮脇 省

前島 成光 熊谷 武志 齊藤 宗義 原田 正志 今牧 照男 関島彦四郎

ケ 昭和43年10月20日執行（補欠選挙 任期は昭和43年10月21日から昭和44年4月27日まで 定数2）

茂木立好則 内田 篤

コ 昭和44年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和44年4月28日から昭和48年4月27日まで 定数36）

池上 一雄	茂木立好則	位高 勉	永山 忠男	前島 成光	佐藤力三郎
今牧 照男	齊藤 宗義	小松 芳男	江塚 善二	宮内 昇	大蔵 浜雄
松下 茂	原 茂	原 康次	原田 正志	熊谷政一郎	西尾 仁一
中山 栄次	辻 虎松	榊田 太一	内田 篤	伊東 秀彦	北原 正司
松嶋 健次	今村 輝男	林 昌平	新井 安男	片桐 勲	近松 宗一
宮嶋 繁	熊谷 武志	市村 保人	鳴海 衛	伊原 悦雄	松江 良夫

サ 昭和47年10月22日執行（補欠選挙 任期は昭和47年10月23日から昭和48年4月27日まで 定数2）

森本 藤登 今牧 泰三

シ 昭和48年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和48年4月28日から昭和52年4月27日まで 定数36）

大蔵 浜雄	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	前島 成光	佐藤力三郎
片桐七右衛門	伊藤 祐春	太田 猶市	佐々木 勝	平澤 與一	尾沢 貞夫
松下 茂	森本 藤登	佐々木清信	鳴海 衛	原 茂	松江 良夫
伊東 秀彦	松嶋 健次	今牧 泰三	内田 篤	西尾 仁一	橋部 肇
齊藤 為良	新井 安男	市村 保人	齊藤 宗義	今村 輝男	北原 正司
伊原 悦雄	近松 宗一	江塚 善二	宮内 昇	茂木立好則	林 昌平

ス 昭和51年10月17日執行（補欠選挙 任期は昭和51年10月18日から昭和52年4月27日まで 定数3）

熊谷 康登 西尾 保雄 片桐 勲

セ 昭和52年4月17日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和52年4月28日から昭和56年4月27日まで 定数30に減少）

片桐七右衛門	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	熊谷 康登	齊藤 宗義
竹村 仁實	木下 登	原 広男	原 康次	松下 茂	西尾 保雄
内田 篤	森本 藤登	今村 馨	平澤 與一	片桐 勲	中島 勝美
林 利実	尾沢 貞夫	橋部 肇	細田 直彦	佐々木文雄	佐々木 勝
齊藤 為良	西尾 仁一	茂木立好則	松江 良夫	林 昌平	伊原 悦雄

ソ 昭和55年10月19日執行（補欠選挙 任期は昭和55年10月20日から昭和56年4月27日まで 定数1）

内山 照美

タ 昭和56年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和56年4月28日から昭和60年4月27日まで 定数30）

塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	前島 成光	熊谷 康登
片桐 芳朗	塩沢 文朗	中田 修	竹村 仁實	今村 馨	内山 照美
木下 登	西尾 保雄	原 康次	森本 藤登	中島 勝美	片桐七右衛門
松島 健次	原 広男	細田 直彦	平澤 與一	松下 茂	内田 篤
松江 良夫	林 昌平	片桐 勲	尾沢 貞夫	茂木立好則	伊原 悦雄

チ 昭和59年10月21日執行（補欠選挙 任期は昭和59年10月22日から昭和60年4月27日まで 定数1）

今村 八束

ツ 昭和59年12月1日執行（鼎町合併により鼎町議員が引き続いて市議会議員として在任 任期は昭和59年12月1日から昭和60年4月27日まで 定数52）

田原 慶一	武田 良人	中村 岸美	中島文三郎	木下 為輔	関島 一郎
五十君酒造大	高木 敏美	松沢アサエ	河村 弘久	水野佐知穂	村沢 延
吉川 義治	今村 淳	村沢 博	鷺見 知一	北沢 芳男	新井紀一郎
片桐 司郎	下田 武志	小林 雅夫	関島 秀夫		

テ 昭和60年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和60年4月28日から平成元年4月27日まで 定数31）

田中 秀典	下平 一郎	小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 昌子
熊谷 康登	牧内 信臣	櫻井 俊夫	久保田 元	吉川 義治	武田 良人
今村 八束	原 広男	今村 淳	塩沢 文朗	片桐 司郎	西尾 保雄
塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	関島 一郎	内山 照美
森本 藤登	松下 茂	竹村 仁實	細田 直彦	尾沢 貞夫	平澤 與一
松嶋 健次					

ト 昭和63年10月16日執行（補欠選挙 任期は昭和63年10月17日から平成元年4月27日まで 定数2）

小林 利一 長谷部徳治

ナ 平成元年4月23日執行（任期満了一般選挙 任期は平成元年4月28日から平成5年4月27日まで 定数31）

西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫	吉川 昌子
牛山 重一	牧内 信臣	塩澤 俊彦	長谷部徳治	伊藤 芳之	小林 利一

関島 秀夫	下平 一郎	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎
小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	久保田 元	吉川 義治	今村 八束
西尾 保雄	塩澤 昭	實原 裕	平田 友畝	内山 照美	竹村 仁實
松江 良夫					

ニ 平成4年10月18日執行（補欠選挙 任期は平成4年10月19日から平成5年4月27日まで 定数1）

井出 健介

又 平成5年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は平成5年4月28日から平成9年4月27日まで 定数31）

柄澤 紀春	菅沼 立男	吉川 四郎	實原 公男	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	牛山 重一	牧内 信臣	吉川 昌子	塩澤 俊彦
長谷部徳治	西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫
伊藤 芳之	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎	小林 利一
下平 一郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 義治	今村 八束	實原 裕
竹村 仁實					

ネ 平成5年8月1日執行（上郷町編入合併に伴う増員選挙 任期は平成5年8月2日から平成9年4月27日まで 定数5）

中田 裕康 井坪 隆 岩崎 和男 岡島 豊 大坪 勇

ノ 平成8年10月20日執行（補欠選挙 任期は平成8年10月21日から平成9年4月27日まで 定数1）

矢澤 芳文

ハ 平成9年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は平成9年4月28日から平成13年4月27日まで 定数31）

佐藤久美子	小池 清	清水 可晴	佐々木重光	原 勉	中島武津雄
上澤 義一	荒木 興利	大坪 勇	牛山 重一	牧内 信臣	矢澤 芳文
井坪 隆	岩崎 和男	林 幸次	渡 淳	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好	柄澤 紀春	菅沼 立男	實原 公男
吉村徳一郎	佐藤 好英	中田 佳甫	小林 利一	今村 八束	片桐 司郎
竹村 仁實					

ヒ 平成12年10月15日執行（補欠選挙 任期は平成12年10月16日から平成13年4月27日まで 定数1）

原 和世

フ 平成13年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は平成13年4月28日から平成17年4月27日まで 定数31）

木下 容子	下平 勝熙	伊壺 敏子	大谷 恵子	湯澤 宗保	森本美保子
村松まり子	牛山満智子	清水 可晴	小池 清	牛山 重一	牧内 信臣
原 和世	原 勉	林 幸次	渡 淳	久保田平八郎	柄澤 紀春
菅沼 立男	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	荒木 興利	井坪 隆
岩崎 和男	矢澤 芳文	熊谷 富夫	下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好
小林 利一					

ヘ 平成16年10月24日執行（補欠選挙 任期は平成16年10月25日から平成17年4月27日まで 定数2）

後藤 荘一 木下 克志

ホ 平成17年4月24日執行（任期満了一般選挙 任期は平成17年4月28日から平成21年4月27日まで 定数27）

清水 勇	代田 剛嗣	新井信一郎	内山 要子	吉川 秋利	伊藤 清春
永井 一英	木下 容子	下平 勝熙	後藤 荘一	木下 克志	湯澤 宗保
森本美保子	柄澤 紀春	村松まり子	林 幸次	清水 可晴	伊壺 敏子
原 和世	原 勉	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	矢澤 芳文
岩崎 和男	熊谷 富夫	牧内 信臣			

マ 平成17年10月30日執行（上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙 任期は平成17年10月31日から平成21年4月27日まで 定数2）

山崎 紀男 後藤 修三

ミ 平成21年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は平成21年4月28日から平成25年4月27日まで 定数23に減少）

湯澤 啓次	湊 猛	清水 勇	吉川 秋利	永井 一英	福沢 清
内田 雄一	牛山満智子	新井信一郎	木下 克志	木下 容子	下平 勝熙
村松まり子	森本美保子	後藤 荘一	伊壺 敏子	中島武津雄	上澤 義一
清水 可晴	林 幸次	井坪 隆	原 和世	原 勉	

ム 平成25年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は平成25年4月28日から平成29年4月27日まで 定数23）

竹村 圭史	木下 徳康	熊谷 泰人	湯澤 啓次	山崎 昌伸	森本 政人
古川 仁	小倉 高広	湊 猛	新井信一郎	清水 勇	吉川 秋利
永井 一英	木下 容子	福沢 清	後藤 荘一	木下 克志	中島武津雄
村松まり子	林 幸次	清水 可晴	井坪 隆	原 和世	

メ 平成29年4月16日執行（任期満了一般選挙 任期は平成29年4月28日から平成33年4月27日*
日まで 定数23）
（平成33年は2021年、令和3年）

清水優一郎	岡田 倫英	塚平 一成	竹村 圭史	小林 真一	福澤 克憲
古川 仁	木下 徳康	山崎 昌伸	熊谷 泰人	湯澤 啓次	永井 一英
福沢 清	木下 容子	後藤 荘一	湊 猛	新井信一郎	清水 勇
吉川 秋利	木下 克志	村松まり子	井坪 隆	原 和世	

モ 令和3年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は令和3年4月28日から令和7年4月27日まで 定数23）

小平 彰	下平 恒男	橋爪 重人	西森 六三	宮脇 邦彦	関島 百合
市瀬 芳明	筒井 誠逸	清水優一郎	岡田 倫英	福澤 克憲	竹村 圭史
小林 真一	佐々木博子	古川 仁	木下 徳康	山崎 昌伸	熊谷 泰人
新井信一郎	清水 勇	永井 一英	井坪 隆	原 和世	

ヤ 令和5年3月31日、新井信一郎議員が令和5年4月9日執行の長野県議会議員一般選挙（飯田市下伊那郡選挙区）への立候補により辞職

3 1年間の記録

(1) 付議事件及び議決結果一覧表

① 市長提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第1号	令和3年度飯田市一般会計補正予算（第12号）案	4.2.1	4.2.1	可決
議案第2号	監査委員の選任について	4.2.24	4.2.24	同意
議案第3号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	4.2.24	4.2.24	同意
議案第4号	飯田市東野財産区管理委員の選任について	4.2.24	4.2.24	同意
議案第5号	職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第6号	資金積立基金条例の一部を改正する条例の制定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第7号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第8号	飯田市市民協働サロン条例の一部を改正する条例の制定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第9号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第10号	飯田市営住宅等条例の一部を改正する条例の制定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第11号	飯田市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第12号	飯田市恒川史跡公園条例の制定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第13号	飯田市美術博物館条例の一部を改正する条例の制定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第14号	飯田市立図書館条例の一部を改正する条例の制定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第15号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第16号	損害賠償の額を定めることについて	4.2.24	4.3.22	可決
議案第17号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市保健休養施設）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第18号	市道路線の認定について	4.2.24	4.3.22	可決
議案第19号	損害賠償の額を定めることについて	4.2.24	4.3.22	可決
議案第20号	令和3年度飯田市一般会計補正予算（第13号）案	4.2.24	4.3.22	可決
議案第21号	令和3年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）案	4.2.24	4.3.22	可決
議案第22号	令和3年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第2号）案	4.2.24	4.3.22	可決
議案第23号	令和3年度飯田市病院事業会計補正予算（第3号）案	4.2.24	4.3.22	可決
議案第24号	令和3年度飯田市各財産区会計補正予算（第2号）案	4.2.24	4.3.22	可決
議案第25号	令和4年度飯田市一般会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第26号	令和4年度飯田市国民健康保険特別会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第27号	令和4年度飯田市後期高齢者医療特別会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第28号	令和4年度飯田市介護保険特別会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第29号	令和4年度飯田市地方卸売市場事業特別会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第30号	令和4年度飯田市駐車場事業特別会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第31号	令和4年度飯田市墓地事業特別会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第32号	令和4年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第33号	令和4年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第34号	令和4年度飯田市病院事業会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第35号	令和4年度飯田市水道事業会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第36号	令和4年度飯田市下水道事業会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第37号	令和4年度飯田市各財産区会計予算（案）	4.2.24	4.3.22	可決
議案第38号	教育長の任命について	4.3.22	4.3.22	同意
議案第39号	飯田市東野財産区管理委員の選任について	4.5.24	4.5.24	同意
議案第40号	飯田市松尾地区財産区管理委員の選任について	4.5.24	4.5.24	同意
議案第41号	飯田市鼎財産区管理委員の選任について	4.5.24	4.5.24	同意
議案第42号	飯田市税条例等の一部を改正する条例の制定について	4.5.24	4.6.17	可決
議案第43号	飯田市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例の制定について	4.5.24	4.6.17	可決
議案第44号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	4.5.24	4.6.17	可決
議案第45号	飯田市南信濃観光施設等条例の一部を改正する条例の制定について	4.5.24	4.6.17	可決
議案第46号	飯田市病院等料金条例の一部を改正する条例の制定について	4.5.24	4.6.17	可決
議案第47号	飯田市コミュニティ防災センター条例の一部を改正する条例の制定について	4.5.24	4.6.17	可決
議案第48号	工事請負契約の締結について（令和元年度社会資本整備総合交付金事業道路改良工事）	4.5.24	4.6.17	可決
議案第49号	和解をすることについて	4.5.24	4.6.17	可決
議案第50号	損害賠償の額を定めることについて	4.5.24	4.6.17	可決
議案第51号	令和4年度飯田市一般会計補正予算（第2号）案	4.5.24	4.6.17	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第52号	令和4年度飯田市一般会計補正予算（第3号）案	4.6.7	4.6.17	可決
議案第53号	飯田市特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	4.6.17	4.6.17	可決
議案第54号	教育委員会の委員の任命について	4.8.30	4.8.30	同意
議案第55号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	4.8.30	4.8.30	同意
議案第56号	飯田市野底財産区管理委員の選任について	4.8.30	4.8.30	同意
議案第57号	職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	4.8.30	4.9.21	可決
議案第58号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	4.8.30	4.9.21	可決
議案第59号	飯田市大十区財産区積立基金条例を廃止する条例の制定について	4.8.30	4.9.21	可決
議案第60号	飯田市営駐車場条例の一部を改正する条例の制定について	4.8.30	4.9.21	可決
議案第61号	工事請負契約の一部変更について（農業施設等補助災害復旧事業頭首工復旧工事）	4.8.30	4.9.21	可決
議案第62号	令和3年度飯田市水道事業剰余金の処分について	4.8.30	4.9.21	可決
議案第63号	令和3年度飯田市下水道事業剰余金の処分について	4.8.30	4.9.21	可決
議案第64号	令和4年度飯田市一般会計補正予算（第6号）案	4.8.30	4.9.21	可決
議案第65号	令和4年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第1号）案	4.8.30	4.9.21	可決
議案第66号	令和4年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第1号）案	4.8.30	4.9.21	可決
議案第67号	令和3年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第68号	令和3年度飯田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第69号	令和3年度飯田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第70号	令和3年度飯田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第71号	令和3年度飯田市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第72号	令和3年度飯田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第73号	令和3年度飯田市墓地事業特別会計歳入歳出決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第74号	令和3年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計歳入歳出決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第75号	令和3年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計歳入歳出決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第76号	令和3年度飯田市病院事業決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第77号	令和3年度飯田市水道事業決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第78号	令和3年度飯田市下水道事業決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第79号	令和3年度飯田市各財産区会計歳入歳出決算認定について	4.8.30	4.9.21	認定
議案第80号	令和4年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案	4.11.7	4.11.7	可決
議案第81号	飯田市個人情報の保護に関する法律施行条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第82号	職員の分限に関する条例等の一部を改正する等の条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第83号	飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第84号	飯田市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第85号	飯田市職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第86号	飯田市職員の高齢者部分休業に関する条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第87号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第88号	飯田市立診療所条例の一部を改正する条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第89号	飯田市山本区財産区管理会条例の一部を改正する条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第90号	飯田市営住宅等条例の一部を改正する条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第91号	飯田市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第92号	飯田市奨学金貸与条例の一部を改正する条例の制定について	4.11.22	4.12.16	可決
議案第93号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市デイサービスセンター）	4.11.22	4.12.16	可決
議案第94号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市地域資源総合管理施設）	4.11.22	4.12.16	可決
議案第95号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市大平宿生活原体験施設）	4.11.22	4.12.16	可決
議案第96号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市上村若者センター等）	4.11.22	4.12.16	可決
議案第97号	損害賠償の額を定めることについて	4.11.22	4.12.16	可決
議案第98号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田運動公園プール）	4.11.22	4.12.16	可決
議案第99号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市旧小笠原家書院・小笠原資料館）	4.11.22	4.12.16	可決
議案第100号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市上村山村文化資源保存伝習施設）	4.11.22	4.12.16	可決
議案第101号	令和4年度飯田市一般会計補正予算（第8号）案	4.11.22	4.12.16	可決
議案第102号	令和4年度飯田市墓地事業特別会計補正予算（第1号）案	4.11.22	4.12.16	可決
議案第103号	令和4年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第1号）案	4.11.22	4.12.16	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第104号	令和4年度飯田市病院事業会計補正予算(第1号)案	4.11.22	4.12.16	可決
議案第105号	令和4年度飯田市水道事業会計補正予算(第1号)案	4.11.22	4.12.16	可決
議案第106号	令和4年度飯田市下水道事業会計補正予算(第1号)案	4.11.22	4.12.16	可決
議案第107号	工事請負契約の一部変更について(産業用地整備事業龍江インター産業団地整備工事)	4.12.7	4.12.16	可決
議案第108号	工事請負契約の締結について(交通安全対策事業道路改良工事)	4.12.7	4.12.16	可決

② 議会提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
発議第1号	ロシアのウクライナに対する侵攻を非難する決議について	4.3.9	4.3.9	可決
発委第1号	飯田市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について	4.2.24	4.2.24	可決
発委第2号	飯田市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について	4.2.24	4.2.24	可決
発委第3号	安全・安心の医療・介護・保健所体制を拡充し、住民のいのちと健康を守ることを求める意見書の提出について	4.3.22	4.3.22	可決
発委第4号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について	4.9.21	4.9.21	可決
発委第5号	さらなる少人数学級推進と教育予算の増額及び義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書の提出について	4.9.21	4.9.21	可決
発委第6号	不登校児童生徒に対して多様な学習機会の確保のための経済的支援制度の確立を求める意見書の提出について	4.9.21	4.9.21	可決

③ 報告議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
報告第1号	専決処分の承認を求めることについて（令和3年度飯田市一般会計補正予算（第11号））	4.2.1	4.2.1	承認
報告第2号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.2.1		
報告第3号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.2.1		
報告第4号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.2.24		
報告第5号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について）	4.5.24	4.5.24	承認
報告第6号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について）	4.5.24	4.5.24	承認
報告第7号	専決処分の承認を求めることについて（令和3年度飯田市一般会計補正予算（第14号））	4.5.24	4.5.24	承認
報告第8号	専決処分の承認を求めることについて（令和4年度飯田市一般会計補正予算（第1号））	4.5.24	4.5.24	承認
報告第9号	専決処分の承認を求めることについて（令和3年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第3号））	4.5.24	4.5.24	承認
報告第10号	専決処分の承認を求めることについて（令和3年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第3号））	4.5.24	4.5.24	承認
報告第11号	専決処分の承認を求めることについて（令和3年度飯田市地方卸売市場事業特別会計補正予算（第1号））	4.5.24	4.5.24	承認
報告第12号	専決処分の承認を求めることについて（令和3年度飯田市駐車場事業特別会計補正予算（第1号））	4.5.24	4.5.24	承認
報告第13号	専決処分の承認を求めることについて（令和3年度飯田市墓地事業特別会計補正予算（第2号））	4.5.24	4.5.24	承認
報告第14号	専決処分の承認を求めることについて（令和3年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第1号））	4.5.24	4.5.24	承認

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
報告第15号	専決処分報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.5.24		
報告第16号	権利の放棄について（医療及び介護の扶助に係る債権）	4.5.24		
報告第17号	権利の放棄について（病院料金に係る債権）	4.5.24		
報告第18号	権利の放棄について（水道料金に係る債権）	4.5.24		
報告第19号	令和3年度飯田市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	4.5.24		
報告第20号	令和3年度飯田市病院事業会計予算繰越計算書の報告について	4.5.24		
報告第21号	令和3年度飯田市水道事業会計予算繰越計算書の報告について	4.5.24		
報告第22号	令和3年度飯田市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について	4.5.24		
報告第23号	飯田市土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出について	4.5.24		
報告第24号	株式会社飯田健康温泉の経営状況を説明する書類の提出について	4.5.24		
報告第25号	一般財団法人飯田勤労者共済会の経営状況を説明する書類の提出について	4.5.24		
報告第26号	飯田清掃株式会社の経営状況を説明する書類の提出について	4.6.7		
報告第27号	専決処分の承認を求めることについて （令和4年度飯田市一般会計補正予算（第4号））	4.8.30	4.8.30	承認
報告第28号	専決処分の承認を求めることについて （令和4年度飯田市一般会計補正予算（第5号））	4.8.30	4.8.30	承認
報告第29号	専決処分報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.8.30		
報告第30号	専決処分報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.8.30		
報告第31号	専決処分報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.8.30		
報告第32号	専決処分報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.8.30		
報告第33号	専決処分報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.8.30		
報告第34号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	4.8.30		
報告第35号	令和3年度飯田市病院事業会計継続費精算報告書の報告について	4.8.30		
報告第36号	専決処分報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.11.7		
報告第37号	専決処分報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.11.7		
報告第38号	専決処分報告について（損害賠償の額を定めることについて）	4.11.7		

(2) 議会において執行した選挙・選任等

(令和4年1月から令和4年12月まで)

会期	年月日	選挙・選任の内容
第1回定例会	R4.2.24	・監査委員の選任
		・人権擁護委員の候補者の推薦
	R4.3.22	・飯田市東野財産区管理委員の選任 ・教育長の任命
第2回定例会	R4.5.24	・飯田市東野財産区管理委員の選任
		・飯田市松尾地区財産区管理委員の選任
		・飯田市鼎財産区管理委員の選任
第3回定例会	R4.8.30	・教育委員会の委員の任命
		・人権擁護委員の候補者の推薦
		・飯田市野底財産区管理委員の選任

(3) 委員会活動開催状況

(令和4年1月から令和4年12月まで)

	常任委員会							特別委員会	議会運営委員会	議会改革推進会議	広報広聴委員会	全員協議会
	総務委員会	社会文教委員会	産業建設委員会	予算決算委員会				リニア推進特別委員会				
				全体会	総務分科会	社会文教分科会	産業建設分科会					
委員会	9	5	5	12	11	9	9	6	21	4	11	-
協議会	8	7	5	-	-	-	-	1	-	-	-	13
計	17	12	10	12	11	9	9	7	21	4	11	13

(4)請願陳情

①請願議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
社文	4請願 第1号	国に対し、安全・安心の医療・介護・保健所体制を拡充し、住民のいのちと健康を守るための意見書を提出願いたい	4. 2. 24	4. 3. 22	採択
総務	4請願 第2号	国に対し、地方公共団体の財政需要を的確に把握し、これに必要な地方交付税等の一般財源総額を確保すること等を求める意見書を提出願いたい	4. 8. 30	4. 9. 21	採択
社文	4請願 第3号	国に対し、「さらなる少人数学級推進と教育予算の増額」及び「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書を提出願いたい	4. 8. 30	4. 9. 21	採択
総務	4請願 第4号	国に対し、再審制度の速やかな改正を求める意見書を提出願いたい	4. 11. 22	4. 12. 16	継続審査

※請願第1号から第3号までについては、いずれも国に対し意見書の提出を行いました。

②陳情議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
委員会付託なし	4陳情 第1号	国民の祝日「海の日」を7月20日に固定化する意見書を提出願いたい			審議なし
委員会付託なし	4陳情 第2号	女性トイレの維持及びその安心安全の確保について意見書を提出願いたい			審議なし
産建	4陳情 第3号	水田活用の直接支払交付金の見直しを中止し、交付金支払いを継続するよう意見書を提出願いたい	4. 5. 24	4. 6. 17	不採択
委員会付託なし	4陳情 第4号	沖縄を「捨て石」にしない安全保障政策を求める意見書を提出願いたい			審議なし
委員会付託なし	4陳情 第5号	中国共産党による臓器収奪の即時停止ならびに人権状況の改善を求める意見書を提出願いたい			審議なし
社文	4陳情 第6号	県に対し、へき地手当およびへき地手当に準じる手当の支給率を、教育の機会均等と教育水準の向上をはかるため、都市部との格差、いわゆる相対的へき地性がいっそう拡大している実情を十分把握しつつ、近隣県との均衡を勘案し、2005年度以前の水準に戻すことを要求されたい	4. 8. 30	4. 9. 21	趣旨採択
社文	4陳情 第7号	国に対し、「不登校の児童生徒がフリースクール等の学校以外の場において行う多様な学習活動に対して、負担軽減のための財政的支援の在り方について検討し、その結果に基づき必要な財政上の措置を講じること」、また、「フリースクール等民間施設の設定及び運営補助金等の経済的支援制度の確立を講じること」を求める意見書を提出願いたい	4. 8. 30	4. 9. 21	採択

※陳情第7号については、国に対し意見書の提出を行いました。

(5) 定例会の質問事項

① 令和4年飯田市議会第1回定例会一般質問通告表

令和4年3月9日、10日

No.	氏名	項目・要旨
1	小林 真一 (公明党)	<ol style="list-style-type: none">1 市長のビジョンについて<ol style="list-style-type: none">(1) 来年度を含め未来へ向けた市長の想い、考え方は2 令和4年度飯田市当初予算について<ol style="list-style-type: none">(1) 市民活動の再興としての(仮称)飯田駅前プラザ公共空間(創発エリア)の活用について<ol style="list-style-type: none">① (仮称)飯田駅前プラザと今までの飯田市民館の機能の違いは② 創発の場として、地域人教育との連携の考えは③ ホール機能を含め会場貸しのある他施設との兼ね合いは④ 多文化共生機能について「小さな世界都市」の位置づけは(2) デジタル技術の活用による市民サービスの向上について<ol style="list-style-type: none">① 国、県の計画との連携は② 市民のデジタル対応の底上げは(3) SDGsの実践について<ol style="list-style-type: none">① 飯田市におけるSDGsへの取り組み状況は② 2030年が一つの区切り、ゴールとなるが、2050年へつなげるための長期的な視点は(4) 移住に向けた支援強化について<ol style="list-style-type: none">① これまでの移住の取り組みと今後のマッチングについての考え方は(5) ゼロ予算事業への市長の意気込みは
2	竹村 圭史 (会派きぼう)	<ol style="list-style-type: none">1 市営駐車場の使用料改定の試行について<ol style="list-style-type: none">(1) 駐車場使用料改定の試行にあたり<ol style="list-style-type: none">① 試行を行う目的は② 試行実施をこの時期とした考えは③ 試行内容の検討における他市町村の事例についての調査・研究は(2) 無料時間枠の拡大および上限設定を設けるに至った考えは<ol style="list-style-type: none">① 無料時間枠拡大の考え方は② 上限額設定の考え方は③ 民間事業者の経営に対する影響をどのように考えているか(3) 収益確保に向けた具体的な考え方は<ol style="list-style-type: none">① 至近5年間の収益実績は② 1時間無料駐車量率は③ 減収見通しの考え方は④ まちなか回遊の促進による滞留時間を拡大し、収益確保につなげるための具体的な施策が必要と思うが、その考え方は2 小中学校の臨時休校中における対応について<ol style="list-style-type: none">(1) 臨時休校となった児童生徒の学ぶ機会の確保について<ol style="list-style-type: none">① オンライン授業の実施状況は② オンライン授業を実施したことの評価は③ 教育委員会として支援すべき課題は(2) オンライン授業による児童生徒の健康面における影響等への配慮について<ol style="list-style-type: none">① ドライアイ対策などの家庭への周知状況は② 健康面への影響度を軽減するためのVDT対策は③ 適度な目や身体のストレッチの指導をすべきでは
3	清水 優一郎 (新政いいだ)	<ol style="list-style-type: none">1 地域産業の活性化について<ol style="list-style-type: none">(1) 新事業参入、起業、副業の活性化について<ol style="list-style-type: none">① 新事業への参入や起業の状況は

No.	氏名	項目・要旨
	清水 優一郎	<ul style="list-style-type: none"> ② 事業承継ニーズと起業家とを結び付けられないか ③ 小さな起業や副業を支援できないか <p>(2) 農林業の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域を支える兼業農家への支援策は ② 森林所有者による自伐林業を活性化できないか <p>(3) 観光産業の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コロナ後を見据えた天龍峡エリア滞在型観光への取組状況は ② 民泊仲介大手Airbnb(エアビーアンドビー)社、南信州観光公社と連携した農家民泊の活性化への取組状況は <p>(4) 地域内経済循環を高めていくために事業者や市民とどのように取り組むか</p> <p>2 「ご当地ナンバー」の導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) これまでの提案の受け止めと検討経過は (2) 報道によると、国交省は2022年度の募集に向け、導入要件を更に緩和する方針で、軽自動車の台数算入を検討している。軽自動車を含む飯田市の登録自動車台数は (3) 「ご当地ナンバー」は地域活性化やシビックプライドの旗印となると考える。「飯田ナンバー」や「南信州ナンバー」などの導入への考えは
4	小平 彰 (新政いいだ)	<p>1 今後の飯田市のまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) リニア整備効果を地域振興に活かすビジョン案について <ul style="list-style-type: none"> ① 3重心の考え方は ② 交流重心エリアとなるリニア駅周辺について <ul style="list-style-type: none"> ア 家屋の移転はどの程度進んだか イ 移転者の意見は ③ 商業集積ゾーン(国道153号)とあるが、国道拡幅による隣接企業への影響は ④ 人口重心(生活利便向上エリア)の将来的な方向性について <ul style="list-style-type: none"> ア 根拠となった人口及び世帯数は イ 今後の農地利用の考えは (2) 飯田市の大規模事業の見通しについて <ul style="list-style-type: none"> ① 新文化会館建設事業について <ul style="list-style-type: none"> ア 大学誘致やアリーナ建設による建設適地への影響は イ 駐車場、収容人数などの規模は ② 飯田市教育文化センター(飯田市民館)について <ul style="list-style-type: none"> ア ホール利用状況はどうだったのか イ 廃止時期とその後の考えは ③ 鼎複合施設整備事業について <ul style="list-style-type: none"> ア 集約施設に対する市長の考えは イ 事業時期の見通しと費用は ウ 現施設を含めて駐車場は
5	古川 仁 (日本共産党)	<p>1 飯田市の国民健康保険の状況と窓口対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市の国民健康保険証の交付状況について <ul style="list-style-type: none"> ① 資格証明書の交付の状況は ② 短期保険証の交付の状況は <ul style="list-style-type: none"> ア 国民健康保険税の滞納により交付されない方はいるか イ 短期保険証の期間は ③ 保険証の交付に係る福祉まるごと相談(重層的支援係)の状況は ④ 医療の中断がないよう保険証を確実に届けるには <p>2 市民に寄り添い心かよう窓口対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 市長が思う心かよう窓口対応とは

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
6	市 瀬 芳 明 (日 本 共 産 党)	1 カーボンニュートラルの実現に向けて <ul style="list-style-type: none"> (1) ゼロカーボンシティ宣言後の取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> ① 市民への啓発は進んでいるか ② 3者共同声明後の市の進展は (2) 脱炭素な生活様式への転換について <ul style="list-style-type: none"> ① スマートファシリティ(照明の自動制御)の普及促進は ② EV車両への対応は 2 リニア関連事業について <ul style="list-style-type: none"> (1) 現状の周知を図るために <ul style="list-style-type: none"> ① 更なる情報の告知方法について <ul style="list-style-type: none"> ア コロナ対策をどう考えていくか イ ホームページの活用はできているか (2) 今後の住民に対する説明について <ul style="list-style-type: none"> ① 上郷工区について <ul style="list-style-type: none"> ア 地権者に対する説明は行われるか イ 陥没などがあった場合の責任の所在は ② リニア発生土の搬出入について <ul style="list-style-type: none"> ア モニタリング結果の報告は 3 社会体育施設への公衆無線LANについて <ul style="list-style-type: none"> (1) 拡大の考えは
7	福 澤 克 憲 (会 派 き ぼ う)	1 国の予算を受けての飯田市予算の考え方について <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度、国の補正予算(第1号)における飯田市への影響について <ul style="list-style-type: none"> ① 令和3年度に限り普通交付税基準財政需要額に創設された費目(臨時経済対策費、臨時財政対策債償還基金費)に伴う再算定による飯田市への追加交付額は ② 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の飯田市への交付額は ③ 予算充当、繰越の考え方は (2) 今後10年の財政見通しに係る予算の考え方について <ul style="list-style-type: none"> ① 初年度となる令和4年度予算の考え方は ② 財政運営目標の指標となっている実質公債費比率の見込みは(令和3・4年度(単年度)) 2 移住に向けた支援の強化と観光振興について <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市の魅力や実現可能なライフスタイルの発信とは (2) 農地付き空き家の活用の考えは (3) 身近な農業の魅力について <ul style="list-style-type: none"> ① 1日農業バイト「daywork」の状況は ② 市民農園の状況は ③ 今後の方向性は (4) 観光振興への取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> ① 「そらさんぽ天龍峡」やパーキングエリア周辺を活用した周遊滞在型観光のための新たな拠点づくりとは (5) 飯田市の魅力を伝えるために必要なものは
8	西 森 六 三 (会 派 き ぼ う)	1 遠山郷における地域振興について <ul style="list-style-type: none"> (1) 支援体制の強化について <ul style="list-style-type: none"> ① 室の新設に対する市長の考えは ② 部課を横断できる体制強化は ③ アクションプランの期間は (2) 道の駅「かぐらの湯」の現状について

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	西 森 六 三	<ul style="list-style-type: none"> ① 道の駅再生に向けた調査研究結果は <ul style="list-style-type: none"> ア 調査会社による調査報告は イ 存続価値および有用性の評価は ウ 温泉の必要性は ② 温泉の源泉工事事故後について <ul style="list-style-type: none"> ア 現況は イ 温泉復旧に対する市の考え方は (3) 防災拠点(ハブ)としての道の駅の整備について <ul style="list-style-type: none"> ① 求められる防災拠点としての機能は ② 整備計画は (4) ユネスコエコ・ジオパークの拠点設置について <ul style="list-style-type: none"> ① 体制について <ul style="list-style-type: none"> ア 担当の職員配置の現状は イ エコ・ジオパークの市の拠点は 2 新型コロナウイルス感染症対応について <ul style="list-style-type: none"> (1) 児童のワクチン接種について <ul style="list-style-type: none"> ① 市の接種開始時期と接種機関体制は ② 安全性と有効性について <ul style="list-style-type: none"> ア ワクチンの接種の安全性と有効性は イ 接種の判断と保護者への理解は (2) ワクチン接種後遺症および罹患後遺症について <ul style="list-style-type: none"> ① 後遺症に対する当圏域の体制は ② 市民の受診方法は 3 市有施設について <ul style="list-style-type: none"> (1) 未使用となっている市有施設について <ul style="list-style-type: none"> ① 公共施設マネジメントの中での未使用となっている施設のあり方は
9	関 島 百 合 (無 会 派)	<ul style="list-style-type: none"> 1 飯田市公民館のホール廃止について <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市公民館のホール廃止にかかる対応について <ul style="list-style-type: none"> ① 飯田市公民館のホールを利用していた市民への、ホール廃止による影響をどのようにとらえているか ② 飯田市公民館のホール廃止にかかる説明について <ul style="list-style-type: none"> ア 利用団体との協議は十分だったか イ 市民への説明は十分にできていたか ③ 飯田市公民館のホール利用者の、代替え施設への受け入れに問題は生じないか ④ 飯田市公民館のホール廃止と、(仮称)飯田駅前プラザの多目的ホールの開始に伴う、市のホールに関する総合的な情報提供は ⑤ 新飯田文化会館のホール整備をどのように考えているのか ⑥ ホールを含む飯田市公民館の取り壊しの予定と、跡地利用は (2) 備品のピアノについて <ul style="list-style-type: none"> ① 飯田文化会館と県文化センター、(仮称)飯田駅前プラザ、各地区公民館にあるピアノをどう生かすか 2 伝統的な観光文化と地場産業への支援について <ul style="list-style-type: none"> (1) 地域の観光文化と地場産業の継承について <ul style="list-style-type: none"> ① 伝統的な地場産業の水引は ② 観光資源の天竜舟下りは ③ コロナ禍で開催する「飯田お練りまつり」の意義は
10	宮 脇 邦 彦 (公 明 党)	<ul style="list-style-type: none"> 1 SDGsとZ世代について <ul style="list-style-type: none"> (1) Z世代との向き合い方について <ul style="list-style-type: none"> ① Z世代の特徴をどう考えるか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	宮 脇 邦 彦	<p>ア どのような価値観を持っているか</p> <p>② Z世代の環境意識はどうか</p> <p>③ ダイバーシティ(多様性)への理解は</p> <p>④ 中高年世代の関わり方はどう考えるか</p> <p>(2) Z世代の彼らと描く近未来について</p> <p>① SDGsと地域に根ざす教育について</p> <p>ア 環境文化都市再構築プラットフォームとは</p> <p>イ 南信州環境メッセとSDGsとの連動は</p> <p>ウ SDGsを学校のグランドデザインへ上げるには</p> <p>エ 飯田市のESDへの取り組みは</p> <p>オ ユネスコスクールへの試みは</p> <p>② 信州大学誘致と中高校生の関わりについて</p> <p>ア 4年生大学誘致への思いは</p> <p>イ Z世代の中高校生の意見を誘致へ反映できないか</p> <p>2 デジタル社会に欠かせないマイナンバーカードの普及促進について</p> <p>(1) マイナンバーカードの必要性について</p> <p>① マイナンバーカードを持つことのメリットについて</p> <p>ア 今後期待される活用方法は</p> <p>イ 飯田市の最新の交付率とその評価は</p> <p>ウ マイナポータルはどんな役割を担い、今後の期待はどうか</p> <p>エ 市内の医療機関における健康保険証としての使用率向上への課題と施策は</p> <p>オ 身分証明書としての代替効果はどう考えるか</p> <p>② 官民連携による魅力向上の取り組みについて</p> <p>ア 申請しやすい環境づくりとその課題は</p>
11	熊 谷 泰 人 (新 政 い い だ)	<p>1 アリーナ機能を中心とした複合施設整備について</p> <p>(1) 南信州広域連合が進めてきたアリーナ機能を中心とした複合施設整備事業の基本的考え方は</p> <p>(2) 飯田市の基本的考え方について</p> <p>① リニア開通後の新しい時代にマッチしたアリーナ施設とは</p> <p>② 施設の規模を客席数1000席とした考え方は</p> <p>③ 身の丈に合った施設とは</p> <p>(3) リニア開通効果を地域振興に活かすビジョンでは交流重心のなかに位置づけている。地域外への訴求力のある機能とは</p> <p>(4) リニア開通後の交流人口・関係人口の拡大や若者定住促進には地域スポーツの向上だけでなく、プロスポーツやコンサートなど「観る」ための、アリーナ機能を充実させた複合施設が必要と考えるが、どうか</p>
12	佐 々 木 博 子 (会 派 み ら い)	<p>1 とともに創る新しいコミュニティづくりについて</p> <p>(1) (仮称)飯田駅前プラザに関して</p> <p>① 「創発」という言葉の意図は</p> <p>② 創発コーディネーターをどのように活用していくか</p> <p>③ 利用者をどう増やしていくか</p> <p>(2) 中心市街地の食料品スーパーに関して</p> <p>① 中心市街地の食料品スーパーが閉店することについて、どのように考えているか</p> <p>② 買い物に不自由する不安を抱える地域住民に対して、どのように考えているか</p> <p>③ 中心市街地の賑わい創出に対する影響についてどう考えるか</p> <p>④ 食料品スーパーが閉店した後の空き施設への市の関わりは</p> <p>(3) 中心市街地活性化に関して</p>

No.	氏名	項目・要旨
	佐々木 博子	<ul style="list-style-type: none"> ① 中心市街地を活性化させる目的は ② 現状認識は ③ 中心市街地を活性化させることで、どのような価値を市に生み出したい
13	木下 徳康 (新政いいだ)	<p>1 新型コロナウイルス感染症の市の対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 水際対策(社会実験)として活用の抗原定性検査(簡易検査キット)について <ul style="list-style-type: none"> ① 社会実験としての現状は ② 小中学校での利用は (2) 感染が確認された事業所への水際対策支援は (3) 罹患された市民からの相談は (4) まん延防止等重点措置適用期間における市有施設の開館や閉館などの対応について <ul style="list-style-type: none"> ① 原則休館とした施設の判断基準は ② 例外的に開館、あるいは利用可能としている施設について <ul style="list-style-type: none"> ア 動物園等を開館した理由は イ 利用可能としている「市が認めるもの」とは ③ グラウンドなど屋外施設の利用をどう考えるか ④ マレットゴルフ場などの施設はどうか (5) まん延防止等重点措置適用期間における「一般が主催する行事・イベント」への市の対応について <ul style="list-style-type: none"> ① 市から主催者に対し、「感染防止安全計画」や「イベント開催時のチェックリスト」の提出を要請した事例はあるか (6) コロナ禍における飯田お練りまつり等への支援をどのように考えているか
14	新井 信一郎 (会派きぼう)	<p>1 林業政策から見る獣被害対策や観光・環境・防災維持のための里山整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 林業政策について <ul style="list-style-type: none"> ① ウッド・ショックを経験する中、現状は <ul style="list-style-type: none"> ア 木材の状況 イ 林業に従事する人材確保は ウ 獣害対策について <ul style="list-style-type: none"> i 現状は ii 人材育成や好事例から学ぶ対策は ② 森林環境譲与税について <ul style="list-style-type: none"> ア 運用状況は イ 今後の活用は ③ 森林経営管理制度について <ul style="list-style-type: none"> ア 現状は イ 飯田特有の小規模(1ha未満)の林家(森林所有者)の把握や、所有者の明確化は (2) 次世代につなぐ森林づくりについて <ul style="list-style-type: none"> ① スマート林業技術の活用は ② 森林3次元計測システム等活用への補助は ③ データの活用や蓄積による森林情報の共有化は ④ データを活用できる人材育成は (3) 里山の充実(環境・観光・防災)について <ul style="list-style-type: none"> ① 林業振興と併せた、ツリークライミングの推進は ② 遊歩道の整備や維持管理と利活用は <p>2 コロナ禍における飲食店等への対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 支援状況について <ul style="list-style-type: none"> ① 相談窓口等の状況は ② 各種専門機関へ申請委託(書類作成)は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	新 井 信 一 郎	<p>(2) コロナ禍故の支援策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① テイクアウトやキッチンカーの状況は ② スタンプラリー等の考えは <p>(3) これまでの支援策(補助金)等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 補助の使い勝手や、使途の追跡調査は <p>3 フィルムコミッションへの考えについて</p> <p>(1) 映画やCM等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 過去の経緯は ② その時の対応は <p>(2) 「フィルムコミッション」は、地域の資源を活かす新たな産業として雇用の創出や都市との人材交流等生まれ、必要と考えるがどうか</p> <p>(3) 「南信州フィルムコミッション」の設立がリニア新時代を迎えるにあたり、必要と考えるがどうか</p> <p>4 地域の安心安全のため、国土強靱化への考えと取り組みについて</p> <p>(1) 国が示す国土強靱化計画で、飯田市が必要と考える構想はあるか</p> <p>(2) 2020年に発刊した「飯田市防災ハンドブック」に示されるハザードエリア(天竜川沿線の浸水想定区域)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① どのようにして危険要因を排除するのか ② 国・県との連携は ③ 工程は <p>(3) リニア中央新幹線工事の発生土について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① どのくらい発生するのか ② どこに活用するのか ③ 天竜川沿線の浸水想定区域や今後の公共工事に絡め、地域の防災へ思い切った活用やストックはできないか

② 令和4年飯田市議会第2回定例会一般質問通告表

令和4年6月6日、7日

No.	氏名	項目・要旨
1	岡田 倫英 (会派きぼう)	<p>1 リニア中央新幹線長野県駅と周辺エリアについて</p> <p>(1) リニア駅前空間デザインノート策定後における社会状況の変化をどう受け止め、反映させるか</p> <p>① 静岡県の変向など開業時期の遅れへの影響は</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症による人流の変化は</p> <p>③ 気候変動による大雨の増加は</p> <p>④ ウッドショックをはじめ原材料費の高騰は</p> <p>(2) 駅周辺整備の実施設計に向けた市民説明・意見募集について</p> <p>① どのようなスケジュール、手法で進めていくか</p> <p>(3) リニア駅を中心とした交流重心の将来像について</p> <p>① 「2つの市街地をつくらない」理念に対し、経済活動をどのように考えていくか</p> <p>② 都市重心(中心市街地エリア)との相乗効果を具体的に議論していく段階だと考えるがどうか</p> <p>2 小中学校教育を取り巻く状況について</p> <p>(1) GIGAスクール構想の目的である、個別最適化された創造性を育む教育について</p> <p>① どのような取り組みを進めているか</p> <p>② 今後に向けた検討状況は</p> <p>(2) 運動部活動の地域移行について</p> <p>① スポーツ庁が示した方針をどう受け止めているか</p> <p>② 地域におけるスポーツ環境をどう整備していくか</p>
2	古川 仁 (日本共産党)	<p>1 飯田市の平和教育について</p> <p>(1) 世界情勢を受け戦争と平和についてどう考えるか</p> <p>(2) ムトスぶらざに開設した平和祈念館の活用は</p> <p>① 児童・生徒への取り組みは</p> <p>② 高校生・若者への取り組みは</p> <p>2 子どもの医療受診について</p> <p>(1) 子どもの医療受診の状況は</p> <p>(2) 低所得世帯の受診の状況は</p> <p>(3) 子ども・障がい者への医療費窓口完全無料化の考えは</p>
3	市瀬 芳明 (日本共産党)	<p>1 教育・福祉関連事業について</p> <p>(1) ヤングケアラーについて</p> <p>① 教育長の考えは</p> <p>② 現状の取り組みについて</p> <p>ア 関係機関との関わりは</p> <p>③ 中高生の5割に認知をさせるための周知は</p> <p>(2) 福祉関連事業所への支援について</p> <p>① BCP策定義務化後の支援について</p> <p>ア 現在の進捗状況の確認は</p> <p>イ 策定を促す取り組みはあるか</p> <p>② 共同送迎についての考え方は</p> <p>2 リニア関連事業について</p> <p>(1) 昨年行ったアンケート調査について</p> <p>① 市民の反応はどうか</p> <p>(2) オンライン報告会について</p>

No.	氏名	項目・要旨
	市瀬 芳明	<ul style="list-style-type: none"> ① なぜ動画配信となったか ② 視聴者数の把握は ③ 動画を見られない方たちへの配慮は ④ アンケートの集め方をどう考えるか
4	小平 彰 (新政いいだ)	<p>1 新しい時代のリニアについて</p> <p>(1) 市民向けリニアアンケート調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① アンケート調査はどのような概要か ② リニア中央新幹線及びリニア駅に対しての認知度について <ul style="list-style-type: none"> ア 市民の認知度はどうだったか イ 年齢による認知度の違いは ③ リニア中央新幹線及びリニア駅が整備されることへの関心について <ul style="list-style-type: none"> ア 市民の関心はどうだったか イ 年齢による関心度の違いは ④ アンケート調査項目「計画や進捗状況の情報量」に対する認知度はどうか <p>(2) リニア工事の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中央アルプストンネル(松川)について <ul style="list-style-type: none"> ア 工事の進捗状況はどうか イ 工事用車両の交通安全性は保たれているか ② JRのリニア駅工事の施工時期はいつか ③ リニア駅の周辺整備について <ul style="list-style-type: none"> ア リニア駅周辺工事の設計施工時期はいつか イ 駅前空間整備の考え方は ウ 情報発信をどのように行い市民の声をどのように受け止めているのか
5	山崎 昌伸 (新政いいだ)	<p>1 地域経済の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 地域経済の実態を把握するための指標は何か (2) 域内経済循環の飯田市の現状は (3) 域内経済循環を促進するための取り組みは (4) 域内経済循環の概況を調査するための「エシカル消費事業連携調査(家計簿)」とは、どのような調査か (5) 地域通貨導入に向けての動きは <p>2 市民が誇りをもてる環境文化都市の実現に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 環境省の「脱炭素先行地域」に対する考え方は (2) 電気自動車(EV)の普及にどう取り組むか
6	橋爪 重人 (新政いいだ)	<p>1 竜東地区の観光について</p> <p>(1) 竜東地区の観光についてどう考えているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 三遠南信自動車道が開通したICの観光利用は ② 下久堅広域農道からの眺望を活用してはどうか ③ 上久堅地区内にある観光資源(神之峰の眺望)の宣伝・整備の方針は <p>2 空き家対策について</p> <p>(1) 空き家対策についてどう考えているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 現在の空き家の状況はどうか ② 空き家バンクについて <ul style="list-style-type: none"> ア 実際の空き家の数と登録件数の差の要因は何か イ 市街地と山間部の空き家対策に違いはあるか ③ 宅建協会との連携はどのようにしているか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
7	筒 井 誠 逸 (新 政 い い だ)	<p>1 リニアで活かす「まちづくり」について</p> <p>(1) 飯田市にリニア駅が出来るそのメリットは</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 南信州への来訪者は1日何人くらいの増加を見込んでいるか。また、増加のための戦略はあるか <ul style="list-style-type: none"> ア 観光の観点では イ ビジネス・その他の観点では ② 開通後、県外からの移住・定住者の増加はどのくらい見込んでいるか、年間目標はあるか ③ 飯田市の人口増にリニアを活用する考えはあるか。また、そのための施策はあるか ④ 子育て世帯が増加すると市が活性化すると思うがどうか ⑤ リニアを活かした移住・定住策に対する市長の考えは <p>(2) 平成19年7月施行の「飯田市土地利用基本方針」の限りある土地の資源(資産価値から社会的価値)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 具体的にどの様なビジョンがあるか ② 市営住宅の建替が開始、又は計画されているが、移住者専用に着替を予定しているか。また、今後考えていく必要があると思うがどうか ③ 移住者に対して市の所有している土地を安価で賃貸、又は売却する計画はあるか ④ 市所有の遊休土地の活用に民間事業者の介入が必要と思うがどうか。また、民間事業者の介入となれば条例の変更は必要か ⑤ リニア工事の残土を利用し、市所有の土地へ新たに宅地造成して移住者に宅地を提供する計画は可能か
8	福 澤 克 憲 (会 派 き ぼ う)	<p>1 コロナ禍における市民、事業所の状況と飯田市の支援について</p> <p>(1) コロナ禍における市民生活の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 納税猶予、水道料金・下水道使用料支払いの猶予から1年を経過した現在の状況は(事業者も含め) ② 生活福祉資金制度(緊急小口資金・総合支援資金)による貸付・償還状況は ③ 住居確保給付金の受給者の状況は ④ 生活保護世帯の認定状況は ⑤ 子育て世帯の状況について <ul style="list-style-type: none"> ア 就学援助費の認定状況は <p>(2) 働くことを軸とする安心社会の実現に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 飯田市第6波対応事業継続支援金の給付状況は ② セーフティネット4・5号、危機関連保証、県・市制度資金の状況は ③ 国の雇用調整助成金の動向を受け、飯田市の考えは ④ 事業所からの声は <p>(3) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金(コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 飯田市への交付決定額は ② 交付金の活用の考え方は ③ 地域公共交通を維持・確保するための取り組みは <p>(4) 今後の方向性は</p>
9	宮 脇 邦 彦 (公 明 党)	<p>1 コロナ禍からの出口をどう見るかについて</p> <p>(1) コロナワクチン接種を若い世代へどう進めるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 年代別のコロナワクチン接種状況は <ul style="list-style-type: none"> ア 若い世代へ接種が進まないことへの認識は イ その課題は ウ 若い世代への接種を進める広報は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	宮 脇 邦 彦	<p>エ 接種会場集約の背景は オ 小児接種への啓発は</p> <p>(2) コロナ禍で見た子どもたちへの課題は ① 学校生活での子どもたちへの影響は ア 学級閉鎖時の支援は イ 学校教育での子どもを見守る体制は ウ コロナ禍での不登校者増加の分析と対策は</p> <p>(3) コロナ禍からの出口戦略で重要なことは ① 市長の考えは ② 地域内経済循環の更なる取り組みは</p> <p>2 ヤングケアラー対策について (1) 国の実態調査結果の受け止めについて ① 学校現場における実態調査の課題は ア 教育委員会の支援は ② 行政における実態把握の課題は ア 当市の体制をどう考えるか イ 国からの支援をどう活かすか ウ 当初予算の計画と現状は エ 先進地との情報共有の検討は</p>
10	関 島 百 合 (会 派 み ら い)	<p>1 飯田市立動物園を観光とまちづくりにどう生かすか (1) 飯田市立動物園を訪れる来園者への課題について ① 来園者による賑わいが、中心市街地の観光とまちづくりに生かされているか ② 来園者が次に出かけたいと思うニーズの把握は ③ りんご並木や四季の広場、人形時計塔ハミングパルなど、市がこれまで築いた資産を生かしながら、来園者を中心市街地から逃がさないためにできることは</p> <p>(2) 飯田市立動物園の現状から見える課題について ① 指定管理とスタッフの現状 ② 施設の現状 ③ 高騰する飼料、燃料代などをどう捉えるか ④ 予算措置の見直しは ⑤ 安定経営に向けた新たな仕組み作りは</p> <p>2 「丘の上結いスクエア」を核とした中心市街地の活性化について (1) 飯田市公民館について ① ターゲットとする高校生を中心とした若い世代をどうつなぎ、どのように創発するのか ② 創発を実現して何をを目指すのか ③ 創発コーディネーターの位置付けと活用は ④ 親子連れや高齢者向けの環境づくりをどう考えるか (2) 「丘の上結いスクエア」を中心市街地の活性化に生かすためには ① 市が考える活性化へのビジョンは</p> <p>3 伝統的な地場産業と観光文化への支援について (1) 水引をテーマにした2つのドライブインがなくなった現状について ① どのような影響があるか ② 地場産業の水引を、市のブランドとしてどのように生かしていくか (2) 身近でおしゃれな水引の展開について ① 色彩を生かす取り組みは ② 女性の視点を生かした取り組みは (3) 天竜舟下りの今後の見直しは</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
11	下 平 恒 男 (新 政 い い だ)	<p>1 消防団の団員確保について</p> <p>(1) 消防団の重要性について</p> <p>① 消防団員の業務内容は</p> <p>ア 気候変動等で災害が多発する昨今であるが、現在の消防団業務にはどのようなものがあるか</p> <p>イ 当市における消防団員の位置付けと、令和3年度からスタートした第12次消防力整備計画の概要は</p> <p>② 消防団員数の現状は</p> <p>ア 地域から期待の大きい消防団であるが、現在の団員数と定員に対する割合は(女性消防団員も含む)</p> <p>イ 定員不足に地域の特徴がみられるか</p> <p>ウ 定員不足の要因をどのように考えるか</p> <p>(2) 非常備消防事業の内容について</p> <p>① 団員確保の取り組みは</p> <p>ア 事務事業進行管理表の中で、団員の確保は深刻な課題と書かれているが、その見解でよいか</p> <p>イ 多くの予算が盛られているが、団員の確保に向けてどのような取り組みを行っているか</p> <p>② 今後の団員確保に向けた取り組みは</p> <p>ア 団員への報酬と支払方法は</p> <p>イ 飯田市として、さらに団員確保に向けたPRが必要と思うかどうか</p>
12	西 森 六 三 (会 派 き ぼ う)	<p>1 介護予防事業について</p> <p>(1) 介護予防事業の現状について</p> <p>① 介護予防事業の昨年度の実績は</p> <p>ア 事業者委託での予防教室は</p> <p>イ まちづくり委員会等市民主体の予防教室は</p> <p>② 事業者委託の予防教室数が減少傾向の理由は</p> <p>③ 今年度の予防事業の計画は</p> <p>ア 事業者委託での予防教室は</p> <p>イ まちづくり委員会等市民主体の予防教室は</p> <p>④ 今後の予防教室の方向性は</p> <p>2 飯田市社会福祉協議会との関わりについて</p> <p>(1) パートナーシップ協定を締結していることについて</p> <p>① パートナーシップの考え方は</p> <p>② パートナーシップとしての情報共有は</p> <p>(2) 福祉施設の指定管理及び運営について</p> <p>① 収益の上がない施設について契約解除の申し出があった場合、市直営での運営はあり得るか</p> <p>3 公共施設の整備管理の考え方について</p> <p>(1) 補助金を活用した公共施設の整備に対する考え方は</p> <p>① 市長の考え方は</p>
13	永 井 一 英 (公 明 党)	<p>1 行政手続きの簡素化について</p> <p>(1) 今後押印廃止をどのように進めるか</p> <p>(2) 市民が複数の所管課に書類を提出する場合、氏名や住所など同じ内容を何度も記入する例がある。市の認識は。また、簡素化できないか</p> <p>(3) 来庁した市民が申請書を書けない場合の対応について</p> <p>① 職員が聞き取って代筆しているか</p> <p>② 埼玉県越谷市が「書かない窓口」の取り組みを始めた。どのような取り組みか承知しているか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
		<p style="text-align: center;">イ 「脱首都圏」の動きへの対応は</p> <p>2 ウクライナ支援について</p> <p>(1) 飯田市議会の総意にて「ロシアのウクライナに対する侵攻を非難する決議」がされた</p> <p>① 市の考えは</p> <p>② これまでの取り組みは</p> <p>③ 郡市民有志団体の活動について</p> <p style="padding-left: 2em;">ア どのような活動をされているかを把握しているか</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 支援策はあるか</p> <p>3 不登校支援について</p> <p>(1) 小中学校の不登校について</p> <p>① 現在の状況は</p> <p>② これまでの取り組みは</p> <p>③ 今後の取り組み目標は</p>

③ 令和4年飯田市議会第3回定例会一般質問通告表

令和4年9月13日、14日

No.	氏名	項目・要旨
1	原 和 世 (会派みらい)	<p>1 スポーツ施設の環境整備とスポーツ文化について</p> <p>(1) 飯田市総合運動場における環境整備に関して</p> <p>① 飯田市総合運動場条例では開場時間が午前8時30分から午後5時までとなっているが、利用実態に合わせるべきでは</p> <p>② 日没後の利用に関し照明等の設備が無いため簡易照明を利用しているが、暗く危険。以前から指摘しているが設置者としてどのように考えているか</p> <p>③ 今年から夏季合宿等に開放したところ、大学等の利用があった。このような機会を通じ、競技交流を図る考えは</p> <p>(2) 夜間照明テニスコートの整備に関して</p> <p>① 飯田市には夜間照明が整備されているテニスコートは無い。天龍峡テニスコートは人工芝であるため、照明整備により年間を通じ夜間まで利用出来ることから格段に利用環境が向上すると考えるがどうか</p> <p>(3) 飯田市の運動場トイレの水洗化に関して</p> <p>① 飯田市が設置する運動場は12カ所、野球場が1カ所ある。その内汲み取りが5カ所、仮設が1カ所となっている。特に利用者が多い桐林運動場、県民飯田運動広場運動場の水洗化と今宮野球場・県民飯田運動広場テニスコートの洋式化を進めることは</p> <p>(4) 芝生グラウンドの整備に関して</p> <p>① かねてより懸案となっているグラウンドの芝生化は</p> <p>(5) 生涯学習・スポーツ課の役割とスポーツ文化に関して</p> <p>① 生涯学習・スポーツ課の役割を分離し、生涯学習を公民館に移しスポーツ文化を図る上でスポーツ課とすることは</p> <p>(6) スポーツ施設整備のための財源に関して</p> <p>① 令和3年度の決算剰余金を使い集中して整備を進めることは</p> <p>2 飯田市立動物園の経営について</p> <p>(1) 動物園の設置目的と環境整備に関して</p> <p>① 動物園は扇町公園の一部として設置されているが、その設置目的を何においているか</p> <p>② 施設の老朽化と動物福祉の上から環境整備が求められると考えるが、現状をどの様にとらえているか</p> <p>(2) 動物園の将来ビジョンと経営に関して</p> <p>① 動物園の将来ビジョンについてどのような考えがあるか</p> <p>② 動物園を運営する上で、入園料無料についてどう考えるか</p> <p>③ 今後、動物園のポテンシャルを引き出すための経営をしていくという観点で、動物園のあり方について市民会議を含む検討の場を設ける考えは</p>
2	清 水 優 一 郎 (新政いいだ)	<p>1 移住・定住の推進について</p> <p>(1) 移住・定住の目的について</p> <p>① 飯田市人口ビジョンの進捗状況は</p> <p>② 飯田市における移住・定住推進の目的は</p> <p>(2) これまでの取り組みと課題について</p> <p>① アウタープロモーションについてはどうか</p> <p>② インナープロモーションについてはどうか</p> <p>(3) 選ばれる飯田市になるためには</p> <p>① 地域や地元企業とどう取り組むか</p> <p>② 庁内体制はどうか</p>

No.	氏名	項目・要旨
3	古川 仁 (日本共産党)	1 飯田市教育委員会の共催・後援について (1) 飯田市教育委員会の共催・後援の考え方は ① 現在、社会問題化している特定団体への対応は 2 飯田市平和祈念館について (1) 展示品の扱いについてどう考えるか 3 地域防災力の向上について (1) 「災害時での死亡者ゼロを目指す」をどのように実現するか ① 地域での助け合い・組合未加入について行政としてどう考えるか ② 消防団員不足問題を行政としてどう取り組むか
4	岡田 倫英 (会派きぼう)	1 信州大学新学部の誘致について (1) 信州大学が6月に「再検討」の意向を示したと伝えられているが、影響をどう捉えているか (2) 大学のあるまちづくりとは具体的にどのような考えか (3) 市の総合計画とどのような関連性を持たせていくか 2 個性を尊重し、多様な価値観を認め合う地域社会について (1) 中学校制服のジェンダーフリーを検討しているか (2) ジェンダー対策と人口減少対策は関連性があると考えますが、課題認識を持っているか (3) 多文化共生、創発の場を通じてジェンダーギャップ解消にさらに取り組んではどうか 3 ソーシャルビジネスの活用について (1) 市内における地域課題解決型事業の状況を把握しているか (2) 支援の仕組みを研究してはどうか (3) 部活動の地域移行に関してソーシャルビジネスを組み込んだ考えはどうか
5	宮脇 邦彦 (公明党)	1 がん予防の推進と支援について (1) がん予防について ① 当市の拠点病院とその役割は (2) 相談支援センターや緩和ケア充実への取り組みについて ① がん診断時からの緩和ケアの意義は ア がんを治し、患者・家族を支えるケアとは (3) 当市のがん検診の状況と課題について ① 検診受診率は ② 見えてくる課題は ③ 家族ぐるみで取り組む「がん対策」の評価は ④ 子宮頸がん検診の支援は (4) 胃がん予防について ① ピロリ菌検査の有効性とその効果は ア 早期発見の時期とその方法は イ がん征圧月間の広報は (5) アピアランスケアとその支援について ① 乳がん等におけるウイッグ助成は ② 市長の見解は (6) がん教育について ① 当市小中学校での実施状況とその評価は ② 小中学校での「がん教育の意義」は ③ がん教育の目標は ア 質の高いがん教育を行う上で大切な視点は イ 教科を超えた横断的な取り組みは

No.	氏名	項目・要旨
	宮脇邦彦	2 不登校特例校の設置推進について (1) 「不登校特例校」の認識について ① 設置へ向けた取り組みは
6	小平彰 (新政いいだ)	1 リニア駅周辺整備と取り巻く環境について (1) リニア駅周辺整備について ① リニア駅について ア 工事工程のスケジュールは イ 駅名称はどのように進めるか ② 第2回オンライン報告会の状況について ア 市民への浸透はどうだったのか イ 意見内容はどのようなものが多かったか ③ 駅周辺整備の予算に対する考えについて ア 建設事業費はどのように考えているか イ 南北の広場及び駐車場の維持管理に関する金額と管理はどうか (2) リニア駅の近郊について ① 国道153号飯田北改良について ア 工事開始と整備完了は イ 商業ゾーンの方向性はどうなっているか ② リニア駅とのアクセスについて ア 三遠南信自動車道との接続は イ 丘の上との接続は ③ ゼロカーボンシティ実現への取り組みについて ア 地域マイクログリッドの計画とは イ 平常時のリニア駅のゼロエミッションとは ウ 非常時の活用はどのような計画か
7	橋爪重人 (新政いいだ)	1 竹林整備について (1) 今回導入された多様な主体との協働による竹林整備支援事業の内容は ① この事業の趣旨は何か ② 多様な主体との協働による竹林整備支援事業の事業主体とは、また具体的な仕組みは ③ 初期整備と具体的な支援の内容はどうなっているか ④ 自走式竹破碎機の貸付料金体系についてはどのようになっているか ⑤ 竹林の生育を少しでも止める方法は、どのような事例があるか ⑥ 現在までの申請状況はどうか 2 物価高騰に対する支援について (1) 物価高騰による農業への影響をどのようにとらえているか ① 売価に転嫁できない農産物価格の支援策は ② 物価上昇が高止まりとなった場合支援の継続はあるか
8	市瀬芳明 (日本共産党)	1 コロナ第7波を受けての今後を活かす取り組みについて (1) 医療・介護・福祉関連事業について ① 事業所支援の取り組みは ア 従事者等に対する検査キットの活用状況を把握しているか イ 飯田市の緊急対策事業以外の要望は来ているか ② 子育て家庭への取り組みは ア 金銭面など負担感は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	市 瀬 芳 明	イ いいだ子育て応援アプリの活用は ③ 持続可能なスタッフ確保をどう考えるか (2) ムトスぶらざの利用について ① 各部屋の利用率はどうか ② 感染対策は (3) 自転車を使ったまちづくりについて ① 自転車の活用は ア レンタルサイクルの現状は イ サイクリングコースの検討は ウ 地域資源を活かした大会の開催は
9	福 澤 克 憲 (会 派 き ぼ う)	1 持続可能な地域社会の実現に向けて (1) 環境文化都市構築に向けたプラットフォームの状況について ① 地域・市民の皆さんへの取り組みは ② 事業者・団体の皆さんへの取り組みは ③ 今後の方向性は (2) 地域との協働によるマイクログリットの取り組みについて ① マイクログリットの実証状況は ② 環境共生住宅エリア構築の進捗状況は (3) ゼロカーボンシティに向けた今後の方向性は (4) 人と猫との共生について ① 「改正動物愛護管理法」の施行により義務付けられたマイクロチップの装着・登録による影響は ② 猫の譲渡や殺処分の状況は ③ 地域猫活動の考え方は 2 子育て環境の充実に向けて (1) 保育施設の長寿命化計画について ① 従来型(事後保全型)と長寿命化型(予防保全型)の考え方は ② 施設整備に係る公立保育所と民間保育所の財源の考え方は ③ 今後の方向性は
10	西 森 六 三 (会 派 き ぼ う)	1 リニア時代到来に向けた主要道路網整備について (1) リニア駅へのアクセス道路網について ① 西部方面の改良について ア 県道15号羽場大瀬木線及び国道153号アップル道路いいだから西部方面への南バイパスの改良の現状と今後の計画は ② 北部方面の改良について ア 国道153号アップル道路いいだから北部方面への改良の現状と今後の計画は イ リニア駅と元善光寺駅及びエスバードへのアクセス道路となる県道市場桜町線の改良の現状と今後の計画は ③ 南部方面の改良について ア 国道151号及び県道233号時又中村線(川路バイパス)から北への国道151号の改良の現状と今後の計画は ④ 東部方面の改良について ア 県道1号飯田富山佐久間線及び下久堅知久平線の改良の現状と今後の計画は イ 県道251号上飯田線の改良の現状と今後の計画は 2 南アルプスジオパークをつなぐ3市村の連絡道路整備について (1) 南アルプスジオパークをつなぐ道路について ① 国道152号の改良の現状と今後の計画は

No.	氏名	項目・要旨
	西森六三	3 飯田市が関わる期成同盟会の在り方について (1) 飯田市が関わる道路関連の促進期成同盟会の在り方について ① 連合長でもある市長は、飯田下伊那地域での力をより強くする必要性をどう考えるか
11	小林真一 (公明党)	1 投票を行う際の環境について (1) 投票所のバリアフリーなどの対応は ① 各投票所におけるバリアフリーへの対応状況は (2) 代理投票のあり方は ① 代理投票の実施方法、また依頼状況は ② 有権者に寄り添った対応となっているか ③ 事務に従事する職員への事前研修や教育は (3) 市民からの投票所における問い合わせや課題について事務従事者に共有はされているか (4) コロナ禍における投票は ① コロナ罹患者の対応は ② 郵便投票の仕組みと対象者は ③ コロナ等で入院中の有権者の投票は (5) 期日前投票のあり方は
12	佐々木博子 (会派みらい)	1 いいだ未来デザイン2028におけるジェンダーと多様性について (1) 基本目標10「個性を尊重し、多様な価値観を認め合い活動の場を広げる」とジェンダー・多様性に関して ① 「稼ぎ手男性中心社会」の変化に係る現状認識は ② 「男らしさ」の定義の変化と「男の生きづらさ」についてどう考えるか (2) 基本目標6「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」とジェンダー・多様性に関して ① 男性の育児うつに対する対応は ② 男性相談室の必要性は ③ 飯田市職員のワーク・ライフ・バランスについて、現状認識は ④ 男性職員への育休取得推進と、現場の現実とのギャップをどう考えるか (3) 基本目標3「“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む」とジェンダー・多様性に関して ① 多様性の中で「自分らしさ」を育むために学校教育からできることは何か (4) 基本目標4「豊かな“学びの土壌”を活かした“学習と交流”を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む」とジェンダー・多様性に関して ① 飯田型キャリア教育におけるジェンダー・多様性の考え方は ② ジェンダー・多様性を学ぶための対話の場を創るために社会教育からできることは何か
13	関島百合 (会派みらい) 【40分】	1 環境保全型農業(有機農業等)の構築について (1) 国の「みどりの食料システム戦略」をどう位置付けているか (2) 「有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク」への加入、飯田市を主会場に開催された「有機農業研究者会議2021」といった昨年度の取り組みを、どう生かしているか (3) 飯田市農業振興センターが今年度決議した環境保全型農業の推進にどう取り組んでいくか ① 「飯田市堆肥センター」の位置付けは ② 地域独自の認証制度への取り組みは (4) 近隣市町村との連携は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	関 島 百 合	2 有機給食への取り組みについて (1) 「CPPフランス」との交流から得たものは (2) 保育園と小中学校での取り組みは (3) 給食費の差額が生じた際の保育園と小中学校での対応は
14	木 下 徳 康 (新 政 い い だ)	1 「市民総健康」のための予防について (1) 健康寿命の延伸について ① 健康寿命の延伸は可能と考えるか ② 個人の健康に関して市の支援はどのように考え、実施しているか (2) フレイル(虚弱)予防に関して ① その重要性の考えは ② 周知と活動へのインセンティブは ア 高齢者にとって「フレイル」の名称の表現は適切か イ 千葉県柏市、東京都東大和市で行っているフレイル予防のためのインストラクター養成の考えは ウ 東京都北区、東大和市等で行っているポイント制度などの検討状況は (3) フレイルをはじめ市の予防策の評価について ① 市において高血圧症を最も高い重篤化リスク要因として評価した理由は ② 市の予防策の評価は客観的指標に基づいているか ③ 柏市で指標としている介護認定年齢の評価などを参考にしているかどうか (4) 今後の健康寿命を延伸するには

No.	氏名	項目・要旨
1	木下徳康 (新政いいだ)	<p>1 市長の市政運営と予算編成方針に関して</p> <p>(1) 市長就任2年間の市政運営の総括と今後の進め方について</p> <p>① 新型コロナ感染防止と経済活動・地域活動の両立に向けた取り組みの評価と今後の対応は</p> <p>② 「対話と現場主義」の取り組みと成果は</p> <p>③ いいだ未来デザインの「目指すまちの姿」と市長公約の「日本一住みたいまち」との関連は</p> <p>(2) 令和5年度予算編成の基本方針は</p> <p>① 考え方、思いは</p> <p>② 人口ビジョンと「目指すまちの姿」の関係をどう捉えているか</p> <p>(3) 地域内経済循環の推進について</p> <p>① 地域内通貨の導入の検討状況は</p> <p>② 地域内経済循環の指標の取り方の検討は</p> <p>2 リニア中央新幹線に関連して</p> <p>(1) 駅周辺整備における移転交渉等の進捗状況は</p> <p>(2) 二次交通の検討の進捗状況はどうか</p> <p>(3) 都市・人口・交流の三重心の考え方とその実現に向けた誘導策は</p> <p>3 大学のあるまちづくりの推進に関して</p> <p>(1) 新学部誘致活動から始まった大学のあるまちづくりをするには</p> <p>4 地域DXと情報発信の推進への取り組みの方向性は</p> <p>(1) 「全庁的な『行政DX』の推進」とは</p> <p>(2) 「地域課題の解決のために活用するデジタル技術」とは</p> <p>(3) 「将来を見据えた基盤整備」とは</p> <p>5 定住・交流人口の拡大について</p> <p>(1) 市が目指すブランディング戦略の目玉は何か</p> <p>(2) サテライトオフィス等開設の状況は</p> <p>(3) ムトスぶらざの活用状況と後は</p> <p>(4) 会派提言した「飯田市歴史研究所を美術博物館、中央図書館周辺に移転し、一帯を自然・歴史・文化の拠点と位置づけ、整備すること」の検討状況は</p> <p>6 歩いて周遊できるやま・さと・まちについて</p> <p>(1) ウォーキング推奨とコース設定の検討はどうか</p> <p>(2) 以前の産業建設委員会からの「道」と景観(ランドスケープ)に関する政策提案についての検討は</p> <p>7 検討されている大型インフラについて</p> <p>(1) 新文化会館建設の検討の経過と今後の展望は</p> <p>(2) 広域で検討されているアリーナ建設の検討状況は</p> <p>8 「健全財政の維持のために」について</p> <p>(1) 昨年立てた長期財政見通しの現時点での効果と今後についてはどうか</p> <p>9 「いいだ未来デザイン2028」基本目標達成に向けて</p> <p>(1) 市民との協働により達成することが必須となると考えるがどうか</p>
2	岡田倫英 (会派きぼう)	<p>1 市長の市政運営と予算編成について</p> <p>(1) コロナ対策、物価高騰対策への対応が続く中での市政運営の進め方について</p> <p>① 財源確保を含め令和5年度予算編成の考え方は</p> <p>② コロナ禍に見舞われて3年経つが、感染拡大防止対策の進め方は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	岡田倫英	<p>③ 佐藤市政の前半2年間を総括する上で、後半2年間で力を入れる政策は</p> <p>(2) 環境文化都市の再構築を進めるにあたり、特にエネルギー政策の道筋は</p> <p>2 リニア、三遠南信時代に向けたまちづくりについて</p> <p>(1) リニア駅周辺整備及び交流重心内のまちづくりについて</p> <p>① 駅周辺整備にかかる土木実施設計が示されるなど事業が本格化する中、市民の関心をどう認識しているか</p> <p>② 乗換新駅をつくらない方針が示されたが、JR飯田線との接続をはじめ二次交通の整備をどう考えていくか</p> <p>③ 交流重心内における民間投資の促進をどう図っていくか</p> <p>(2) 「若年層が『住みたい』と思うまちづくり」「大学のあるまちづくり」の考え方は</p> <p>(3) 中心市街地における「賑わいのあるまちづくり」の考え方は</p> <p>(4) 人の流れを呼び込む地域資源の一つとして、アウトドアレジャーの魅力をどう認識するか</p> <p>3 産業振興と移住促進について</p> <p>(1) 産業団地の造成、計画が進む一方、労働人口の確保も課題だと考えられるが、どう対応していくか</p> <p>(2) 農地付き空き家を就農移住定住の魅力として打ち出していく考えはどうか</p> <p>4 災害に強いまちづくりについて</p> <p>(1) 避難所等の生活環境整備に向けてトイレ、キッチン、ベッドの充足に対する考えは</p> <p>(2) 消防団員の確保に向け、現役団員の負担軽減をどう取り組んでいくか</p> <p>5 福祉分野における人材の確保について</p> <p>(1) 保育所、高齢者福祉施設など人材の確保が継続的な課題となっているが、専門職以外の関わりをどう認識するか</p> <p>6 地域自治のあり方について</p> <p>(1) 担い手不足など各地区の状況変化が顕在化する中、市からの委託・依頼業務をどう考えていくか</p> <p>(2) 自主防災活動が高まる取り組みをどう考えていくか</p> <p>7 小中学校の運営について</p> <p>(1) 少子化時代における児童生徒の教育環境の充実に向けた取り組みをどう進めていくか</p> <p>(2) 部活動の地域移行が注目されている中、中学生期におけるスポーツ・文化活動の基本的な考え方は</p> <p>(3) 不登校となる児童生徒の数が増加傾向にある中、民間団体との連携をどう考えていくか</p> <p>8 新文化会館の建設計画について</p> <p>(1) 候補地の選定をはじめ重要な時期に入っているが、数十年先を見据えた当地域にふさわしい文化会館のあり方は</p>
3	原和世 (会派みらい)	<p>1 市長の市政運営に関して</p> <p>(1) 新年度における、デジタル実装社会に向けた市政運営について</p> <p>① 国のデジタル田園都市国家構想のような戦略を立てデジタル化を進めるべきだと思うがどうか</p> <p>② 政策の有効性を確認するためのEBPMの手法に対する考えは ※EBPM:エビデンス、合理的根拠に基づき、より実効性の高い政策を立案すること</p> <p>2 令和5年度予算編成の基本方針に関して</p> <p>(1) 市長の政策公約と新年度予算編成の方針について</p> <p>① 市長就任2年を振り返り、政策公約をどのように総括したか。また、任期折り返しにあたる新しい年へどのように反映したか</p> <p>(2) 年度ごとの予算編成方針における基本的な考え方について</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	原 和 世	<p>① 示された予算編成の基本方針によると、重点的に財源を振り向けた結果として市民の暮らしにどう寄与していくか、どんなまちになっていくかが分かりにくいのでは</p> <p>(3) 令和4年度の時点評価と令和5年度予算編成の基本方針について</p> <p>① 新年度方針策定にあたりPDCAサイクルの考え方は生かされているか</p> <p>3 行財政運営に関して</p> <p>(1) 財政運営について</p> <p>① 昨年示された財政運営の10年間の見通しについて、年度ごとの進行管理を示してはどうか</p> <p>② 年度末剰余金の専決処分に関し、その内容を明確にして次年度当初に活用について議会側とも協議することは</p> <p>(2) 飯田市公共施設等総合管理計画について</p> <p>① 本計画期間は、平成28年度から令和7年度までだがこの後の展開をどうして行くのか</p> <p>② 現在策定されている個別計画の内、建設部・教育委員会が所管する施設計画の実施状況は</p> <p>③ 個別計画の進行管理が見えないことからPDCAのサイクルで年次報告すること、各部門を統合して一元管理していく考えは</p> <p>4 学校教育課題に関して</p> <p>(1) 学校のあり方検討の進め方について</p> <p>① 学校運営協議会での検討経過から</p> <p>ア 「特色ある学校づくり」と「学校の配置枠組み」の議論が混同していなかったか</p> <p>イ 教育委員会として学校区ごとに施設のあり方を示し、そこから議論をスタートさせてはどうか</p> <p>ウ 令和5年度に学校のあり方審議会(仮称)を設置するとのことだがこれまでの研究会との違いは</p> <p>エ これからの学校のあり方を考えていく上で、子どもたちを取り巻く環境の変化と教育について地域も参加した学習会を計画してはどうか</p> <p>(2) 学校運営について</p> <p>① ICT教育が始まり3年が経過するが、端末の保守・支援教員の拡充・ソフトの研究など、運用上の課題をどう捉えているか</p> <p>② 新年度はインクルーシブ教育への理解を推進とのことだが、運用していく上での課題と対応をどのように考えているか</p> <p>③ 新年度の「こどもまんなか社会」はどう進めるか</p> <p>④ 児童生徒の特質を掴み指導に繋げて行くために、学校ごと任意で行っているQ-U・CRTテストの有効性について検証してはどうか</p> <p>⑤ ペレットストーブの補助暖房としてエアコン使用は</p> <p>5 市役所のデジタル化に関して</p> <p>(1) 市役所のデジタル化推進の取り組みについて</p> <p>① 地域内通貨導入に向けたデジタル化の実証実験としてプレミアム電子商品券の取り組みはどうだったか</p> <p>② マイナンバーカードを活用した市役所デジタル化推進の検討は</p> <p>6 当面する行政課題に関して</p> <p>(1) 新年度に方向付けを期待する課題について</p> <p>① 親子の居場所づくり・幅広い世代の交流の場・丘の上の回遊起点など、多くの可能性を含む飯田市立動物園を市民と共により付加価値を高めていくことは</p> <p>② テニスコートや総合運動場の照明・芝生グラウンドなど、以前から指摘されているスポーツ施設整備は</p>

No.	氏名	項目・要旨
4	小林真一 (公明党)	<p>1 市政運営と財政状況(予算編成)について</p> <p>(1) 人口減少、少子高齢化に加え、長引くコロナ禍やウクライナ危機、物価・原油高といった「多重危機」の影響をどう考え来年度基本方針に反映したか</p> <p>(2) 「日本一住みたいまち」を目指して、厳しい社会状況の中で市長の現状の思いは</p> <p>(3) 「対話と現場主義」について、任期の折り返しとなる現状の振り返りと総括は</p> <p>① 職員との対話についての現状は</p> <p>(4) 人事の考え方と人材育成について</p> <p>① 自治振興センターの重要性をどう考えるか</p> <p>(5) SDGsの取り組みの評価は</p> <p>(6) 折返しにあたり税金や地方交付税の影響を鑑みながら、事業の整理と、未来への投資はどうか</p> <p>2 子どもを中心に据えた、子育てと教育について</p> <p>(1) 国は伴走型支援を今後進める方針だが、市として今までに取り組んできた伴走型支援の内容は</p> <p>(2) 市のICT教育についての教育長の思いは</p> <p>(3) 市の教育方針として読解力に力を入れていくとしているが、具体的な取り組みは</p> <p>(4) 地域におけるフリースクールの考え方とこれからについて</p> <p>3 多様性を認め、持続可能な地域を創るには</p> <p>(1) コロナ禍における多文化共生について</p> <p>① 現状と課題は</p> <p>② 外国人住民のワクチン接種の状況は</p> <p>(2) 先の未来を展望するという視点における環境文化都市の取り組みは評価すべきと捉えるが、一方で今までの取り組みや、現状、経過の検証は</p> <p>① ポイ捨て条例をはじめとして、市民意識の現状をどう捉えるか</p> <p>4 すべての人が幸せを実感できる地域について</p> <p>(1) コロナ禍における高齢者福祉・介護保険事業計画の現状と課題は</p> <p>① 在宅介護における課題は</p> <p>② 若年性認知症の取り組みの現状は</p> <p>③ エンディングサポートへの取り組みの考えは</p> <p>(2) 南信州の観光について</p> <p>① 多様性を踏まえたユニバーサルツーリズムの取り組みは</p> <p>(3) 地域内経済循環の取り組みについて</p> <p>① 第1次産業に着目した理由は</p> <p>② 地域通貨の研究はどの程度進んでいるか</p> <p>(4) 「女性が住みたいまち」について</p> <p>① ジェンダーギャップへの認識と解消へ向けての取り組みは</p> <p>5 社会的課題へ向けた社会基盤整備について</p> <p>(1) 飯田市立病院の機能と役割は</p> <p>① かかりつけ医との関係性は</p> <p>② 安心して医療を受けるために、コロナ禍における現状をどう分析し今後につなげるか</p> <p>③ 患者や家族に寄り添う視点と、インフォームドコンセント、セカンドオピニオンの取り組みの現状は</p> <p>(2) コロナ禍における避難所などの課題をどう考えるか</p> <p>① 防災倉庫の現状は</p> <p>(3) DXの取り組みを市民生活に溶け込ませるには</p> <p>① デジタル化の実装へ向けて市の現状と課題は</p> <p>② デジタル弱者への対応状況は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	小 林 真 一	(4) 持続可能な地域公共交通の在り方についての考え方は ① 大学誘致を見据えて公共交通の在り方をどう考えるか ② 高齢者の視点との連携はどう考えるか ③ 新しいモビリティの検討についての現状は

No.	氏名	項目・要旨
1	小平 彰 (新政いいだ)	<p>1 脱炭素と森林について</p> <p>(1) 2050年いいだゼロカーボンシティの進捗状況について</p> <p>① 飯田市のCO2排出量及び吸収量の状況と計画はどうか</p> <p>② ゼロカーボンシティの実現に向けてどのように進めるか</p> <p>(2) 飯田市の森林について</p> <p>① 森林によるCO2吸収をどのように考えるか</p> <p>ア 森林面積はどのくらいか</p> <p>イ 森林によるCO2の吸収量はどのくらいか</p> <p>ウ 伐採期をどのように考えているか</p> <p>② 森林整備をどのように考えているか</p> <p>ア 木材の搬出量は</p> <p>イ 所有山林に関する意向調査の進捗状況はどうか</p> <p>ウ 森林整備を促進するために、森林環境譲与税や森林づくり県民税の活用をどのように考えているか</p>
2	宮脇 邦彦 (公明党)	<p>1 成年後見制度の利用促進について</p> <p>(1) 成年後見制度について</p> <p>① 成年後見制度とは</p> <p>② 成年後見制度とどう向き合い活用すべきか、認識の在り方は</p> <p>(2) 成年後見制度の利用状況について</p> <p>① いいだ成年後見支援センターの相談件数、市長申し立て件数等の推移と、その評価は</p> <p>(3) 成年後見制度の普及促進について</p> <p>① 制度の利用状況とその分析は</p> <p>② 普及促進の具体的な取り組みは</p> <p>③ 制度を必要としている方の把握は</p> <p>(4) 現状の課題認識を踏まえ、今後の取り組みについて</p> <p>① 市長の見解は</p>
3	西森 六三 (会派きぼう)	<p>1 遠山郷の振興について</p> <p>(1) 道の駅「かぐらの湯」の現状について</p> <p>① 道の駅再生に向けた現状は</p> <p>ア 施設の指定管理者の見込みは</p> <p>イ 施設の改修費用は</p> <p>ウ 施設再開の時期は</p> <p>② 温泉の復活について</p> <p>ア 温泉の復活に要する費用は</p> <p>イ 温泉の必要性は</p> <p>ウ 温泉復活の時期は</p> <p>③ 道の駅「かぐらの湯」の位置づけは</p> <p>2 リニア駅周辺整備について</p> <p>(1) リニア駅へのアクセス道路整備について</p> <p>① 県道1号飯田富山佐久間線及び下久堅知久平線(通称「竜東線」)の整備の考え方は</p> <p>② 座光寺上郷道路から市道座光寺283号線を土曾川に沿って天竜川方向へ結ぶことはできないか</p> <p>(2) グリーンインフラについて</p> <p>① スポンジ貯留と溜池方式の考え方は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	西 森 六 三	<ul style="list-style-type: none"> ② 土曾川の改修との関係性をどう捉えているか (3) ランドスケープデザインについて <ul style="list-style-type: none"> ① ランドスケープデザインをどのように取り込むか ② 高さ制限の考え方は (4) 駐車場について <ul style="list-style-type: none"> ① 立体駐車場の構想は (5) リニア駅前広場における交流の場の必要性について <ul style="list-style-type: none"> ① ムトスぶらざとの関連は ② 天龍峡パーキングエリアとの関連は (6) 駅本体工事に関わる先行工事について <ul style="list-style-type: none"> ① 先行工事の内容は ② 工事内容等の飯伊地区住民の理解度は 3 大型施設等の建設について <ul style="list-style-type: none"> (1) 今後建設される大型施設に伴う建設検討委員会等のあり方について <ul style="list-style-type: none"> ① 検討委員会と市との関わりをどのように考えるか
4	市 瀬 芳 明 (日 本 共 産 党)	<ul style="list-style-type: none"> 1 地域包括ケアの充実に向けた取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> (1) 現在の認識について <ul style="list-style-type: none"> ① 総合事業について <ul style="list-style-type: none"> ア 窓口へ相談に来た方に対してチェックリストを用いた人数は イ 基準緩和型サービスの実施実態は ウ 地域の実情に合わせた基準緩和型サービスの報酬の検討は ② 介護予防への意識について <ul style="list-style-type: none"> ア 介護予防活動に対する啓発は進んでいるか イ 生きがいづくり、社会参加の促進の実態は ③ 認知症施策について <ul style="list-style-type: none"> ア コロナ禍における認知症カフェの現状は イ 継続した地域への学習機会の確保は (2) 地域を支えていくための支援について <ul style="list-style-type: none"> ① ボランティア等多様な人材確保をどう考えていくか ② 介護離職ゼロに向けた介護休暇の周知は ③ 免許の自主返納など相談状況は ④ 訪問事業所に対する支援の考えは
5	福 澤 克 憲 (会 派 き ぼ う)	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和5年度予算編成に向けての長期財政見通しの考え方について <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度予算編成に向けて、長期財政見通しの修正を想定しているか (2) ピーク年度の考え方は (3) 今後の方向性は 2 コロナ禍における市民生活の状況について <ul style="list-style-type: none"> (1) 生活支援の状況について <ul style="list-style-type: none"> ① 生活福祉資金制度(緊急小口資金・総合支援資金)による貸付・償還状況は ② 住居確保給付金の受給者の状況は ③ 生活保護世帯の認定状況は ④ 住民税非課税世帯等への緊急支援給付金等の準備状況は 3 コロナ禍やリニア、大学誘致事業等に対応する市役所の職場環境について <ul style="list-style-type: none"> (1) 職場環境の現状について <ul style="list-style-type: none"> ① 職員のストレスチェックの状況は ② 療養休暇(心の病)の状況は ③ コロナ禍における職場環境をどう分析しているか (2) 今後の方向性について

No.	氏名	項目・要旨
	福澤克憲	<ul style="list-style-type: none"> ① 人員確保、職場スペース等の考え方は ② 事務処理の軽減など実行可能なものは
6	筒井誠逸 (新政いいだ)	<p>1 ペレットストーブの導入について</p> <p>(1) 市内小中学校のペレットストーブの実態について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 石油ストーブとペレットストーブの使用比率は ② 導入時の費用と使用中のコストの比較はどうなっているか ③ 令和4年度の導入予定は。石油ストーブとペレットストーブの導入予定台数は ④ 2050年いいだゼロカーボンシティ宣言の実現に向けた、ペレットストーブの導入予定の計画は ⑤ ペレットストーブ導入校に差異がある理由は ⑥ 石油ストーブからペレットストーブへ切替えをした学校現場の声は聞いているか ⑦ 早朝の寒い時間帯など補助的にエアコンを使用したい場合許可制と聞いたが、許可を出すのはどの部署か ⑧ 早朝の寒い時間帯は学校の裁量でエアコンの使用を決められるようになるか <p>2 脱炭素先行地域について</p> <p>(1) 小中学校の太陽光発電設備と蓄電設備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2027年度までに全校に設置する計画があるが、どこの学校からどう設置するか工程表はあるか ② 28校の内5kW未満の学校が5校あると聞いている。太陽光発電設備の今後の設置の方針は ③ 蓄電設備の設置に係る工程表はあるか ④ 太陽光発電設備と蓄電設備の設置後、節電のデータを集め、公表する考えはあるか
7	永井一英 (公明党)	<p>1 所有者不明の土地への対応について</p> <p>(1) 不動産登記簿などを見ても所有者が判明しない、判明しても連絡がつかない「所有者不明の土地」が、数年前から全国的に問題となっている。飯田市内の実態は。また、市民から苦情などは寄せられているか</p> <p>(2) 所有者不明の土地の解消に向けて法整備がなされ、今後、施策が展開されていくと聞く。その内容は</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 市の権限と役割は。また、それを受けて飯田市の方針は <p>(3) 老朽化した空き家対策への影響はあるか</p> <p>2 健康施策について</p> <p>(1) 骨粗しょう症の早期発見のため、骨密度測定などの検査を実施してはどうか</p>
8	下平恒男 (新政いいだ)	<p>1 緊急対策事業の中で農業関係支援事業の検証と今後について</p> <p>(1) 飯田市新型コロナウイルス緊急対策事業第13弾の中で、農業に関する支援事業の進捗状況は</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 畜産経営継続支援事業について <ul style="list-style-type: none"> ア 目的と事業概要は イ 農家への周知方法は ウ 9月末が申請の締め切りとなっているが、見込みに対する利用率は ② 肥料価格高騰緊急対策支援事業について <ul style="list-style-type: none"> ア 目的と事業概要は イ 国・県による肥料価格高騰対策事業の内容はどのようなものか ウ 現場での混乱を招かないための周知が必要ではないか

No.	氏名	項目・要旨
	下平恒男	<p>(2) 今後の取り組みについて</p> <p>① 飼料、肥料、「きのこ農家」以外に支援の予定は</p> <p>2 農業振興センターの役割について</p> <p>(1) 農業振興センター事業のなかで、特徴的な取り組みにはどのようなものがあるか</p> <p>(2) 農業振興センターの扱う各種補助金の令和3年度利用状況と、PRの方法は</p>
9	熊谷泰人 (新政いいだ)	<p>1 市の工事及び業務委託の入札状況について</p> <p>(1) 令和4年度に実施した入札における落札率(予定価格に対する落札額の割合)について</p> <p>① 工種別工事(土木、建築、上下水道等)及び業務委託の状況は</p> <p>② 工種によって落札率に大きな差が生じるが、要因として最低制限価格の設定があると考え</p> <p>ア 工種によって設定価格に違いがあるのはなぜか</p> <p>イ 業務委託の設定価格が工事と比べ低く設定されているが、その根拠は</p> <p>ウ 企業において技術者を養成するためには多くの経費が必要となるが、設定価格を見直す考えは</p> <p>(2) 指名競争入札について</p> <p>① 工事発注での指名業者数に対して応札者が少ない現状をどう捉えているか</p> <p>② 業務委託では全て指名競争入札となっているが、その理由は</p> <p>③ 今後、入札条件を指定した一般競争入札に見直す考えは</p> <p>(3) 行政DXを推進するためにも、電子入札を導入すべきと考えがどうか</p> <p>2 主要道路の整備について</p> <p>(1) 都市計画道路知久町妙琴線(通称白山通り)について</p> <p>① 県道飯田南木曾線が完了した。その後の交通量の変化はどうか</p> <p>② 事業化に向け、今後の計画は</p> <p>(2) 都市計画道路廃止となった城山大袋線の今後の改良計画は</p>
10	関島百合 (会派みらい)	<p>1 市民の文化活動について</p> <p>(1) ムトスぶらざ(飯田市民館)の活用は</p> <p>① 「飯田市民館」を「ムトスぶらざ」と愛称をつけたことで、市が培ってきた社会教育の中心拠点といった公民館が持つ意味合いが薄れないか</p> <p>② 多目的ホールの音響に問題があると聞くが、改善できないか</p> <p>(2) 長野県飯田創造館の廃止に伴う市の考え方は</p> <p>① 飯田創造館が続けてきた事業の仕組みや活動の成果を、市はどのように認識し、評価してきたか</p> <p>② 飯田創造館について、県とどのような交渉をしてきたか</p> <p>ア 市の姿勢は県の意向をくむ形となっているが、利用者の気持ちにどのように配慮して交渉したか</p> <p>イ リニア時代を迎えるにあたり、文化の拠点として誇れる中心的な施設を残すといった交渉はなされたか</p> <p>③ 市の芸術・創造の拠点として、シンボリックな役割を果たしている飯田創造館を廃止することで、市の文化活動が後退することにならないか</p> <p>④ 現在の施設機能を他の施設に移行することで、シニア層への活動の影響(フレイル予防等)をどう考えるか</p> <p>⑤ 市長は「対話と現場主義」を信条としているが、市民の皆さんに向き合い解決の糸口を探る考えはないか</p> <p>⑥ あくまでも廃止とした場合、市は代替施設をどのように考えているか。また、広域連合との連携の仕方は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	関 島 百 合	2 人材育成について (1) 中学卒業後に飯田を離れる子どもたちについて ① 現状をどう把握しているか ② 人材の流出につながると考えるがどうか

(6) 本会議傍聴状況(R4)

会 期	年 月 日	傍 聴 人 数
第1回臨時会	令和4年2月1日	コロナ禍により自粛
第1回定例会	令和4年2月24日	コロナ禍により自粛
	令和4年3月9日	コロナ禍により自粛
	令和4年3月10日	コロナ禍により自粛
	令和4年3月22日	コロナ禍により自粛
第2回定例会	令和4年5月24日	コロナ禍により自粛
	令和4年6月6日	8
	令和4年6月7日	10
	令和4年6月17日	0
第3回定例会	令和4年8月30日	コロナ禍により自粛
	令和4年9月13日	コロナ禍により自粛
	令和4年9月14日	コロナ禍により自粛
	令和4年9月21日	コロナ禍により自粛
第2回臨時会	令和4年11月7日	0
第4回定例会	令和4年11月22日	0
	令和4年12月5日	16
	令和4年12月6日	25
	令和4年12月7日	25
	令和4年12月16日	0
計		84

4 市議会のあゆみ（昭和46年から）

年	議会の動き
昭和46年 (1971年)	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田の常備消防を廃止し、飯田市・鼎町・上郷町消防組合へ全面移管するための規約改正を可決 ・議長 近松宗一、副議長 今村輝男を選出 ・昭和45年から始まったコメの減反政策について多くの質問があった ・鼎、上郷との合併を積極的にすすめるよう質問があった ・中央自動車道の早期着工と四車線化を求める意見書を可決 ・中央道遺跡発掘に伴う埋蔵文化財を収蔵・展示する資料館の建設を求める質問があった ・日中国交回復を求める決議がされた ・アメリカのドル防衛措置に対して、地元産業の育成策をただす質問があった ・県下に先がけて「モーテル建築の規制に関する条例」を可決
昭和47年 (1972年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民憲章の制定について質問があった ・市立病院運営審査特別委員会が市立病院の総合病院化を目指す必要性を検討 ・PCBなど公害の検査機能の充実を求める質問があった ・国民体育大会のラグビー等の競技を飯田において開催できるよう県に対して陳情を行った ・飯田市公民館の全面改築を求める陳情を採択 ・乱開発による環境破壊を防止して郷土の自然を守るため、「自然環境保全条例」を可決 ・中津川線の見通しと中央新幹線構想についての質問があった ・市議会議員補欠選挙 ・松澤市政の誕生に伴い、その政治姿勢について、活発な質問がなされた ・中央自動車道関連の道路整備などを要望する質問があった ・福祉や教育施策充実を要望する質問があった
昭和48年 (1973年)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人医療費を無料化する対象年齢を69歳に引き下げる条例を制定 ・飯田に大学を設立すべきとする質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 伊原悦雄、副議長 新井安男を選出 ・中央道開通後予想される騒音、排気ガス、電波障害等の公害対策について質問があった ・老朽化がすすむ小中学校の早期改築を求める質問があった ・オイルショック、物価高、モノ不足に対する対策を求める質問が集中 ・鼎、上郷との合併の推進を求める質問が集中 ・石油危機打開を求める意見書を可決 ・中央新幹線の早期建設と飯田への駅設置を求める意見書を可決

年	議会の動き
昭和49年 (1974年)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般会計予算に関して予算審査特別委員会で賛否の結論が出ず、「六月段階で措置されるよう市長に要望する」という議長斡旋で收拾され、可決 ・廃棄物の処理及び清掃に関する条例案に関して、し尿の収集料金の改定について意見が分かれ、最終日を迎えても結論が出ないため、議会の会期を延長して審査を行い、委員会修正案を可決 ・国保税率の決定にあたって、特別委員会の意見を踏まえ、市長が税率を下方修正する原案の訂正を行って可決 ・中央道開通を間近に控え、地場産業振興や観光振興策、あるいは公害対策を求める質問があった ・教育文化センター（新飯田市公民館）の建設構想について質問があった ・西部統合中学の計画について、地元対策をただす質問があった ・東中学校の火災で緊急に議会全員協議会が開かれた ・飯田市民の消費生活を守る条例を可決
昭和50年 (1975年)	<ul style="list-style-type: none"> ・中央道の恵那山第二トンネルの早期着工を求める意見書を可決 ・中津川線の建設見通しをただす質問があった ・議長 伊原悦雄、副議長 林 昌平を選出 ・中央道開通に伴う飯田 I C 周辺の道路整備、公害対策、観光開発、産業振興策について多くの質問がされた ・窮迫した地方財政のもとでの市行政について集中論議が行われた ・開通した中央道の恵那山、網掛トンネル前後の40キロ規制の緩和を求める意見書を可決 ・風越高校の跡地利用について質問があった ・中央道の騒音公害対策や天竜峡付近の交通渋滞の解決を求める質問があった
昭和51年 (1976年)	<ul style="list-style-type: none"> ・深夜から未明に及ぶ議会において、市議会議員の定数をそれまでの36名から30名に減少する条例が可決された。一口に「暁の本会議」と言われている ・市長が提案した国保税率の引上げ率が下方修正して可決 ・付加価値税新設に反対する意見書を可決 ・工場再配置補助金問題調査特別委員会と駅前観光案内所問題調査特別委員会を設置 ・市議会議員補欠選挙 ・ニホンカモシカの食害対策を求める意見書を可決 ・風越高校跡地利用に関して、警察署の建設と、東中学校の建設を求める陳情が出され、その対応で慎重な審査がされた ・メッキ工場の建設を求める質問があった

年	議会の動き
昭和52年 (1977年)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人医療費特別給付金の一部改正条例を修正可決 ・市議会議員一般選挙 議長 林 昌平、副議長 松江良夫を選出 ・広域水道の統合について質問があった ・飯田駅前再開発を求める質問があった ・円高不況対策について質問があった
昭和53年 (1978年)	<ul style="list-style-type: none"> ・長姫高校の移転を想定した跡地利用について質問があった ・水道事業の統合が特別議決をもって可決 ・中央新幹線・中津川線建設促進特別委員会を設置 ・市立図書館の改築について質問があった ・合併促進特別委員会が設置された ・国道153号線バイパスの建設促進を求める意見書を可決 ・中学生が教師を殴打した事件について質問が集中
昭和54年 (1979年)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人医療費の無料化を65歳までとする条例を可決 ・国際児童年に対する取組について質問があった ・議長 林 昌平、副議長 片桐 勲を選出 ・地震防災対策強化地域の指定に関して質問があった ・駅前、知久町、銀座、本町など旧市街地の再開発について質問があった ・果樹共済制度の改善に関する意見書を可決 ・モデル定住圏の指定に関して質問があった ・県営野球場の誘致と総合運動公園の整備について質問があった ・一般消費税創設反対に関する意見書を可決 ・市立病院の総合病院化について質問があった
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄経営再建促進特別措置法案の見直しを求める意見書を可決 ・中津川線を断念し、中央新幹線建設促進に乗換えたかどうかとする質問があった ・土地買収に関する土地開発公社の不手際等について調査特別委員会を設置 ・大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の自主的平和統一に関する意見書を可決 ・カモシカの食害防止策についての意見書を可決 ・西部統合中学の改築計画の進捗状況について質問があった ・土地開発公社をめぐる不祥事について質問が集中 ・アメリカシロヒトリの防除対策について質問があった ・B型肝炎への対策について質問があった ・市議会議員補欠選挙

年	議会の動き
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> ・北方領土の返還促進などを求める意見書を可決 ・川路、龍江の天竜川流域の災害危険区域条例撤廃に関して質問があった
昭和56年 (1981年)	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業振興センターの建設について質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 林 昌平、副議長 松江良夫を選出 ・国際障害者年に際しての取組について質問があった ・中央新幹線、飯田線の強化、中津川線問題を審議する鉄道問題特別委員会を設置 ・婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条例の早期批准を求める意見書を可決 ・国鉄飯田線の合理化計画撤回等に関する意見書を可決 ・若者が定着できるよう企業誘致条例の復活を求める質問があった ・地元との調整が長引く西部統合中問題について、多くの質問があった
昭和57年 (1982年)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時議会において、伊賀良と山本の両中学校を統合し、昭和60年に新たに西部中学校として発足することが可決 ・長姫高校跡地のあり方について質問があった ・統合中学の進捗状況について多くの質問があった ・A議員の問責決議案が可決 ・市民の直接請求による西部統合中学校を廃止する条例案を否決 ・飯田市・鼎町合併協議会の設置を可決 ・飯田線の分割・民営化反対に関する意見書を可決
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院の経営改善と改築について審査するため、病院問題特別委員会を設置 ・飯田市農協、中央農協の合併の推進について質問があった ・議長 松嶋健次、副議長 平沢與一を選出 ・農畜産物輸入自由化、枠拡大阻止に関する意見書を可決 ・大中型店の出店の動きと丘の上商店街の活性化について質問があった ・美術博物館の構想について質問があった ・コンピューター導入に伴うプライバシー保護の問題、あるいは情報公開制度について質問があった ・西部統合中学校の名称を「旭ヶ丘中学校」とする条例改正案を可決 ・10万都市実現のため、鼎、上郷との同時合併を求める質問があった ・9月28日の10号台風による災害復旧を検討するため、緊急に臨時議会が開かれ10号台風災害対策特別委員会と、天竜水系治水災害対策特別委員会を設置

年	議会の動き
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> ・40人学級早期実現に関する意見書を可決した ・松くい虫対策について質問があった ・川路、龍江、竜丘の災害危険区域に関する今後の対応について質問があった
昭和59年 (1984年)	<ul style="list-style-type: none"> ・三遠南信自動車道の実現の可能性について質問があった ・非核平和都市宣言を可決 ・人種差別撤廃条約の早期批准に関する意見書を可決 ・天竜川治水対策と天竜峡の景観保全について質問があった ・鼎町との合併に関する議案審議のため臨時議会が開かれ、12月1日の合併を全会一致で議決 ・市職員に60歳の定年制を導入する条例を可決 ・国鉄の分割民営化反対に関する意見書を可決 ・市議会議員の定数を31名に減少する条例を可決 ・新しい街づくりの中での鼎地区の位置付けについて質問があった ・天竜川の恒久的な治水対策を求める意見があった ・テクノハイランド構想について質問があった
昭和60年 (1985年)	<ul style="list-style-type: none"> ・スパイクタイヤの粉じん公害について質問があった ・上郷町との早期合併を求める質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 松嶋健次、副議長 平沢與一を選出 ・指紋押捺問題に関連して、外国人登録法の改正に関する意見書を可決 ・ゴミ焼却場移転問題について質問があった ・国鉄飯田線の分割民営化の動きに関して質問があった ・若者の定住対策と企業の育成策について質問があった ・路線バスの廃止問題が質問された ・鼎との合併一年後の評価について質問があった ・学校の「いじめ」問題について質問があった ・世界人形劇フェスティバル開催(1988年)に名乗りを上げることの質問があった ・婦人の地位向上のための施策について質問があった ・高齢化が一層すすむ中で、在宅福祉について質問があった
昭和61年 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> ・上郷町との合併に向けた取組について質問があった ・コンピューター専門学校の建設費について質問があった ・市立病院の赤字と院長人事問題で特別委員会を設置 ・院長解任に伴う市立病院の正常化について質問があった ・大型間接税の導入は慎重に対処すべきという旨の意見書を可決

年	議 会 の 動 き
昭和61年 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国引き揚げ孤児の定住援護策について質問があった ・ 美術博物館の性格と財源について質問があった ・ 公文書の公開条例と、個人情報の保護条例を可決 ・ 暴力団追放都市宣言を可決 ・ 飯田工業高校の移転に伴う跡地利用について質問があった
昭和62年 (1987年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売上げ税導入に反対する意見書を可決 ・ 美術博物館建設特別委員会を設置 ・ 中央新幹線、三遠南信自動車道の建設促進について質問があった ・ エイズ対策について質問があった ・ 議長 平沢與一、副議長 細田直彦を選出 ・ 屋外広告物に係る環境美化等に関する条例を可決 ・ 老人福祉の中間施設の計画について質問があった ・ 市政50周年記念事業として、中学生による子ども議会が開かれた ・ 市立病院の移転決定と、地元対策について質問があった ・ 世界人形劇フェスティバルの準備状況と、シャルルヴィル・メジエール市との姉妹都市締結について質問がされた ・ 中央新幹線の飯田経由と駅舎設置に関する決議を行った ・ 東中学校の教師死亡に関して質問があった ・ 人形劇場の入札が保留になったことについて質問があった
昭和63年 (1988年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ フランスのシャルルヴィル・メジエール市と国際友好都市の締結をすることを可決 ・ 美術博物館の職員体制や、運営について多くの質問があった ・ 三遠南信自動車道の竜東地域にインターチェンジを求める質問があった ・ 新しい市立病院の整備方針（マスタープラン）を了承 ・ 上郷町との合併協議30項目を了承 ・ 天竜川治水対策、四者協議の結論を了承 ・ ギフチョウの保護対策について質問があった ・ 市議会議員補欠選挙 副議長 関島一郎を選出 ・ コメの市場開放阻止に関する意見書を可決 ・ 保育園の空き室を託老所にする質問があった
平成元年 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費税導入に関して賛成、反対の論議が集中 ・ リニア新幹線が停まるまちづくりについて質問があった ・ 市議会議員一般選挙 議長 塩澤 昭、副議長 竹村仁實を選出 ・ 土曜閉庁関連条例を可決 ・ 新市立病院建設の基本計画を了承

年	議会の動き
平成元年 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> ・有線放送局の不祥事に関して質問が集中 ・長野の冬季五輪招致への考え方について質問があった ・学校教育における日の丸掲揚と君が代斉唱についての考え方について質問があった ・天竜川治水対策の基本計画を了承 ・有線放送を廃止し、オフトーク通信システムを導入することを了承 ・土地利用計画の策定の必要性について質問があった
平成2年 (1990年)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税導入を想定した新年度予算に関して賛否両論の議論が展開された ・有線放送局不正経理事件について質問が多くされた ・中国からの帰国者のために日本語学級を開設するよう質問があった ・県議会議員の飯田市区定数1名増を求める意見書を可決した ・飯田駅貨物用地跡地利用に関して質問があった ・天竜峡温泉の交通渋滞の解消、下水道の整備等について質問があった ・松尾地区の内水排除について質問があった ・登校拒否児童への適切な指導を求める質問があった
平成3年 (1991年)	<ul style="list-style-type: none"> ・議長 竹村仁實、副議長 松江良夫を選出 ・竜東地区の開発計画について質問があった ・農村集落の活性化を図る地域マネジメント事業について質問があった ・議長 實原 裕、副議長 内山照美を選出 ・松くい虫の被害が広がる深刻な事態に対して質問があった ・土地利用政策審議会の設置を求める質問があった ・りんご並木の整備構想について質問があった ・MRSA感染対策について質問があった ・看護婦養成のための高等看護学校の誘致を求める質問があった ・上郷町との合併時期について市長の政治決断を求める質問があった ・平和予算の創設を求める質問があった ・信州いいだ農協発足に伴い、行政と農協が一体となった農業振興を求める質問があった ・飯田駅貨物用地跡地取得の経過について質問があった
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学誘致についての質問があった ・拠点都市地域の指定を目指すことについて質問があった ・学校5日制の受け皿について質問があった ・オフトークでの議会本会議中継はじまる ・若者定着と工業振興について質問があった

年	議会の動き
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別委員会にて大詰めの合併協議が行われた ・自然環境の保全と環境に優しい社会の実現を期して、「環境宣言」が決議された ・市役所の完全週休2日制の導入について質問があった ・エイズに対する予防啓発について質問があった ・市議会議員補欠選挙 ・上郷町と平成5年7月1日に合併することを議決した ・拠点都市指定に向けての取組状況について質問があった ・中学生の問題行動に対する指導について質問があった
平成5年 (1993年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガットにおけるコメの例外なき関税化の導入を拒否し、基礎的食料の国内自給堅持を求める意見書を可決 ・地域医療に果たす新市立病院の役割について質問があった ・中心市街地のドーナツ化現象への対策について質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 今村八束、副議長 澤柳辨治郎を選出 ・上郷との合併関連議案68件を可決 ・コメの市場開放阻止等を求める意見書を可決 ・拠点都市の計画策定に関して、高速交通網の整備等について質問があった ・上郷合併に伴う議員の増員選挙が行われ、5名が市議会議員に仲間入りした ・シャルルヴィル・メジエール市のロジェマス市長が市議会を表敬訪問された ・地方拠点都市地域整備促進特別委員会を設置 ・みどりの基金創設について質問があった ・県営サッカー場の誘致について質問があった ・不況下での産業振興策について質問があった ・天竜川流域にカヌー競技施設の建設を求める意見書を可決 ・地方分権の実現を求める意見書を可決 ・コメの市場開放を阻止し、抜本的農業施策実現を求める意見書を可決
平成6年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> ・飯伊広域行政組合設立に伴う関連議案を可決 ・4年制大学の誘致について質問があった ・市町村の共同出資のバス運行について質問があった ・環境、文化、情報化、公共施設の4つのテーマで政策調査研究部会が発足 ・三遠南信地域に首都機能の移転を目指せという質問があった ・サッカーくじ法案化について質問があった ・農業集落排水事業実施区域の拡大を求める質問があった ・不況下において女性の雇用を守ることを求める質問があった ・12年ぶりの水道料金値上げを、建設委員会が3日間にわたる審査のうえ賛成多数で可決した。

年	議会の動き
平成6年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> ・北信越市議会議長会産業・経済対策特別委員会が天竜峡で開催 ・議会だより100号記念号発行 ・今村八束議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問 ・市民の生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図るための国土利用計画（飯田市計画）を可決 ・水道料金を12年ぶりに改定。平均アップ率18・7%を三日間の審議の末に可決 ・上郷町との合併により、新たな議員定数を調査研究する「議員定数問題調査特別委員会」を設置
平成7年 (1995年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回臨時会において、今村八束議長・松島年一副議長を選出 ・「中国の核実験に抗議し、フランスの核実験再開中止を求める決議」を可決し両大使館に意見書を送付 ・飯田市における政治倫理の確立のため「市長の資産等の公開に関する条例」を可決。これにより市長は資産等の報告書の作成が義務付けられ、閲覧請求が可能になった ・上郷町編入合併に伴い5人増の36人となっていた議員数を定数31人にすることを議決
平成8年 (1996年)	<ul style="list-style-type: none"> ・全議員による「基本構想審査特別委員会」を設置、第四次基本構想・基本計画「環境文化都市を目指して」を可決 ・第2回定例会において「第四次基本構想に基づく組織機構改革案」を否決。この採決をめぐり最大会派の明政会が分裂し過半数を割ることとなった。この議案は第3回定例会で一部修正のうえ再提案され起立採決の結果賛成多数で可決 ・飯田市はあらゆる人権侵害の根絶を誓うため、「人権尊重都市宣言」を可決 ・「病原性大腸菌O157による食中毒対策に関する意見書」を国関係機関に提出 ・市議会議員補欠選挙で1人選出
平成9年 (1997年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会改選（投票率81・9%、上郷町と合併後初、特例による議員数36人から議員定数31人に） ・第1回臨時会において、小林利一議長・片桐司郎副議長を選出 ・市立病院と高松病院の機能、役割分担を検討するために「病院問題特別委員会」を設置 ・風越山麓に計画された送電線建設に対して景観、電磁波、産業振興、飯田市の環境条例などの観点から第2回、第3回定例会において計6件の請願・陳情があり審査・市政に関する独自の調査をし、政策提言をする「政策調査研究部会」（農業振興・交通施策・観光施策の3部会）がスタート

年	議会の動き
平成10年 (1998年)	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数削減に続く財政改革で、「議員の各種審議会報酬を辞退すること」を全会一致で可決。長野県下初であり、全国的にも先駆的な取り組み ・「インド並びにパキスタンの地下核実験に対する抗議の決議」を可決 ・第3回定例会において、人形劇カーニバルのあり方について活発な議論を展開 ・「大型店の元旦営業自粛に関する決議」を可決し、市内大型店に申し入れ
平成11年 (1999年)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年にスタートした「政策調査研究部会」が2か年の研究を報告 ・第1回臨時会において、小林利一議長・中田佳甫副議長を選出 ・ごみ処理手数料として30円から60円を負担する、「ごみ処理費用有料化」を可決 ・「公共下水道受益者負担金改定」を可決（面積1㎡当たり現行390円から520円に段階的な引上げ） ・「中心市街地総合再生特別委員会」及び「介護保険特別委員会」を設置
平成12年 (2000年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「政策調査研究部会」（地方分権・ISO・工業振興3部会）が平成12年度1か年の研究を報告 ・介護保険制度の施行に伴い関連する12件の条例を可決 ・国民健康保険税事業から介護保険への移行に伴う、「国保税の引き下げ」を可決 ・公共下水道（平均9.8%）及び農業集落排水施設（7.2%）の「使用料引き上げの改定」を可決 ・市議会議員補欠選挙で1人選出
平成13年 (2001年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会改選（投票率75.3%、議員数31人の内女性議員6人が誕生） ・第1回臨時会において、西尾喜好議長・牧内信臣副議長を選出 ・森林・林業・林産業の活性化と山村振興の推進を図ることを目的に「林業活性化推進飯田市議員連盟」が発足 ・飯田市地域交流センター設置条例（本町一丁目に建設中の「トップヒルズ本町」に「りんご庁舎」を設置、及びその管理について定めるもの）を可決 ・水道料金（上水道平均4.0%・簡易水道平均2.7%）の「引き上げの改定」を可決 ・アメリカでのテロの犠牲者に対し黙祷し、「同時多発テロを強く糾弾する決議」を採択
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関の保有する情報の公開に関する法律が施行されたのに伴い「飯田市情報公開条例」を可決 ・暴走運転をなくし平穏な地域社会を実現するための「飯田市暴走行為を根絶する条例」を可決

年	議 会 の 動 き
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯田市議会の議員の報酬等に関する条例」の一部を改正する条例を可決 (議員の月額報酬3%の引き下げ) ・「飯田市議会あり方研究会」を発足 ・「飯田市差別の撤廃と人権の尊重に関する条例」を可決 ・菱田春草筆「菊慈童」及び「牧童」を取得することを承認(取得金額3億5千万円)
平成15年 (2003年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯田市福祉医療費給付金条例」を可決(全県統一の自動給付方式を導入) ・第1回臨時会において、議長に岩崎和男氏・副議長に渡淳氏を選出 ・「合併特別委員会」「土地利用特別委員会」「議員定数特別委員会」を設置 ・「住基ネット関連2議案」を可決(住基カードを希望者に、1枚500円で交付するための条例改正) ・「歴史研究所条例案」を可決(市民の教育及び文化の向上発展などに寄与するための研究所を設置) ・「ごみ処理手数料の改定案」を可決(環境保全対策により経費増のため、半分を利用者が負担)
平成16年 (2004年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「市議会議員定数を4人減の27人」にすることを可決 ・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」を5月に設置 ・「飯田市都市計画条例」の一部を改正する条例を可決 ・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が11月8日、岩崎和男議長に中間報告を提出 ・「合併関連2議案」を可決(飯田市・上村・南信濃村合併協議会の設置について) ・市議会議員補欠選挙で2人選出
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「上村、南信濃村との合併関連6議案」を可決 ・市議会改選(投票率72.3%、議員数27人) ・第1回臨時会において、議長に熊谷富夫氏・副議長に林幸次氏を選出 ・「自治基本条例」「土地利用計画」の特別委員会を設置 ・「高等学校改革プランの検討に関する意見書」を県に提出(高等学校数の削減を行わないよう求める意見書) ・「個人情報保護条例」を可決 ・一般質問において一問一答方式を試験導入(一括質問一括答弁方式から、一問一答方式に変更) ・上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙(定数2、投票率82%、特例により議員定数27人から29人に)

年	議 会 の 動 き
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会本会議の映像生中継をスタート ・ 「男女共同参画推進条例」を可決
平成18年 (2006年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「国民保護法関連2条例」を可決（武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律に関連する条例） ・ 飯田市における土地利用の基本的な指針を策定「国土利用計画」（第2次飯田市計画）を可決 ・ 第5次基本構想・基本計画の策定にあたり「基本構想基本計画検討委員会」を設置 ・ 市民・議会・行政の連携により研究を進めてきた「飯田市自治基本条例」を第3回定例会で議員提出議案として全会一致で議決 ・ 飯田市の各地区に平成19年度から設置される地域自治区について、「飯田市地域自治区の設置等に関する条例案、飯田市公民館条例の一部を改正する条例」を可決
平成19年 (2007年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温泉宿舎天竜峡を飯田市が購入することを承認 ・ 「飯田市土地利用基本条例」を可決 ・ 「環境文化都市宣言」を可決 ・ 第1回臨時会において、上澤義一議長・矢澤芳文副議長を選出 ・ 議員定数の削減に向けて「議員定数特別委員会」を設置し定数を23人に決定 ・ 「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞（飯田市自治基本条例の制定までの取組みが評価される）
平成20年 (2008年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「飯田市後期高齢者医療制度に関連した条例」を可決（75歳以上の高齢者に新たな負担となるため議論が集中） ・ 「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を小学6年生まで引上げ） ・ 「飯田市議会の議員の定数を定める条例」を可決（平成21年4月の選挙から定数23人に決定） ・ 議会議案検討委員会に置いて、ポイ捨ての規制に関する条例制定の必要性を調査 ・ 決算認定に結びつける議会の行政評価がスタート（行政評価の手法を用い決算を認定） ・ 「庁舎検討委員会」が発足（3回の委員会を経て市側の新庁舎建設の基本的な方針案を了承） ・ 市内20地区で初の議会活動報告会を開催（市政懇談会終了後30分間）

年	議 会 の 動 き
平成21年 (2009年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「副市長の定数を1から2に改める条例」を可決 ・「土地利用計画特別委員会」を廃止 ・市議会改選（投票率64・3%、上村・南信濃村との合併特例による議員数27人から議員定数23人に） ・第2回臨時会において初の立候補制による正副議長選挙を実施。中島武津雄議長・清水可晴副議長を選出 ・「リニア中央新幹線の早期実現及び飯田駅設置実現に関する決議」を賛成多数で可決 ・市内を6ブロックに分け2回目の議会報告会を開催（市民487名が参加）
平成22年 (2010年)	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁舎の建替整備に向け調査研究を行うため「庁舎特別委員会」を設置 ・「飯田市リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金条例」を可決（リニア中央新幹線の実現に向けた取り組みを強化） ・年度内にルート決定が見込まれる中、調査研究を深めていくため「リニア推進対策特別委員会」を設置 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を中学3年生まで引上げ） ・第3回議会報告会を開催（市民469人が参加） ・「飯田市地域自治区の設置等に関する条例の一部改正条例」を可決（上村及び南信濃地区を地域自治区に移行）
平成23年 (2011年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回定例会において東日本大震災支援のための22年度補正予算を可決 ・第2回臨時会において、上澤義一議長・村松まり子副議長を選出 ・東日本大震災支援のための23年度補正予算を可決 ・「飯田市国民健康保険条例の一部改正条例」を可決 （2年連続平均7%の増額） ・損害賠償に係る議会未提出案件（110件）について議会を軽視するものとして市側に改善申し入れ ・「第5次基本構想基本計画後期計画」を可決（人口目標10万2千人に） ・第4回議会報告会を開催（市民444人が参加）
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「議会改革・運営ビジョン」を策定し新たな議会改革の取り組みとして常設の機関「議会改革推進会議」を設置 ・議会改革の一環として、初の「議長記者会見」を開催、委員会の自由傍聴の実現、本会議のインターネットによる映像配信を開始 ・新庁舎実施設計を了承

年	議 会 の 動 き
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「第7回マニフェスト大賞最優秀成果賞」を受賞（行政評価や議会報告会の実践などが評価される） ・第5回議会報告会を開催（市民461人が参加）
平成25年 (2013年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会改選（投票率58・3%議員数23人） ・第1回臨時会において、林幸次議長・木下克志副議長を選出 ・常任委員会を3委員会とし、議員の複数所属をやめ単独所属とする ・より開かれた議会運営のため「広報広聴委員会」を設置 ・委員会審議において初の「議員間自由討議」を実施 ・初の政策討論会を開催（不法投棄対策について市長に提言） ・「ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」を可決 ・「特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書」を国関係機関に提出 ・議会の行政評価で「天竜峡温泉交流館管理事業」について、廃止を含め指定管理委託など検討を行うよう提言 ・第6回議会報告会を開催（市民510人が参加）
平成26年 (2014年)	<ul style="list-style-type: none"> ・議会の行政評価において「農業課合同事務所事業」の廃止、「農作物被害対策事業」「リニア推進事業」「小中連携・一貫教育推進事業」の拡大などを提言 ・天龍峡温泉交流館の指定管理者管理委託を承認 ・「手話言語法(仮称)等の早期制定を求める意見書」を国及び県の関係機関に提出 ・第7回議会報告会を開催（市民543人が参加） ・第4回定例会終了後、議場の新庁舎移転に伴う「旧議場のお別れ会」を開催
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> ・初の議会出前講座を広報広聴委員会が実施（松尾小学校） ・県下初の対面式新議場で第1回定例会を開催 ・社会文教委員会が介護保険条例の一部改正に関して自由討議を実施。議案可決後に委員提案の附帯決議を可決。 ・第2回定例会から淡路結びの水引を議場に設置 ・第1回臨時会において、木下克志議長・木下容子副議長を選出 ・「長期欠席議員の議員報酬の特例に関する条例」を議決 ・「平和安全法制の慎重かつ適正な運用を求める意見書」を国及び関係機関に提出 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（支給対象を満15歳から満18歳に引上げ） ・木下克志議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問

年	議会の動き
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第8回議会報告会を開催（市民498人が参加） ・ 新教育委員会制度で初の教育長に代田昭久氏を任命することに同意
平成28年 (2016年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「飯田市議会パネル取扱要綱」、「飯田市議会災害対応指針」を制定 ・ 基本構想基本計画特別委員会を設置し、次期総合計画「いいだ未来デザイン2028」を審査 ・ 天龍峡温泉交流館建設に関し、産業建設委員会で自由討議実施後、附帯決議をつけて可決、本会議での委員長報告に対する討論を経て予算案を可決 ・ 地元産材のPRを目的に飯田市産ヒノキと遠山杉のネームプレートを作成し、全議員が着用を開始 ・ 議会だより200号記念号を発行 ・ 7月から9月にかけて議会による行政評価を実施（42施策、19事務事業） ・ インターネットで委員会の映像配信を開始（12月12日 総務委員会から） ・ 第9回議会報告会を開催（9月～10月、6会場で市民554人が参加） ・ 議会議案検討委員会を設置し、議員提出による「飯田産の地酒及び果実飲料で乾杯する条例」を議決 ・ 議会出前講座を松尾小学校で実施（2回目：2月、3回目：11月）
平成29年 (2017年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。藤山 浩氏を講師に迎え、「田園回帰1%戦略」を学ぶ（1月） ・ 社会文教委員会が「地域ケアシステムの構築」に関する調査研究を行い、議会全体の政策討論会を経て、議会から市長へ政策提言（3月） ・ 産業建設委員会は、「若者定住の促進について」ほか、5つのテーマについて2年間の調査研究活動をまとめ、所管部署へ提案（3月） ・ 飯田市スポーツの振興に寄与することを目的に「飯田市議会スポーツ振興議員連盟」が発足（3月） ・ 市議会改選（4月16日執行、投票率 57.95%、議員23名うち新人5名） ・ 議会出前講座を山本小学校で実施（6月） ・ 第5次基本構想の平成28年度分について議会による行政評価を実施（7月～）評価結果に基づく成果や課題を反映させるため、4月からスタートした総合計画「いいだ未来デザイン2028」の戦略計画に対して、市長へ提言（9月） ・ 第10回議会報告会を開催（10月、6会場で市民582人参加）
平成30年 (2018年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会出前講座を松尾小学校で実施（1月 6年生143人） ・ 飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。大森 彌氏を講師に迎え、「自治体議会の改革と議員の法的位置づけ」について学ぶ（1月）

年	議 会 の 動 き
平成30年 (2018年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備などをテーマとして、商工会議所支部や地域団体と意見交換会を実施（2－3月） ・ リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備を含むリニア関連事業の進め方等に対する要望書を所管部署へ提出（6月） ・ 飯田市議会（リニア推進特別委員会）主催による「リニアを活かしたまちづくり講演会」を開催（7月） ・ 飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」に対する議会による行政評価がスタート。各常任委員会や合同委員会での大局的な評価（森の評価）を経て政策提言を実施（7月－9月） ・ 社会文教員会が、「市内小中学校及び保育園等にエアコン設置を求める要望書」を所管部署へ提出（9月） ・ 第11回議会報告会を開催（10月 7会場で市民654人が参加） ・ 予算決算委員会の設置に向け、予算決算審査検討プロジェクトを発足（12月）
平成31年 (2019年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報広聴委員会、同委員会内の議会だより検討会議により、議会だよりの見直しを図り、リニューアルパイロット版を発行（1月） ・ 飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。山梨学院大学大学院の江藤俊昭教授を講師に招き議会改革について学ぶ（1月） ・ 一般質問等における執行機関側の議員に対する「反問権」の行使について定めた、改正飯田市議会会議規則が施行（2月） ・ 総務委員会が、市内3か所で「地域コミュニティーの在り方」について意見交換会を実施（2月） ・ 第1回定例会において市長が初の反問権を行使（3月）
令和元年 (2019年5月～)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回臨時会において、湯澤啓次議長・原和世副議長を選出（5月） ・ 第1回臨時会において、予算決算委員会を常任委員会として設置。予算・決算及び行政評価を所管し、今後は分割付託されてきた予算・決算議案について一括で付託を行うこととなった（5月） ・ 長野県市議会議長会総会を飯田市で開催。龍谷大学政策学部教授の土山希美枝氏を講師に招き「政策議会をつくる議員力・議会力」を学ぶ（7月） ・ 予算決算委員会所管による「議会による行政評価」を実施。9月定例会後、議長から市長に対し評価提言書を手交（7月－9月） ・ 議会出前講座を山本小学校で実施（10月） ・ 議会報告会を開催（10月 7会場で市民743人が参加） ・ 議長、副議長及び事務局長が「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」に参加（10月－3月）

年	議 会 の 動 き
令和元年 (2019年5月～)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台風第19号で被災地となった長野市へ、長野県市議会議長会を通じて見舞金を送った（11月） ・ 議会報告会で出された「小学校のトイレ環境」に対する意見を受けて、社会文教委員会が市内の小中学校全てのトイレ環境の現状把握と学校職員への聞き取り調査を行い、予算決算委員会での審査、本会議での同意をもって市長に提言書を提出した（12月）
令和2年 (2020年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。(株)地方議会総合研究所代表取締役の廣瀬和彦氏を講師に招き「議会の活性化と議会運営」について学ぶ（1月） ・ 市議会災害対策会議を実施（1月－） ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で市の行事が開催中止（2月－） ・ 第1回定例会で新型コロナウイルス感染症対策についての質問が複数あり（3月） ・ 第1回臨時会を開催し、新型コロナウイルス感染症対策に関する補正予算等を審議（5月） ・ タブレット端末を活用したペーパーレス会議システムについての全員協議会勉強会を開催（6月） ・ 「子育ての孤立化」をテーマに、社会文教委員会が「課題共有型えんたく会議」を開催（7月） ・ 飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」に対する議会による行政評価・提言を行う（9月） ・ 議会報告・意見交換会を開催（10月 7会場で市民420人が参加） ・ 県知事と市長にリニア中央新幹線関連事業等により移転をお願いする皆さんに係る農振除外手続きに関する要望書を提出（12月）
令和3年 (2021年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回臨時会を開催し、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種事業など対策に関する補正予算等を審議（2月） ・ 全議員を対象としてペーパーレス会議システムの研修を実施（2月） ・ 第1回定例会からタブレット端末を活用した議案審議を試行的に開始（3月） ・ 議会、飯田商工会議所、飯田市行政の3者の共同声明として、「ゼロカーボンシティ宣言」を実施 ・ 市議会改選（4月25日執行、投票率 60.74%、議員23名うち新人9名） ・ 第2回臨時会において、井坪隆議長・山崎昌伸副議長を選出（5月） ・ 「南アルプスジオパーク」をテーマに議員研修を開催（6月）

年	議 会 の 動 き
令和3年 (2021年)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症デルタ株による急速な感染拡大を踏まえ、議会より市長に対して緊急提言を行う（8月） ・新型コロナウイルス感染症対策として、抗原定性検査（簡易キット）を活用した水際対策の有効性を伝え、全国的な展開とその支援を要望するため、国に対して意見書を提出（8月） ・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」の中期4年間の内容の評価・検証を行い、評価・提言書として市長へ提出（9月） ・社会文教委員会が、日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科の宮國康弘氏を講師に、「フレイル予防対策とその評価について」学ぶ（10月）
令和4年 (2022年)	<ul style="list-style-type: none"> ・飯伊市町村議会議員研修会を開催。同志社大学の新川達郎名誉教授を講師に、「大災害・感染症と議会」について学ぶ（1月） ・災害時や新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況にあっても議会機能を維持していくため、飯田市議会委員会条例や会議規則などの改正を行い、委員会等の会議におけるオンライン会議の実施を可能とした（2月） ・議会として「ロシアのウクライナに対する侵攻を非難する決議」を全会一致で可決。また、戦禍に見舞われたウクライナの人々を支援するため、市議会議員23人全員で、23万円をユニセフ（国連児童基金）に寄付をした（3月） ・「地方議会評価モデル」導入に伴うキックオフ講演会を実施。大正大学社会共生学部公共政策学科教授の江藤俊昭氏を講師に、「地域経営における議会の役割と地方議会評価モデル」について学ぶ（3月） ・4月から「地方議会成熟度評価モデル」の取り組みを開始。飯田市議会の役割（ミッション）や目指すべき姿（ビジョン）等を策定（令和5年3月） ・飯田市議会業務継続計画（議会BCP）の策定（5月） ・契約に係る議会未提出案件及び職員の不適切な事務処理等に関する申入書を市長へ提出（6月） ・新たな広聴の場として「タウンミーティング」を開催（7月） ・「議会報告・意見交換会」をコロナ禍の状況を踏まえ、7ブロック14会場で開催（9月～10月） ・飯田市内を会場に、三遠南信地域市町村議会議長協議会及び道路建設促進議員協議会総会を開催（10月） ・請願・陳情の手引きを作成（11月） ・「リニア駅周辺整備事業土木実施設計に対する政策提言」を市長へ提出（11月） ・政治倫理に関する研修会の開催（12月）
令和5年 (2023年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ジェンダー（社会的性別）について共に考える研修会」を下伊那郡町村議会議長会の共催、飯田商工会議所の協力により実施（1月）

<p>令和5年 (2023年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市議会個人情報の保護に関する条例を制定（3月） ・飯田市議会会議規則及び飯田市議会議員の議員報酬の特例に関する条例を改正（本会議や委員会への欠席事由として育児、看護、介護等を明文化するとともに、出産について産前・産後期間に配慮した規定の整備）（3月） ・「オーケストラと友に音楽祭」の15回記念として、議場でのコンサートを開催（4月） ・第1回臨時会において、熊谷泰人議長・竹村圭史副議長を選出（5月）
-------------------------	---

VI 参考資料

1 都市宣言

① 安全都市宣言

わが国における産業経済の成長と生活文化の向上は、近年著しいものがあり、わが飯田市も近代的生産都市として発展の一翼をにない、市勢も各方面にわたり伸展しつつある。反面、産業災害、交通事故、火災などの各種災害が多発し、日常生活をおびやかされていることは、憂慮にたえないところである。

もとより、災害を防止するための措置は、それぞれの分野において積極的に実施されているが、われわれはさらに進んで市民の生命尊重と、産業文化伸展の理念のもとに、各種の災害をより効果的に防止するため、飯田市各階層を一丸とする市民運動を強力に推進し市民の安全意識の高揚をはかることこそ緊要であると確信する。

われわれは、この際「国民安全の日」制定の意義に沿い、本市における産業・労働・交通・消防・教育・文化・婦人団体など各界の連携をはかり、市民生活のあらゆる面において安全を確保し、明るく住みよい都市建設を目指して、ここに飯田市を「安全都市」とすることを宣言する。

昭和36年6月26日

飯 田 市 議 会

② 明るい選挙都市宣言

民主政治の健全を期するためには、明るい選挙が行わなければならない。即ち、民主政治の基盤は選挙にある。

本市は、さきに公明選挙都市宣言をなし、これが運動を推進し、その実績をあげつつあるとはいえ、なお、遺憾な点なしとはいえない。

よって市民の代表である、本市議会はここに決意を新たにするとともに、市民の希望と熱意を結集し、これが現実を期するため、飯田市を「明るい選挙都市」とすることを宣言する。

昭和40年6月29日

昭和61年6月25日（一部変更）

飯 田 市 議 会

③ 青色申告都市宣言

本市は自主申告納税の理想郷を実現するため、また市民が青色申告の本質を再認識して国民の基本的義務である納税についての思いを新たにし、かつ、その納税意欲の向上をはかって、社会経済の発展に貢献するとともに、市民相互の繁栄と幸福を築くため、ここに飯田市を「青色申告都市」とすることを宣言する。

昭和52年9月21日

飯 田 市 議 会

④ 電波障害防止都市宣言

今日の情報化社会において、テレビ・ラジオは市民生活にとって不可欠のものとなっている。

しかるに、都市の近代化による高層建築物の増加、電気設備などの高度化は電波障害を誘発する要因となっている。

当市議会は、かつて昭和41年9月、他の市町村に先駆けて「電波無雑音都市宣言」を議決し、多大の成果を得て今日にいたっている。

今後、都市の近代化がさらに進む中で発生を免れない電波障害を一掃し、市民の快適な生活環境を築くため、その宣言の精神を一層敷延化して、ここに本市を電波障害防止都市とすることを宣言する。

昭和54年12月21日

飯 田 市 議 会

⑤ シートベルトヘルメット着用都市宣言

飯田市における交通事故は激増の一途をたどり、悲惨な事故のために多くの市民がその犠牲となっており、昭和56年度における人口1万人当りの事故率は55.3人で、県下17市中第1位という極めて憂慮される事態を迎え、事故絶滅は現下の緊急課題である。

交通事故の実態を見ると、シートベルト並びにヘルメットの着用は被害の防止、軽減を図る上で大きな効果が認められているが、その着用率は未だ十分といえない状況である。交通量の増加に伴い、ますます交通事故の危険が迫る現状にかんがみ、運転者のなご一層の交通安全意識を高めるため、ここに「シートベルト並びにヘルメットの着用」を宣言する。

昭和57年12月21日

飯 田 市 議 会

⑥ 非核平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願望である。

しかるに、米・ソ超核大国による核軍拡競争は拡大均衡をめざすという口実でますます激化し、世界の平和と安全に重大な脅威と危機をもたらしている。

わが国は、世界唯一の核被爆国としてこの地球上に広島、長崎の惨禍を再びくりかえしてはならないと訴えるものである。

飯田市は、平和憲法の精神にのっとり、「非核三原則」を将来ともに尊重し、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し、もって世界の恒久平和達成をめざすものである。

ここに、飯田市を「非核平和都市」とすることを宣言する。

昭和59年6月28日

飯 田 市 議 会

⑦ 振替納税推進都市宣言

期限内完納の思想の高揚をはかるため、市民が振替納税の本質を理解して国民の基本的義務である納税意識が向上し、社会経済の発展と市民相互の繁栄に貢献することを願い、ここに飯田市を「振替納税推進都市」とすることを宣言する。

昭和60年6月29日

飯 田 市 議 会

⑧ 暴力団追放都市宣言

飯田市は、美しい自然と長い歴史と伝統文化につつまれた人情豊かなまちとして、平和で明るく住みよいまちづくりに積極的に取り組んでいるところである。

しかしながら、暴力団による不法行為は増加の一途を辿り、暴力団同志によるけん銃発砲事件も発生し、善良な市民生活が脅かされるなど、美しい郷土のイメージが損なわれことは、まことに遺憾であり、強い憤りを感じるものである。

善良な市民の平穏な日常生活と安全を守る立場から全市民の総意を結集し、暴力を是認しない地域づくりにつとめ、すべての暴力の根絶を図らなければならない。

よって、本市議会は、犯罪のない平和な住みよい郷土の建設をめざし、暴力行為を壊滅し、すべての暴力団を追放するため、ここに飯田市を「暴力団追放都市」とすることを宣言する。

昭和61年12月22日

飯 田 市 議 会

⑨ 人権尊重都市宣言

私たちは、だれもが人間らしく幸福に生きる権利を有し、だれからも尊重され、親しまれ、愛されながら豊かに暮らすことを求めています。そして、美しい自然と同様に、だれ隔てなく接する思いやりのある美しい心を持つ市民が明るく生活するまちちを目指して努力しています。

しかし、大変残念なことに、現実には偏見による差別など様々な人権侵害が存在しています。このことは、早急に解決しなければならない重要な課題です。

よって、私たちは基本的人権を正しく理解し、尊重し、人権擁護の良き実践者となるとともに、善意を広め、互いに励まし合い、手を取り合ってあらゆる人権侵害を根絶することを誓うため、ここに飯田市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

平成8年6月24日

飯 田 市 議 会

⑩ 環境文化都市宣言

私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し、「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

平成19年3月23日

飯 田 市 議 会

2 市政提携に関する覚書

長野県飯田市（以下「甲」という）と岡山県津山市（以下「乙」という）は、市政執行の面において相互に啓発し、いっそう市政の伸展と住民福祉の向上を期するため、緊密に提携することを協定し、当面、この目的達成のため、次の事項を実行することを確認する。

記

- 1 この目的達成のため、甲、乙において作成したあらゆる行政事務資料で、相手方の参考になると考えられるものは、相互に送付するものとする。この場合は窓口は、総務課扱いとする。
- 2 甲、乙は、必要に応じて協議の上、相互に研修のため職員を派遣することができる。この派遣職員の滞在に要する経費は、それぞれ派遣する側の負担とする。ただし、執務に要する事務的経費は、委託を受けた側が負担する。
- 3 この協定書以外の特別な事項で必要があると認めるときは、その都度双方協議のうえ、決定する。

以上この協定を証するため、覚書2通を作成し、甲・乙各1通を保有する。

昭和44年3月25日

甲	飯田市長	清水重美
乙	津山市長	生末敏夫

3 友好都市締結

盟 約 書

日本国長野県飯田市とフランス共和国アルデンヌ県シャルルヴィル・メジエール市は、共に古きよき伝統を有し、人形劇芸術において重要な役割を果たしつつある。

両市の市民と市民が構成するさまざまな組織間の相互理解と友情を深めることにより、日本国とフランス共和国の親善を促進し、世界の平和に貢献することを希求し、ここに両市が友好都市として提携することを盟約する。

昭和63年8月5日

日本国 長野県
飯田市
市長 松澤 太郎

フランス共和国アルデンヌ県
シャルルヴィル・メジエール市
市長 ロジェ・マス

4 飯田市の主要年表

年 月	事 項
昭和12. 4	飯田・上飯田町合併 飯田市誕生 人口31,289人
5	第1回市議会議員選挙
6	飯田市初議会で、市長に野原文四郎氏を推挙
14. 11	市瀬泰一氏第2代目市長に就任
17. 5	市議選翼賛選挙で無投票当選
18. 8	伊那電鉄など飯田線となる
19. 12	県立飯田保健所開所
21. 4	戦後初の衆議院選挙 飯田市の人口33,772人
7	飯田駅前大火
22. 4	公選による知事、市長選。高田茂氏当選 第4代目市長に
4	飯田市大火 市街地の3分の2を焼失
23. 3	飯田市消防本部、消防署発足
26. 12	飯田市立病院開院
28. 11	りんご並木の植付始まる
29. 4	飯田長姫高校全国高校野球選抜大会で優勝
10	飯田市公民館、復興記念館開館
30. 4	市長選に松井卓治氏当選、第5代目市長に就任
31. 9	飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村、下久 堅村が合併、新飯田市発足
31. 10	合併初の市議会 飯田市公民館で開催、議員数145名 合併後の市長選 松井卓治氏無投票当選
32. 4	松井市長、鼎町と上郷村へ合併を申入れる
34. 7	飯田市下水処理場供用開始。県下初、全国で6番目
35. 7	飯田市民プール完成
36. 3	川路村を合併
6	梅雨前線豪雨伊那谷を襲う 死者11人 行方不明5人
37. 10	建設大臣伊那谷の災害地を視察
11	飯田市役所新庁舎落成
38. 10	低開発地域工業開発地区に指定される
12	りんご並木後援会発足
39. 3	龍江村、千代村、上久堅村を合併
40. 7	市立病院新館落成
9	組合立、飯田衛生センター落成
12	老人ホーム川路寮開設
41. 1	市議会、地財法準用を議決
10	中央自動車道杭打式（今宮球場附近）

年 月	事 項
昭和42. 5	飯田勤労者福祉センター開館
9	飯田市議会 財政再建のため議員報酬5割削減可決
11	りんご並木15周年記念式典を行う
11	市制施行30周年記念式典を行う
43. 4	飯田市・鼎町・上郷村消防組合発足
5	りんご並木、NHK総合テレビで放映される
8	飯田市・鼎町・上郷村下水道組合発足
10	市長選に清水重美氏当選 第6代目市長に
44. 3	岡山県津山市と市政業務提携
8	36年災害復旧状況視察のため皇太子御夫妻来飯
11	飯伊地域広域行政市町村圏協議会設立
45. 2	飯田市・鼎町・上郷村上下水道組合発足
11	大平部落解散式
11	飯田卸売団地開設
46. 3	飯田・鼎・上郷消防組合発足
6	名誉市民日夏耿之介氏死去 行年81才
6	市議会、生活改善推進を議決
8	りんご並木の碑除幕式
47. 4	飯田文化会館竣工
10	市長選に松澤太郎氏当選 第7代目市長に
49. 3	飯田市農業協同組合発足
5	松川ダム完成、妙琴浄水場通水式
50. 1	飯田中央農業協同組合発足
6	飯伊特別養護老人ホーム「飯田荘」完成
8	中央自動車道西の宮線開通（中津川一駒ヶ根間）
51. 2	鼎町・上郷町へ合併の申し入れをする
3	市議会議員定数を30人に削減
10	松尾終末処理場供用開始
11	飯田市公民館竣工
52. 5	飯田市総合運動場、勤労者体育センター完成
6	市民憲章制定
53. 10	第33回国民体育大会「やまびこ国体」開催（ラグビー会場）
12	飯田市基本構想、基本計画策定
54. 7	飯伊モデル定住圏地域の指定を受ける
8	人形劇カーニバル始まる
12	飯田市墓地霊園、桐林に完成

年 月	事 項
昭和55. 3	市営弓道場移転完成
4	橋北コミュニティ防災センター完成
56. 4	飯田地区広域消防組合発足（松川町・喬木村・大鹿村・豊丘村・高森町・清内路村・阿智村が加入）
9	鼎町早期に合併したいとの回答
57. 3	飯田市武道館完成
7	上郷町に再度合併の要請
8	飯田まつりに新曲「りんごん」を踊る
11	中央自動車道西宮線全線開通
12	飯田市・鼎町両議会合併協議会設置を可決
58. 1	第1回飯田市・鼎町合併協議会開かれる
3	飯田市保健センター完成
9	台風10号大きな被害を受ける
59. 2	座光寺小学校完成
3	橋南にコミュニティ防災センター完成
	龍江公民館、支所完成
8	飯田市と鼎町との合併調印式
12	鼎町と合併
60. 3	天竜川治水基本協定の調印
4	旭ヶ丘中学校の開校
4	鼎町と合併後初の市議選
5	「三遠南信道路」3県レベル同盟会の設立
10	「美術博物館」基本構想委員会発足
61. 3	座光寺公民館・支所完成
8	人形劇アジア会議開催
10	飯田消防署新庁舎完成
12	北方地区土地区画整理事業着工
62. 1	飯田市立病院新副院長人事発令
2	飯田工業技術センター完成
3	イタチガ沢埋立地完成
	丸山地区土地区画整理事業着工
4	飯田コンピュータ専門学校開校
8	飯田市子ども議会開催
10	市制施行50周年記念式典
11	りんご並木ヘニュートンのりんごの木、国道153号線バイパスへりんご植付
12	飯田市基本構想、基本計画策定

年 月	事 項
昭和63.	3 市道知久町中村線・国道153号線バイパス第1工区竣工
	6 飯田市・上郷町両議会合併協議会設置可決
	7 第1回飯田市・上郷町合併協議会開かれる 人形とけい塔ハミングパル並木通りに設置
	8 シャルルビル・メジュール市と友好都市提携 飯田人形劇場開館 世界人形劇フェスティバル開催
	10 飯田市美術博物館10月1日落成式 市長選に田中秀典氏当選 第8代目市長に
平成元.	3 飯田衛生施設組合 桐林クリーンセンター完成 飯田運動公園県営飯田野球場完成
	6 桐林運動広場完成
	8 アフィニスセミナー開催 山梨リニア実験線、建設正式決定 三遠南信自動車道、程野・飯田東IC間のルート公表
1.	9 伊那谷高速交通フェア開催 第2. 4土曜日の閉庁実施
	10 飯田市美術博物館開館
	11 飯田市立病院、総合病院となる
	12 飯田勤労者総合福祉センター完成
2.	3 松尾公民館・支所完成
	4 名勝天竜峡温泉利用開始
	8 新病院本体建設着工
	11 新し尿処理場着工
	12 県議定数（飯田地区）2人から3人に
3.	1 市営駐車場30分無料化
	2 テレトピアモデル都市に指定
	3 千代診療所完成
	7 飯田市斎苑完成、動物炉が新設される
	9 今田人形座が仏国で開催の人形劇世界フェスに出演
	10 飯田工業高校跡地一帯が建設省「平成記念子供のもり公園」に指定される
	12 飯田農協と飯田中央農協が合併「信州いいだ農協」が誕生
4.	2 天竜川治水対策事業起工式が行われる
	3 飯田市で初の「かなえデイサービスセンター」完成 国道153号線バイパス第2工区と飯田下山線開通 飯田運動公園弓道場竣工

年 月	事 項
平成4. 3	飯田市有線放送局閉局
4	オフトーク通信事業開始 かなえデイサービスセンター開所 飯田ふれあい農園開園
6	オフトーク通信による議会本会議生中継開始 緑ヶ丘中学校プール完成
7	新し尿処理場「飯田竜水園」運転開始 伊賀良「育良町」誕生
9	新市立病院竣工式
10	国道153号線バイパス新市立病院まで開通 新市立病院開院（外来診療開始）
12	飯田市・上郷町合併調印式 飯伊地域が地方拠点都市第一次指定される
5. 1	地方拠点都市整備計画策定室設置
2	丸山羽場第2地区区画整理事業起工式
3	男女共同参画型社会をめざして「信州飯田女性プラン」（女性行動計画） まとまる 上久堅福祉企業センター竣工
4	市役所の業務が毎週土曜日閉庁となる
6	飯田駅前にアイパーク竣工
7	上郷町と合併し、人口が106千人となる
8	人形劇カーニバル15周年を迎える アフィニスセミナー5周年を迎える
10	飯田のシンボル「りんご並木」が40周年を迎える 浜松市のフルーツパークに飯田のりんごの苗木が植樹される また両市の美術館で所蔵品の交換展を開催 特別養護老人ホーム第二飯田荘が開所
12	飯伊地方拠点都市地域基本計画が知事承認を受ける
6. 2	三遠南信地域の振興を考える「三遠南信サミット」が浜松で開かれる 天竜川治水対策事業、龍江側で盛土工事本格着工
3	三遠南信自動車道「矢筈トンネル」供用開始 山本公民館、支所竣工
4	今田人形の館竣工 飯伊広域行政組合発足 オフトーク通信事業の放送業務を民間委託
6	ゆとり宣言都市指定モニュメント「ゆとり創造の樹」完成

年 月	事 項
平成6. 9	飯田市議長が友好都市フランスのシャルルヴィル・メジエール市を訪問
10	飯田市議会だより100号記念発行 飯田市総合運動場全面改修工事竣工
12	国土利用計画（飯田市計画）策定議決
7. 2	中心市街地から「西友」撤退 阪神大震災被災地へ支援 飯田市下水道整備計画策定
4	北部・竜東デイサービスセンター開所 天竜峡活性化センター「あざれあ」開館
7	飯田運動公園プール「アクアパーク I I D A」竣工 飯田市立病院に併設の伝染病棟隔離病舎（飯伊広域行政組合）供用開始
8	戦後50年平和祈念事業を開催（8～11月）
10	「三遠南信サミット&シンポジウム i n 飯田」開催 第41回風越登山マラソン開催（7年ぶりに復活）
12	飯田市議会12月定例会で条例定数は現行31人で議決 飯田農業振興地域整備計画を変更、都市計画の用途地域も変更
8. 2	天竜川治水対策事業、川路、竜丘側築堤工事起工式 市民構成劇「かごこし姫となかまたち」上演
3	市議会本会議で「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」否決
4	飯田市農政プラン策定 第4次基本構想・基本計画「環境文化都市をめざして」策定 飯田市工業振興マスタープラン策定 飯田やまびこマーチ10周年
5	矢高共同調理場竣工
6	人権尊重都市宣言 「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」可決
7	市役所組織機構改革が実施される（7月1日より）
12	さんとびあ飯田竣工 信州飯田ふるさと大使館開館 21' いいだ環境プラン策定
9. 2	ハートヒル川路竣工
4	市制施行60周年
5	市議会改選
5	市誌編さん委員会誕生
7	太陽光発電に無利子融資

年 月	事 項
平成9.	7 エコタウン地域に指定される
	8 全国夏期巡回ラジオ体操会
	10 世界地方都市十字路会議
	12 J Aみなみ信州発足
平成10.	2 市民バス運行開始
	2 長野オリンピック冬季競技大会開催
	3 長野パラリンピック冬季競技大会開催、飯田市より2人参加
	3 議員の各種審議会報酬辞退を全会一致で可決
	4 天竜川治水対策・龍江側工事完成
	6 飯田市役所ISO14001を取得する方針決定
	第1回飯田市藤本四八写真文化賞 (芳賀日出男さん、宮島功さん、南島孝さん受賞)
	8 第20回人形劇カーニバル (20回を記念して世界人形劇フェスティバル開催)
	第10回アフィニス夏の音楽祭ロストロ・ポーグイチ氏を迎え開催
平成11.	3 市議会「政策調査研究部会」報告(農業振興・交通施策・観光施策3部会の平成9年・10年度の2カ年の研究報告) 病院問題特別委員会審査終了 飯田工業技術研修施設・EMCセンターオープン りんご並木リニューアル
	4 飯伊広域行政組合を継承、発展する形で南信州広域連合設立
	7 よこね田んぼ「日本の棚田100選」に選ばれる
	12 ごみ処理費用負担制度開始
平成12.	1 I S O 14001認証取得
	3 市議会「政策調査研究部会」報告(地方分権・I S O・工業振興3部会の平成12年度の1カ年の研究報告)
	4 介護保険制度がスタート
	7 丸山羽場地区区画整理事業第1地区完成
	10 三遠南信パテントメッセ・EMCシンポジウムと工業技術交流相次ぐ
平成13.	1 観測開始以来の大雪に見舞われ市民生活に大きな影響が出る
	3 政務調査費の交付に関する条例の制定
	4 市議会改選
	7 橋南第1地区再開発ビル「トップヒルズ本町」完成
	8 地域交流センター「りんご庁舎」オープン
	10 いいだFM開局
	11 りんご並木「かおり風景100選」に選ばれる

年 月	事 項
平成14. 4	平成記念かざこし子どもの森公園開園
9	天竜川治水対策事業完成
10	菱田春草作「菊慈童」を購入
平成15. 1	ISO14001自己適合宣言
3	市議会「在り方研究会」「合併問題調査研究会」報告(半年間の研究報告) 「環境首都コンテスト」人口規模別第1位、総合第4位
5	南信州グリーンツーリズム特区取得
8	飯田市・喬木村・上村・南信濃村の4市村、任意合併協議会設立
10	りんご並木50周年記念事業
12	飯田市歴史研究所オープン
平成16. 1	橋南第2地区市街地再開発ビル着工
2	第1回ほんもの体験フォーラムin南信州の開催
3	オーライ!ニッポン大賞グランプリ内閣総理大臣賞受賞
3	飯田お練りまつり盛大に開催
5	「わがまちの“憲法”を考える市民会議」の発足
5	第12回環境自治体会議「いいだ会議」開催
6	自治体環境グランプリ環境大臣賞受賞
7	市立病院が地域医療支援病院として県から承認を受ける
10	飯田市長選で、牧野光朗新市長誕生
平成17. 4	地域経済活性化プログラム2005を策定、農業課と農業委員会の事務所移転
6	国際自転車レース「第9回ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージ」を開催
7	高校統廃合問題に関連し、鼎公民館で「高校改革シンポジウム」を開催
10	上村及び南信濃村と合併
10	日独地域国際化サミットを飯田市で開催
平成18. 4	飯田やまびこマーチ20回記念大会 結いターンキャリアデザイン室を設置
6	一般廃棄物最終処分場(千代地区)の建設工事開始
9	飯田市自治基本条例の制定
10	橋南第二地区市街地再開発ビル トップヒルズ第二オープン
平成19. 3	第5次基本構想基本計画と環境文化都市宣言を可決 川本喜八郎人形美術館オープン 市制70周年記念式典を開催
4	飯田市自治基本条例、地域自治区、第5次基本構想基本計画、総合的土地利用計画、行財政改革大綱など地域の自立に向けた新しい枠組みスタート 全国さくらシンポジウムin飯田開催
11	南信濃地域交流センター完成

年 月	事 項
平成19. 11	市議会が、「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞 飯田市自治基本条例の制定の取り組みが評価される
平成20. 4	三遠南信自動車道飯喬道路1工区（飯田山本IC～天竜峡IC）が供用開始
6	天龍峡再生元年として天龍峡百年再生館オープン
7	市政懇談会に合わせて、初の議会活動報告会を市内20地区で開催
8	北京オリンピックに、飯田市出身初の選手として矢澤一輝選手がカヌースラローム競技に出場 人形劇のまち30年を記念して「世界人形劇フェスティバル・いいだ人形劇フェスタ2008」を開催 アフィニス夏の音楽祭が20回をもって終了
9	市議会による行政評価が初めて行われ「施策及び事務事業に対する提言書」を市長に提出
10	飯田市・南信州広域連合・みなみ信州農協が共同で運営するマーケティングショップ「南信州ファームプロダクツマーケット」を名古屋市内にオープン、地元旬の農産物の販売や地域への産地ツアーを企画
11	市内を6ブロックに分け、2回目の議会報告会を開催、市民487名が参加
平成21. 1	飯田市が内閣府から環境モデル都市に選定
3	グリーンバレー千代（最終処分場）竣工
4	市内の商工会議所、商工会が統合され新しい飯田商工会議所が誕生
5	オーケストラと友に音楽祭開催
7	飯田下伊那市町村による定住自立圏形成協定書の合同調印式
8	市企画部内に「リニア推進対策室」が設置される
10	飯田北部地区の農免道路が開通（上郷丹保地区～高森町下市田地区） 低炭素社会実現に向け「レンタサイクル事業」開始
11	新型インフルエンザが流行
平成22. 2	メガソーラーいいだ太陽光発電所 飯田市と中部電力(株)で共同建設することについて協定を締結
3	飯田お練りまつり 約32万人 42団体が参加
4	リニア中央新幹線推進本部設置（市役所内）
5	介護保健施設ゆうゆう 竣工
6	日本の環境首都コンテスト2009（第9回）で飯田市が総合2位（昨年3位）
7	集中豪雨による土砂災害（南信濃で昭和58年に次ぐ観測史上2番目となる223mmの降水量 土砂崩れや建物の全壊、床下浸水などの被害）
9	天龍峡盆踊りが25年ぶりに復活
10	定住自立圏全国市町村長サミット2010in南信州が開催
平成23. 1	メガソーラーいいだ太陽光発電所 運用開始

年 月	事 項
平成23.	1 飯田大学連携会議「学輪IIDA」の設立
	3 東日本大震災発生。避難者の受け入れ
	3 飯田市美術博物館デジタルプラネタリウムを導入
	5 国土交通大臣が全国新幹線鉄道整備法に基づき、 リニア中央新幹線の整備計画を決定
平成23.	6 三六災害から50年。三六災害50年シンポジウム開催 日本の環境首都コンテストで「明日の環境首都賞」を受賞
	9 フランス シャルルヴィル・メジエール市に「飯田通り」誕生
	9 菱田春草没後百年 飯田市美術博物館で「没後百年記念特別展」開催
	12 第5次飯田市基本構想後期基本計画策定
平成24.	4 飯田市立動物園リニューアルオープン（ちびっこランド） 8月にはペンギン舎、10月にはコンドル舎がリニューアル
	5 エコハウスがJIA環境建築賞住宅部門で優秀賞を受賞
	7 第10回スローライフまちづくり全国都市会議（スローライフサミット）開催
	8 ロンドンオリンピックに、飯田市出身の矢澤一輝選手がカヌースラローム 男子カヤックシングルで、北京大会に続き出場
	11 市議会が、第7回マニフェスト大賞地方議会部門最優秀成果賞受賞 議会による行政評価及び議会報告会の実施が評価される
平成25.	3 東和町交差点を周辺の改良工事にあわせ、全国で初めて信号機付交差点から ラウンドアバウト方式に変更して整備
	4 「地域環境権」をうたう飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な 地域づくりに関する条例が施行
	4 市役所新庁舎建設工事着工
	8 人形劇フェスタ15周年を記念しアジア人形劇フェスティバルを開催
	9 リニア中央新幹線のルート及び飯田市内への駅設置の決定が発表される
平成26.	2 観測史上最多の積雪深81cmを記録 中央自動車道の通行止め、農業生産 施設の被害等市民生活に多大な影響を及ぼす
	3 恒川官衙遺跡（座光寺地区）が、国史跡に指定される 飯田市立病院周産期センター、がん診療・緩和ケアセンター竣工
	6 南アルプス（飯田市では上村、南信濃地区）がユネスコエコパークに登録さ れる
	10 航空宇宙産業クラスター拠点工場完成 リニア中央新幹線（品川・名古屋間）の工事实施計画が認可される
	12 市役所新庁舎完成
平成27.	1 市役所新庁舎開庁し業務を開始
	2 長野県内初の左右対面式議席の新たな議場で初めての市議会定例会を開催）

年 月	事 項
	3 菱田春草生誕140周年記念事業が行われる、菱田春草生誕地公園が仲ノ町に完成、美術博物館では菱田春草の特別展、ワークショップ、シンポジウム等を開催
	4 パスポート窓口を市役所庁舎内に開設
	4 リニア中央新幹線中心線測量開始
	7 こども家庭応援センター「ゆいきっず」が開所
	9 飯田市長、市議会議長が友好都市フランスのシャルルビル・メジェール市を訪問し、A V I A M A（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を招致、平成30年に飯田市で開催されることが決定
	10 マイナンバー制度が始まる
	10 国道152号小道木バイパスが開通
平成28.	3 数えて7年に1度の飯田お練りまつりが開催され、35万の人出で賑わう
	4 教育長に代田昭久教育長が就任
	4 高校生世代までの医療費が無料に（年度末年齢18歳以下の子ども）
	5 飯田市リニア関連事業現地事務所（相談窓口）を上郷飯沼に設置
	6 農地転用許可が市に権限移譲（6月1日付で指定市町村に指定）
	7 「市田柿」が地理的表示（G I）保護制度に県内で初めて登録される
	9 飯田産の地酒および果実飲料で乾杯する条例を市議会が提案し制定
	10 飯田古墳群が国史跡指定、恒川官衙遺跡が追加指定
	10 52年ぶり2期連続無投票で牧野光朗市長が当選。4期目の市政をスタート
	11 市役所庁舎整備事業が全て完了（平成25年4月着工）
	11 天皇皇后両陛下が私的御旅行のため飯田下伊那地域をご訪問（天龍峡、りんご並木、阿智村 満蒙開拓平和記念館）
	12 「地域ぐるみ環境 I S O 研究会」設立20周年記念
平成29.	4 飯田市総合計画「いいだ未来デザイン2028」スタート
	4 旧飯田工業高校施設を活用した「産業振興と人材育成の拠点」において、信州大学航空機システム共同研究講座が開講される
	4 天龍峡温泉交流館リニューアルオープン
	5 上郷北条地区のリニア駅予定地への幅杭設置が開始される
	6 「信州・伊那谷(ローカル)の個性で世界(グローバル)を惹きつけ、世界へ発信する玄関口(ゲートウェイ)」を基本理念としたリニア駅周辺整備基本計画が策定される
	8 市制施行80周年記念事業としてタイムカプセルを掘り起こし
	9 飯田市美術博物館で菱田春草記念常設展示がスタート
	10 市制施行80周年記念式典が開催される
	12 南信州広域連合稲葉クリーンセンター竣工(燃やすごみの処理が桐林クリーンセンターから移行)

年 月	事 項
平成30.	2 市内で最初のリニア工事（中央アルプストンネル松川工区）が着工
	3 三遠南信自動車道飯喬道路の龍江～上久堅間が開通
	3 飯田市立病院に放射線治療専門棟（リニアック棟）が竣工し、新たに導入したがん放射線治療装置（リニアック）が稼働
	4 上村小学校が小規模特認校に認定され、区域外からの児童の通学が始まる
	8 満18歳までの子どもの医療費の窓口無料化を開始
	8 新人形とけい塔「ハミングパル」が完成
	8 世界人形劇フェスティバル開催 （いいだ人形劇フェスタ20周年・前身の人形劇カーニバル飯田から40周年）
	8 AVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を飯田市で初開催
	8 シャルルヴィル・メジュール市との友好都市提携30周年を記念して、「シャルルヴィル・メジュール通り」命名式等の記念式典を開催
	10 吾妻町と東和町の2つのランドアバウトが2018年度グッドデザイン賞を受賞
	11 特養飯田荘が「ゆとびいいだ」としてリニューアルオープン
平成31.	1 南信州広域連合が座光寺の旧飯田工業高校施設を改修・整備し、公益財団法人
(2019)	南信州・飯田産業センターが指定管理者となった、産業振興と人材育成の拠点「エス・バード」が開所 3月にオープニングイベントを開催
	2 下久堅ふれあい交流館が完成
	3 上郷自治振興センター・保健センターが完成
令和元.	7 美術博物館開館30周年 自然・文化展示室がリニューアル
(2019)	9 市長ほか関係者がシャルルヴィル・メジュール市を訪問し、AVIAMA総会に出席 リニア駅周辺整備基本設計（案）が公表 災害時の相互応援協定に基づき台風第15号の被災地である千葉県君津市に災害支援を実施
	10 飯田市総合運動場がリニューアルオープン 消費税率の引上げにともない飯田市プレミアム付き商品券の販売事業を実施
	11 三遠南信自動車道天龍峡IC・千代IC・龍江ICが開通 「そらさんぽ天龍峡」「よって館天龍峡」を整備 台風第19号の県内被災地に対して災害支援を実施
令和2.	2 飯田市新型コロナウイルス感染症対策本部の設置
(2020)	3 都市計画道路羽場大瀬木線（切石～北方工区）の開通
	5 地域外来・検査センター開所（新型コロナウイルス感染症の検査体制の充実）
	7 梅雨前線の停滞による豪雨災害（累積で飯田地域に600mm以上、南信濃地区に80

- 0mm以上の降雨量 土砂崩れや住宅の半壊、床下浸水などの被害)
- 9 市内全小中学生（約8,000名）に学習者用パソコン貸与
- 10 市長選に佐藤健氏当選 第10代目市長に
リニア事業関連による丹保・北条地区代替地の分譲開始
- 令和3. 1 EV（電気）バス運行実証開始
- 3 2050年いいだゼロカーボンシティ宣言
座光寺スマートインターチェンジの供用開始
- 9 リニア中央新幹線 中央アルプストンネル松川工区で作業用トンネル掘削開始
- 10 菱田春草没後110年特別展開催
- 令和4. 4 教育長に熊谷邦千加教育長が就任
恒川史跡公園「清水エリア」供用開始
橋南公民館がりんご庁舎に移転
- 5 丘の上結いスクエア内にムトスぷらざがオープン
- 6 新文化会館整備検討委員会発足
- 8 リニア中央新幹線 中央アルプストンネル松川工区本線トンネル掘削工事開始
- 10 マイナンバーカードによるコンビニ交付を開始
- 11 脱炭素先行地域に選定
- 12 リニア中央新幹線「長野県駅（仮称）」起工式が行われる
- 令和5. 2 信州ガス㈱と「飯田市地域見守り活動に関する協定」を締結
- 3 中部電力㈱と「脱炭素先行地域の構築に係る基本協定」を締結
- 5 飯田市立動物園70周年記念式典を行う

飯田市市歌

堀内 敬三 作曲
宮脇 至 作詞
西條 八十 補

一、山はアルプス赤石の

峯にかがやくしらゆきを

高き心のすがたとあおぎ

かける理想よ我らが飯田

二、谷は伊那谷天竜の

あぐるしぶきにたつ虹を

清き命の泉となして

希望もえたつ我らが飯田

三、南信濃に伝統の

文化花咲く美し町

協す力にいぶきも新た

のびよ久遠に我らが飯田

飯田市歌

犬塚 利国 作詞
飯田 景応 編曲

一、山紫に 水明らか

生業栄え 人皆和して

希望の光 遍く充てり

げに飯田市の 輝く天地

二、南信濃の 陽は照り映えて

四季行楽に 名を負うところ

觀光都市の 誉れも添ひて

げに飯田市の 輝く前途

三、落葉に残す 千古の偉業

烈婦偲ぶ 不断の煙り

大儒の松風 今なお高し

げに飯田市の 輝く誇り

四、ああ天恵に 幸負う我等

協同進取の 旗なびかせて

目指すは彼方 久遠の理想

げに飯田市の 輝く使命

飯田市議会要覧 令和5年度版

発行日 令和5年6月発行

編集・発行 飯田市議会事務局
〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地
TEL 0265-22-4523（直通）
0265-22-4511（代表 内線5611）
FAX 0265-53-8821
E-mail igikai@city.iida.nagano.jp
URL <https://www.city.iida.lg.jp/>